

西都市埋蔵文化財発掘調査報告書 第44集

## 西都原地区遺跡Ⅱ

農業基盤改良事業(たばこ耕作天地返し)に伴う埋蔵文化財  
発掘調査〔市内遺跡発掘調査事業〕

2006

宮崎県西都市教育委員会

## 序

西都市教育委員会では、平成10年度から平成15年度まで、農業基盤改良事業（たばこ耕作天地返し）に伴う発掘調査を実施いたしました。本書は、その発掘調査の本報告であります。

今回の調査では、寺原地区において、大集落跡の存在が想定される古墳時代前半を中心とした竪穴式住居跡群が検出されました。また、弥生時代後期から終末期の竪穴式住居跡が各地点から検出されたのに加え、中世の掘立柱建物跡群等も検出することができました。さらに、縄文時代早期の遺構・遺物も検出され、古い時代から生活の適地として利用されていたことを再確認することができました。

いずれにしても、これらは貴重な発見であり、少しずつではありますが西部原の謎を解く資料が得られ、大きな成果をあげることができました。

本報告が考古学の研究のみでなく、社会教育や学校教育の面にも広く活用されるとともに、埋蔵文化財に対する理解と認識を深めるための資料となれば幸いと存じます。

なお、調査にあたってご指導・ご協力をいただいた方々をはじめ、発掘調査・整理作業にたずさわったいただいた方々、並びに地元の方々に衷心から感謝申し上げます。

平成18年3月31日

西都市教育委員会

教育長 三ヶ尻 茂樹

## 例 言

1. 本書は、西都市教育委員会が国庫補助を受けて、平成10年度から平成15年度までたばこ耕作の天地返しに伴い実施した市内遺跡発掘調査（西都原地区遺跡）の本報告書である。
2. 発掘調査は西都市教育委員会が主体となり実施した。
3. 本書使用の遺構実測図及び浄書は葺方が行った。
4. 本書使用の遺物実測図は葺方が作成した。
5. 本書の掲載した遺構・遺物写真は葺方が撮影した。また、遺跡の空中写真は年次別に㈱スカイサーベイ九州と九州航空株式会社の2業者に委託して行った。
6. 本書の執筆・編集は葺方が行った。
7. 本書に使用した方位は、図10が平面直角座標系第II座標系であり、その他は磁北である。
8. 本書に使用した標高は、海拔絶対高である。
9. 本書に使用した色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局ほか監修の『新版 標準土色帳』に準拠した。

# 目 次

第Ⅰ章 序 説	
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の体制	1
第Ⅱ章 遺跡の位置と歴史的環境	
第1節 概要	3
第2節 本報告に関連する周辺の主な遺跡	3
第Ⅲ章 現況と調査区の設定	
第1節 現況	11
第2節 調査区の設定	11
第3節 基本層序	12
第Ⅳ章 調査の記録	
第1節 平成10年度の調査	
1. 第8地点	17
2. 第10・11・14地点	20
3. 第17地点	20
4. 第24地点	20
第2節 平成11年度の調査	
1. 第10・11地点（本調査）	23
2. 第14地点（本調査）	29
3. 第26地点（本調査）	34
第3節 平成12年度の調査	
1. 第39地点	39
2. 第51地点	39
3. 第52地点	41
4. 第53地点	44
第4節 平成13年度の調査	
1. 第60地点	46
2. 第62地点	48
3. 第65地点	49
第5節 平成14年度の調査	
1. 第65地点（本調査）	50
2. 第69地点	57
3. 第72地点	57
4. 第74地点	58
第6節 平成15年度の調査	
1. 第69地点（本調査）	61
2. 第81地点（本調査）	68
第Ⅴ章 ま と め	93

# 表 目 次

表 1 主な検出遺構一覧表

表 2 出土遺物観察表

## 挿 図 目 次

- |  |                                     |
|--|-------------------------------------|
| 図 1 寺原第1遺跡住居跡実測図                           | 図22 第10・11地点出土遺物実測図 (1/4・1/2)       |
| 図 2 新立遺跡遺構分布図 (1/1,000)                    | 図23 第14地点周辺位置図 (1/800)              |
| 図 3 新立遺跡2号住居跡・出土遺物実測図                      | 図24 第14地点遺物分布図 (1/200)              |
| 図 4 西都原地区遺跡2号小道路SA1・出土遺物実測図 (1/120・1/12)   | 図25 第14地点出土遺物実測図 (1/4・1/2)          |
| 図 5 # 8号支線道路SA1～SA3実測図 (1/400・1/120)       | 図26 第14地点消失円墳周溝実測図 (1/100)          |
| 図 6 西都原地区遺跡E区遺構分布図                         | 図27 破砕瓦実測図 (1/20)                   |
| 図 7 # 27号支線道路住居跡・出土遺物実測図 (1/320・1/24・1/12) | 図28 消失円墳周溝層序図 (1/20)                |
| 図 8 # 39号支線道路SA1・出土遺物実測図 (1/120・1/8)       | 図29 第14地点消失円墳周溝内出土遺物実測図 (1/4)       |
| 図 9 酒元遺跡遺構分布図 (1/500)                      | 図30 第26地点遺構分布図 (1/200)              |
| 図10 西都原古墳群周辺位置図 (1/25,000)                 | 図31 1号掘立柱建物跡実測図 (1/100)             |
| 図11 基本層序図                                  | 図32 2～4号掘立柱建物跡実測図 (1/100)           |
| 図12 西都原地区遺跡調査区域(地点)図 (1/5,000)             | 図33 5～7号掘立柱建物跡実測図 (1/100)           |
| 図13 西都原地区遺跡遺構分布図 (1/5,000)                 | 図34 8・9号掘立柱建物跡実測図 (1/100)           |
| 図14 第8地点調査状況(トレンチ)図 (1/600)                | 図35 第26地点出土遺物実測図 (1/4)              |
| 図15 第8地点住居跡・出土遺物実測図 (1/40・1/4)             | 図36 第39地点住居跡実測図 (1/40)              |
| 図16 第8地点住居跡内出土遺物実測図 (1/4)                  | 図37 第39地点住居跡内出土遺物実測図 (1/4)          |
| 図17 第17地点住居跡・出土遺物実測図 (1/40・1/4・1/2)        | 図38 第51地点住居跡実測図 (1/40)              |
| 図18 第24地点住居跡実測図 (1/40)                     | 図39 第51地点住居跡内出土遺物実測図 (1/4)          |
| 図19 第10・11地点遺構分布図 (1/800)                  | 図40 第52地点土壌墓・出土遺物実測図 (1/20・1/4)     |
| 図20 第10地点集石遺構実測図 (1/40)                    | 図41 第53地点掘立柱建物跡・出土遺物実測図 (1/100・1/4) |
| 図21 第10・11地点集石遺構実測図 (1/40)                 | 図42 第60地点調査状況(トレンチ)図 (1/800)        |
|  | 図43 第60地点住居跡・出土遺物実測図 (1/40・1/4)     |
|  | 図44 第62地点住居跡実測図 (1/40)              |
|  | 図45 第62地点住居跡内出土遺物実測図 (1/4)          |

- 図46 第65地点遺構分布図 (1/200)
- 図47 第65地点集石遺構実測図 (1/40)
- 図48 1号・2号住居跡実測図 (1/80)
- 図49 3号住居跡実測図 (1/80)
- 図50 1号住居跡内出土遺物実測図 (1/4)
- 図51 2号住居跡内出土遺物実測図 (1/4)
- 図52 第72地点獨立柱建物跡実測図 (1/100)
- 図53 第74地点調査状況 (トレンチ) 図 (1/800)
- 図54 第74地点住居跡・出土遺物実測図 (1/80・1/4)
- 図55 第74地点住居跡内出土遺物実測図 (1/4)
- 図56 第69地点遺構分布図 (1/200)
- 図57 第69地点集石遺構実測図 (1/40)
- 図58 第69地点出土遺物実測図 (1/4・1/2)
- 図59 第69地点1号住居跡・5号土壌墓実測図 (1/40)
- 図60 1号住居跡内出土遺物実測図 (1/4)
- 図61 2号住居跡・出土遺物実測図 (1/40・1/4)
- 図62 第69地点土壌墓・出土遺物実測図 (1/40・1/4)
- 図63 第81地点遺構分布図 (1/200)
- 図64 1号住居跡・出土遺物実測図 (1/60・1/4)
- 図65 2号住居跡・出土遺物実測図 (1/60・1/4)
- 図66 3号・4号住居跡実測図 (1/60)
- 図67 3号・4号住居跡内出土遺物実測図 (1/4)
- 図68 4号住居跡内出土遺物実測図 (1/4)
- 図69 5号住居跡・出土遺物実測図 (1/60・1/8・1/4)
- 図70 6号～8号住居跡実測図 (1/60)
- 図71 6号・7号住居跡内出土遺物実測図 (1/4)
- 図72 7号住居跡内出土遺物実測図 (1/4)
- 図73 8号住居跡内出土遺物実測図 (1/4)
- 図74 1号住居跡内墨書土附実測図 (1/4)

## 図 版 目 次

- 図版 1 1. 西都原地区遺跡全景 (真上より)
2. 西都原地区遺跡全景 (北より)
- 図版 2 3. トレンチ内調査状況 (第1地点)
4. サプトレンチ内調査状況 (第1地点)
5. 第8地点住居跡内遺物出土状況
6. 第8地点住居跡検出状況
7. 西都原遺跡遠景 (北より)
8. トレンチ内調査状況 (第14地点)
9. 第17地点住居跡検出状況
10. 第24地点住居跡検出状況
- 図版 3 11. 第10・11地点遠景 (東より)
12. 第10地点1号集石遺構検出状況
13. 第10地点2号集石遺構検出状況
14. 第10地点4号集石遺構検出状況
15. 第10地点4号集石遺構底面配石検出状況
- 図版 4 16. 第10地点5号集石遺構検出状況
17. 第10地点5号集石遺構底面配石検出状況
18. 第10地点5号集石遺構検出状況
19. 第10地点6号集石遺構底面配石検出状況
20. 第11地点1号集石遺構検出状況
21. 第11地点3号集石遺構検出状況
22. 第14地点焼礫群検出状況
23. 第14地点消失門壇周溝検出状況
- 図版 5 24. 第14地点消失門壇周溝内破砕燹出土状況
25. 第26地点1～4号獨立柱建物跡検出状況
26. 第26地点遺構分布状況 (真上より)

- |     |                         |         |                       |
|-----|-------------------------|---------|-----------------------|
|     | 27. 第26地点5・6号獨立柱建物跡検出状況 |         | 49. 第69地点2号集石遺構底面検出状況 |
|     | 28. 第26地点1号土壇墓検出状況      |         | 50. 第69地点1号土壇検出状況     |
| 図版6 | 29. トレンチ内調査状況(第38地点)    |         | 51. 第69地点遺構分布状況(真上より) |
|     | 30. サプトレンチ内調査状況(第38地点)  | 図版10    | 52. 第69地点1号住居跡検出状況    |
|     | 31. 第31地点住居跡検出状況        |         | 53. 第69地点2号住居跡検出状況    |
|     | 32. 第51地点住居跡内遺物出土状況     |         | 54. 第74地点獨立柱建物跡検出状況   |
|     | 33. 第51地点住居跡検出状況        |         | 55. 第74地点住居跡検出状況      |
|     | 34. 第52地点土壇墓検出状況        |         | 56. 第81地点遺構掘削前状況      |
|     | 35. 第52地点土壇墓内遺物出土状況     |         | 57. 第81地点1号住居跡検出状況    |
|     | 36. 第53地点獨立柱建物跡検出状況     |         | 58. 第81地点2号住居跡検出状況    |
| 図版7 | 37. 第60地点住居跡検出状況        |         | 59. 第81地点3・4号住居跡検出状況  |
|     | 38. 第62地点住居跡検出状況        | 図版11    | 60. 第81地点3号住居跡カメラ検出状況 |
|     | 39. 第65地点1号集石遺構検出状況     |         | 61. 第81地点5号住居跡検出状況    |
|     | 40. 第65地点2号集石遺構検出状況     |         | 62. 第81地点6～8号住居跡検出状況① |
|     | 41. 第65地点3号集石遺構検出状況     |         | 63. 第81地点6～8号住居跡検出状況② |
|     | 42. 第65地点4号集石遺構検出状況     |         | 64. 6号住居跡遺物出土状況       |
|     | 43. 第65地点5号集石遺構検出状況     |         | 65. 7号住居跡遺物出土状況①      |
|     | 44. 第65地点6号集石遺構検出状況     |         | 66. 7号住居跡遺物出土状況②      |
| 図版8 | 45. 第65地点遠景(西より)        |         | 67. 7号住居跡遺物出土状況③      |
|     | 46. 第65地点遺構分布状況(真上より)   |         | 68. 第81地点遺構検出状況       |
| 図版9 | 47. 第69地点1号集石遺構検出状況     | 図版13～23 | 各遺構出土遺物               |
|     | 48. 第69地点2号集石遺構検出状況     |         |                       |

# 第 I 章 序 説

## 第 1 節 調査に至る経緯

西都市は、県内でも指折りのたばこ等の生産地であるが、長年の作付けにより土地が弱り、病気も多くなっていることから、天地返しをする地域が増えてきている。すでに、都が郡の長園、三財の小豆野原台地等では実施され、品質的・生産的のもかなり向上してきている。

しかし、天地返しをすることによって地下遺構に与える影響は大きく、遺跡の消滅が懸念されている。このような中、西都原台地にもその波が及ぶこととなり、たばこ耕作組合と埋蔵文化財の現状保存について協議を重ねたが、生産者の生活権等を考慮すると、現状を保存するということは困難であると判断し、遺構・遺物が検出された場合には、現状保存を前提とした協議をすること等を条件に、確認調査及び本調査を実施することとなった。

## 第 2 節 調査の体制

### ○平成10年度

調査主体	教 育 長	菊 池 彬 文
	社 会 教 育 課 長	佐 々 木 美 徳
	同 文 化 財 主 事	日 高 憲 一
	同 主 事 補	笠 瀬 明 宏
	同 主 事 補	長 友 英 樹
調 査 員	同 文 化 財 係 長	養 方 政 幾
調 査 指 導 員	日 高 正 晴	(西都原古墳研究所長)

### ○平成11年度

調査主体	教 育 長	菊 池 彬 文
	社 会 教 育 課 長	阿 万 定 治
	同 文 化 財 主 事	日 高 憲 一
	同 主 事	笠 瀬 明 宏
	同 主 事 補	土 持 留 理
調 査 員	同 文 化 財 係 長	養 方 政 幾
調 査 指 導 員	日 高 正 晴	(西都原古墳研究所長)

### ○平成12年度

調査主体	教 育 長	菊 池 彬 文
	文 化 課 課 長	阿 万 定 治
	同 補 佐	奥 野 拓 美
	同 主 事	鹿 嶋 修 一
	同 主 事	笠 瀬 明 宏
	同 主 事 補	土 持 留 理
調 査 員	同 係 長	養 方 政 幾
調 査 指 導 員	日 高 正 晴	(西都原古墳研究所長)

○平成13年度

調査主体	教 育 長	菊 池 彬 文
	文 化 課 課 長	阿 万 定 治
	同 補 佐	奥 野 拓 美
	同 主 事	鹿 嶋 修 一
	同 主 事	筭 瀬 明 宏
	同 主 事 補	津 曲 大 祐
調 査 員	同 係 長	蓑 方 政 幾
調査指導員	日 高 正 晴 (西都原古墳研究所長)	

○平成14年度

調査主体	教 育 長	黒 木 康 郎
	文 化 課 課 長	阿 万 定 治
	同 補 佐	奥 野 拓 美
	同 主 事	鹿 嶋 修 一
	同 主 事	筭 瀬 明 宏
	同 主 事 補	津 曲 大 祐
調 査 員	同 係 長	蓑 方 政 幾
調査指導員	日 高 正 晴 (西都原古墳研究所長)	

○平成15年度

調査主体	教 育 長	黒 木 康 郎
	文 化 課 課 長	森 康 雄
	同 補 佐	村 岡 満 徳
	同 主 事	鹿 嶋 修 一
	同 主 事	筭 瀬 明 宏
	同 主 事	津 曲 大 祐
調 査 員	同 係 長	蓑 方 政 幾
調査指導員	日 高 正 晴 (西都原古墳研究所長)	

○発掘作業

井上六雄・緒方タケ子・押川ツル・廻田勉・廻田和子・金丸美保・川野照夫・菊池隆行・黒木トシ子・児玉征子・佐伯民孝・椎葉重満・椎葉智佐子・篠原時江・島地美保・銀鏡佳・杉田ヨシ・関治代・長友エイ子・長谷川クミエ・浜田スミ・疋田はる子・松本 和・光森スミ子・横山ナオ子・和川厚子

○整理作業

緒方裕子・杉田英子・中原昭美・長谷川明美

## 第II章 遺跡の位置と歴史的環境

### 第1節 概要

西都市街地の西方には、標高50~80mの通称西部原と呼ばれる台地がある。その台地東側には標高20~30mの南北に延びた中間台地があり、さらに、その下には沖積平野が広がっている。

この西部原台地を中心にした地域には、陵墓参考地として治定されている男狭穂塚・女狭穂塚の巨大古墳をはじめ、前方後円墳30基、方墳1基、円墳278基で構成された特別史跡・西部原古墳群が分布している。また、南九州独自の墓性である地下式横穴墓が現在までに12基、横穴墓と地下式横穴墓の折衷型とされるタイプの酒元ノ上横穴墓<sup>(1)</sup>も確認されている。

このように西部原台地上には数多くの古墳が存在しているが、諸各種開発等に伴う調査の結果、古来から生活が営まれたことが確認されている。縄文時代としては、台地北東端の新立遺跡<sup>(2)</sup>をはじめ、2号小道路・E区・23支線道路（圃場整備に伴う発掘調査<sup>(3)</sup>）があり、集石遺構に共伴して縄文土器等が出土している。弥生時代としては、寺原第1遺跡<sup>(4)</sup>、2号小道路・8号・33号支線（圃場整備に伴う発掘調査）・西部原遺跡<sup>(5)</sup>があり、竪穴式住居跡等が検出されているが、その他弥生時代終末から古墳時代初頭の集落群跡が新立遺跡で確認されている。古墳時代としては、27号支線道路（圃場整備に伴う発掘調査）から21軒もの竪穴式住居跡が検出され、古墳時代初頭には現寺原集落の南側に大集落跡の存在が確認された。古墳時代以降の遺跡としては3号・34号支線道路（圃場整備に伴う発掘調査）等がある。

西部原台地東側の中間台地には、5世紀初頭頃の集落跡が確認された酒元遺跡<sup>(6)</sup>をはじめ、北側の寺崎地区には日向国府跡<sup>(7)</sup>（国指定史跡）、南側には日向国分寺跡<sup>(8)</sup>（県指定史跡）や日向国分尼寺跡<sup>(9)</sup>（推定）などが所在している。

### 第2節 本報告に関連する主な遺跡

#### 1. 寺原第1遺跡<sup>(4)</sup>（昭和58年度）

本調査は、個人住宅建築に伴い実施した発掘調査で、西部原台地南西部に位置する寺原集落内から確認された。

東西5.8m、南北は北辺で6.0m、南辺5.2mで多少歪みを持った方形状プランの竪穴式住居跡である。特徴的なのは東辺と西辺の中央部に突出壁を有していることで、長さ約0.8m・幅0.75mの舌状を呈している。検出面はアカホヤや火山灰層で、主柱は4本、床面は平坦である。

この突出壁を有する竪穴式住居跡は、当時、「日向型間仕切り住居跡」や「花弁状住居跡」などの特殊なものも含め、日向地方の住居跡としては変化に富み、形態も極めて特異な住居跡として注目されていた。

時期的には、共伴遺物等から弥生時代後期か終末期頃に比定されている。

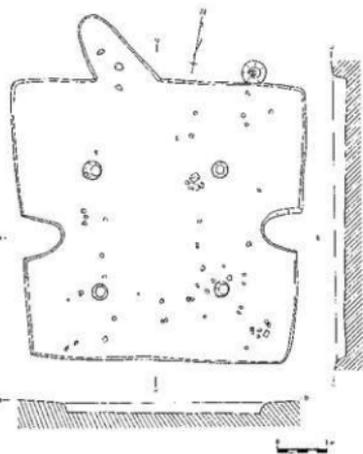


図1 寺原第1遺跡住居跡実測図

## 2. 新立遺跡<sup>2)</sup> (平成3年度)

市営墓地造成工事に伴い実施した発掘調査で、縄文時代早期の集石遺構をはじめ弥生時代終末から古墳時代初頭の竪穴式住居跡・円形土坑・方形土坑・掘立柱建物跡等を検出した。

集石遺構は、掘込みを有するタイプと有しないタイプに分かれる。跡はほとんどが角礫で構成され、無規則に集積されている。共存遺物は、ほとんどが無文土器で、その他只殻条痕文系土器や石鏃等が出土している。

竪穴式住居跡は、1号住居跡のみ不整形の円形プランで、その他は四隅のうち一隅がせり出すか台形に近い方形プランを呈し、張り出しを有するものも含まれている。中でも、2号住居跡は、長軸3.18m・短軸2.67mの小さなものであるが、多種多様の土器が大量に出土した。口縁部断面が凸字状で、櫛波状文が施された二重口縁の装飾高環や胴部が球状を呈した大型壺やミニチュア土器等バラエティーに富んでいる。また、10号住居跡は、本遺跡最大のもので、長軸7.15m・短軸6.70mを測る。住居跡内からは、推定器高1.00m前後で、櫛波状文が施され、二重口縁を呈し、胴部の最大径を上位にもつスマートな大型壺をはじめ、甕・鉢等が出土している。

掘立柱建物跡は、2間×3間で、主軸の方向はN-65°-W、桁行(NS)11.40m・梁行(EW)7.50mを測る。

その他、土坑については、共存遺物が極端に少なく、时期的なことなど不明な点が多い。

いずれにしても、弥生時代終末から古墳時代初頭の竪穴式住居跡が検出されたことは、これまで不明な点が多かった同時代における人々の生活の様子を知り得る貴重な資料となった。

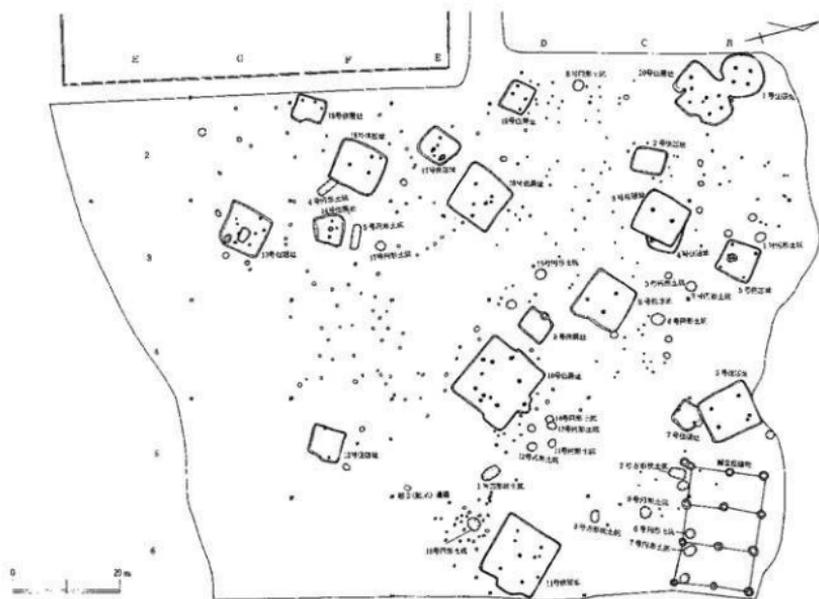


図2 新立遺跡遺構分布図 (1/1,000)

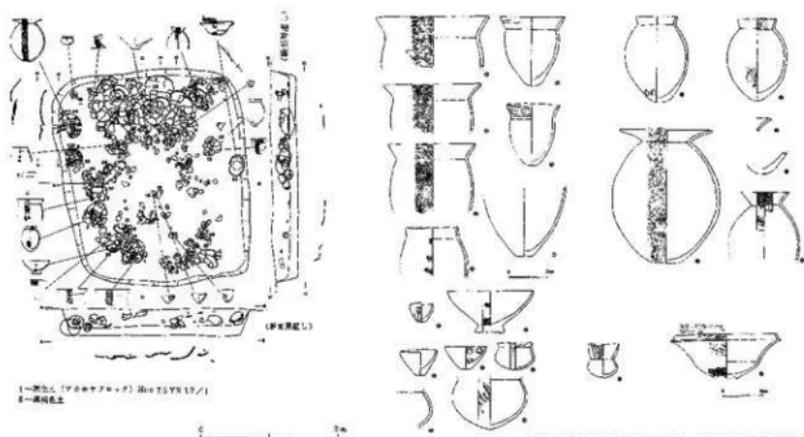


図3 新立遺跡2号住居跡・出土遺物実測図

### 3. 西都原地区遺跡 (平成5年度～7年度)

平成5年度から7年度まで実施された県営農村基盤総合整備パイロット事業(尾鈴地区西都原I区)に伴って行った発掘調査である。西都原台地の北側がI工区、中央部がII工区、南側がIII工区で、道路部分と造成工事によって地下遺構に影響を及ぼす部分が対象となった。

#### (1) I工区

##### 1号支線道路 (平成6年度)

アカホヤ火山灰下層の黒褐色土から縄文土器が多量に出土した。今回調査した第14地点の東側に位置している道路部分にあたる。遺構は検出できなかったが、貝殻条痕文系土器や無文土器が主体を成している。その他、敲石・石鏃・打製石斧などの石器が出土している。

##### 2号小道路 (平成6年度)

縄文時代早期の集石遺構1基をはじめ、弥生時代中期の竪穴式住居跡1軒・土坑1基等を検出した。中でも、土坑は多量の土器片が混入した土器溜りで、長軸1.64m・短軸1.47m、検出面からの深さ0.38mを測る。主体を成しているのは甕形土器や壺形土器で、高坏や鉢形土器等約500点が出土した。甕形土器は、口縁部が逆「L」字状を呈したもや刻目突帯を有するもの、壺形土器は鋤先状口縁のものなどが出土している。今回の第65地点の北側に隣接した道路部分にあたる。

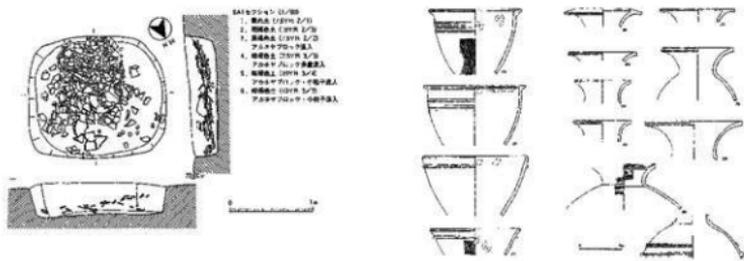


図4 西都原地区遺跡2号小道路SA1・出土遺物実測図 (1/120・1/121)

## (2) II工区

### 8号支線道路（平成6年度）

陵墓の東側の東西に延びた道路が8号支線道路で、弥生時代中期末と推定される竪穴式住居跡3軒等を検出した。

1号住居跡は、長軸5.20m・短軸4.70mの方形プランのもので、検出面からの深さ0.50mを測る。床中央部から南東壁にかけて段差が見られる。主柱は2本で、幅約0.15m・深さ0.05mの壁帯溝が施されていた。弥生土器・磨製石鏃・砥石・石皿等が出土した。

2号住居跡は、長軸7.40m・短軸5.80mの長方形プランのもので、北東隅は内側に入り込んでいる。主柱は2本で、床面中央部から南壁にかけて浅い落ち込みがある。遺物はわずかで、弥生土器や磨製石鏃等が出土している。

3号住居跡は、長軸5.10m・短軸3.90mの長方形プランのものである。北東壁が外にやや張り出し、南西壁がやや内側に入り込んでいる。床面中央部から南西壁にかけて「L」字状に約0.25m程低くなり、周囲がベット状になっている。主柱は2本で、南西壁際に浅い落ち込みが見られる。遺物は石皿が1点出土したのみである。

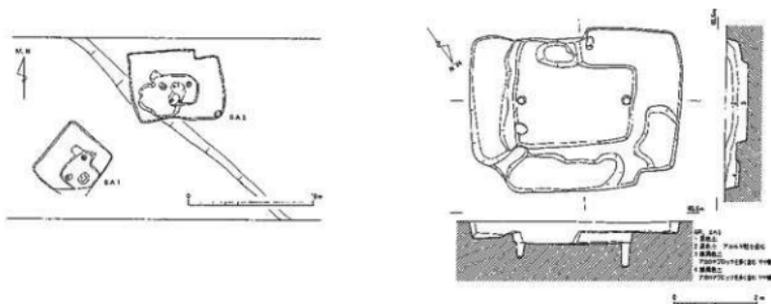


図5 西都原地区遺跡8号支線道路SA1～SA3実測図（1/400・1/120）

## (3) III工区

### E区（平成5年度）

西部原台地の南東、台地縁辺部で、今回の第65地点の西側に隣接した地区である（同畑地内）。アカホヤ火山灰層は遺存しておらず、その下層の黒褐色土から縄文時代早期の集石遺構7基と溝状遺構2条を検出した。

集石遺構は、掘り込みを有するタイプと有しないタイプに分かれ、底面に配石を施しているものも見られた。礫はいずれも角礫が多く、火を受け、赤く変色している。

遺物は、縄文土器がわずかに出土した。無文土器がほとんどで、貝殻条痕文系土器が若干含まれている。

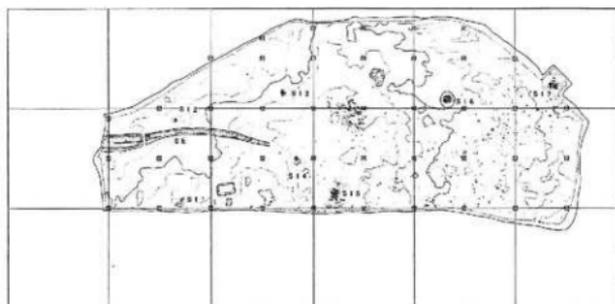


図6 西都原地区遺跡E区遺構分布図

27号支線道路（平成5年度・7年度）

寺原地区のほぼ中央部、東西に延びた道路で、平成5年度の調査で14軒、平成7年度の調査で7軒の総数21軒の竪穴式住居跡を検出した。いずれも、道路の拡幅部分のみの調査で、道路の部分については、今後の保存整備の中で取り組む方向で進めることとなったことから、現状維持のままで保存する工法で工事が実施された。

いずれにしても、幅1.60m～3.00m、長さ127.0mの範囲に重複して検出しており、周辺を含めた地域には大集落跡の存在が想定される。

方形プラン及び長方形プランで、床中央部に掘り込みを有するもの、壁帯溝を有するもの、張り出しを有するものなどがある。時期的には古墳時代初頭から前期後半まで、比較的短い期間存続した集落であると推定される。

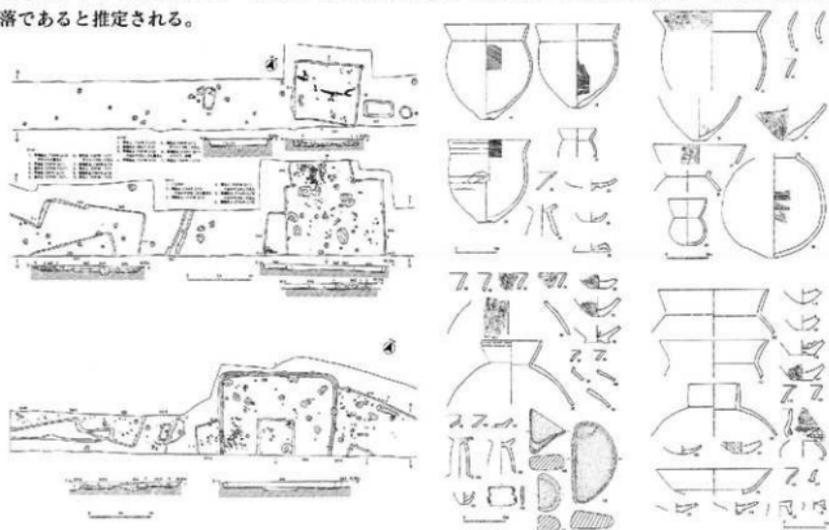


図7 西都原地区遺跡27号支線道路住居跡・出土遺物実測図 (1/320・1/24・1/12)

#### (5) 39支線道路 (平成5年度)

39号支線道路は、29号支線道路の南側に位置する道路で、弥生時代後期後半の竪穴式住居跡を1軒した。長軸3.70m・短軸3.20m、検出面からの深さ0.30mを測る方形プランのものである。主柱は2本で、床中央には円形の窪みを有している。

遺物は、甕や櫛播波状文・ヘラ描きの鋸歯状文が施された二重口緑壺を含む壺形土器をはじめ、高坏等の弥生土器が出土している。

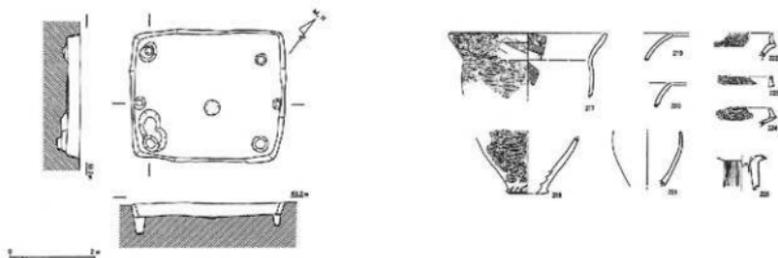


図8 西都原地区遺跡39号支線道路SA1・出土遺物実測図(1/120・1/8)

#### 4. 西都原遺跡 (平成6年度)

本調査は、市道拡幅工事に伴い実施した発掘調査で、竪穴式住居跡2軒と地下式横穴墓1基等を検出した。

1号住居跡は、西辺と北辺に突出壁、南東部には方形の張り出しを有する長方形プランのもので、長軸5.00m・短軸4.05m、検出面からの深さ0.25mを測る。床面は平坦で、主柱は2本である。2号住居跡は、長軸5.57m・短軸5.05mの規模を有する方形プランのもので、検出面からの深さ0.40mを測る。床面は平坦であるが、中央部が方形に掘り込まれている。いずれも、弥生時代中期から後期のものと推定される。



西都原遺跡 1号住居跡

地下式横穴墓は、天井が陥没したことから発見されたものである。平入りで、玄室の平面プランは楕円形状を呈している。玄室は、長さ2.22m・幅2.70mの規模を有し、天井はほとんどが崩落しているが、ドーム状と思われる。遺物は須恵器坏及び坏蓋、耳環2個が頭部側から出土した。

#### 5. 酒元遺跡 (昭和63年度)

本調査は、市道新設工事に伴う発掘調査で、全長約130m・幅約18mが対象になった。西都原台地から東に舌状に突出した微高地の段丘上に位置している。

調査は、アカホヤ火山灰層を基本に遺構等の検出を行った。調査の結果、アカホヤ火山灰層面にて

竪穴式住居跡6軒・土坑7基・溝状遺構2条、アカホヤ火山灰下層（アカホヤ火山灰層はすでに掘削）にて集石遺構2基等を検出した。

の中で、竪穴式住居跡は、いずれも方形状プランを有し、規模的には最大のものが長軸5.67m・短軸5.35m、最小のものが長軸3.50m・短軸3.02mを測る。共存遺物は、土師器が主体で、広口壺・鉢・甕・高坏等が出土しているが、特に、高坏が多く出土していることから、筆者は極めて信仰儀礼的な生活が営まれていたと推察している。また、器形の特徴等から时期的には5世紀前半から中葉後半頃に比定している。

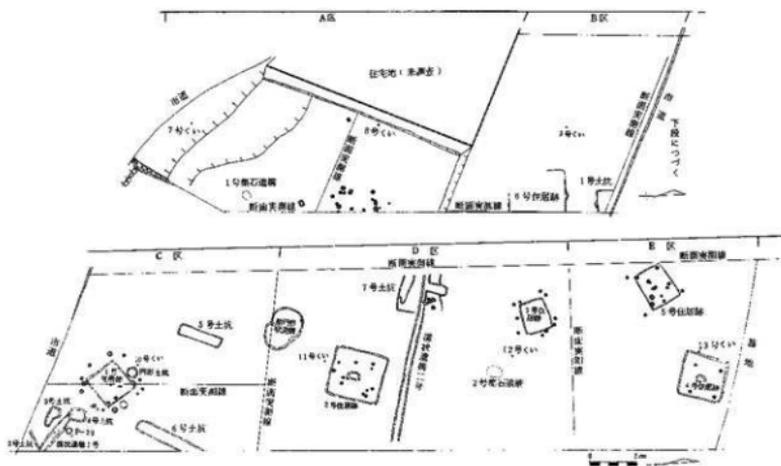


図9 酒元遺跡遺構分布図 (1/500)

註

- (1) 宮崎県・西都市教育委員会「西都原地区遺跡」『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書』第22集 1996
- (2) 西都市教育委員会「新立遺跡」『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書』第18集 1992
- (3) (1)と同じ
- (4) # 「寺原第1遺跡他」『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書』第1集 1985
- (5) 西都市教育委員会「西都原古墳研究所・年報」第11号 2000
- (6) # 「西都市埋蔵文化財発掘調査報告書」第8集 1989
- (7) 宮崎県教育委員会「寺崎遺跡」『同跡保存整備基礎調査報告書』2001
- (8) # 「同跡・郡跡・古寺跡等範囲確認調査報告書」V 1996
- (9) 西都市教育委員会「市内遺跡発掘調査概要報告書」Ⅶ『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書』第23～36集 1996～2003



- |                |                    |
|----------------|--------------------|
| 1. 特別史跡・西都原古墳群 | 2. 御陵墓 (男狭穂塚・女狭穂塚) |
| 3. 丸山遺跡        | 4. 西都原遺跡           |
| 6. 新立遺跡        | 7. 原口遺跡            |
| 9. 日向国分尼寺跡     | 10. 酒元遺跡           |
|                | 11. 日向国府跡 (寺崎遺跡)   |

図10 西都原地区遺跡周辺位置図 (1/25,000)

## 第三章 現況と調査区の設定

### 第1節 現況

西都原地区遺跡については、これまでに圃場整備をはじめ駐車場整備や道路拡幅工事に伴う発掘調査によって、縄文時代早期の集石遺構及び焼礫群、弥生時代中期から後期の竪穴式住居跡、古墳時代初頭から前期の竪穴式住居跡、古墳時代の地下式横穴墓、さらには、横穴墓と地下式横穴墓との折衷形として注目された古墳時代後期の墓道を有する横穴墓など各時代を通じた多種多様の遺構を検出している。

これらは、位置的には、そのほとんどが西都原台地縁辺部に集中しており、台地中央部からは弥生時代の竪穴式住居跡等が検出されているものの、遺構密度はかなり薄いことが判明している。また、西都原台地上からは古墳の築造に関連した人々の遺構があまり確認されないことから、台地上特に御陵墓の東側を中心とした地域は当時、古墳を築造する特別な空間、いわゆる聖域として認識していたものと想定した。

これら遺構のなかで横穴墓については、国の「地方拠点史跡等総合整備事業」（歴史ロマン再生事業）のなかで保存・活用されることになり、「西都原古墳群遺構覆屋」が平成11年度に建設され、一般公開されている。

なお、この事業は宮崎県教育委員会が主体となり、平成7年度から進められているもので、これまでに「鬼ノ窟古墳」をはじめ「13号墳」・「100号墳」・「171号墳」・「地下式4号墳」等の調査研究及び保存整備が図られ、平成16年度の「宮崎県立西都原考古博物館」の完成で一応の事業完了となった。

現在は、宮崎県立西都原考古博物館が主体となり、これまでのように大規模ではないが、陵墓である男狹穂塚の形態を特定するための地下レーダー探査や46号墳・170号墳の確認調査等が年次的に進められている。

このような中、平成9年頃からたばこ耕作に伴う天地返しの際が西都原台地にも押し寄せ、それを、西都たばこ耕作組合が取りまとめ、西都原台地における天地返しが大々的に行われることになり、総数82地点もの確認及び本調査を実施することとなった。

西都原遺跡は、寺原・丸山・原口・西都原遺跡の4遺跡を総称した呼称で、寺原遺跡は台地の南西部で寺原集落を含む地域、原口遺跡はその南側で西都原運動公園の北側一帯を含む地域、丸山遺跡は台地北部地域、西都原遺跡は台地中央部から南東部を含む地域である。

### 第2節 調査区の設定

調査方法は、畑地の形状に合わせ、幅2mのトレンチを8～10m間隔に設定し、遺構・遺物の遺存状況等の確認を行った。そして、遺構・遺物等が確認された場合には、トレンチをさらに拡幅及び増設して詳細な調査を行った。この詳細なトレンチ調査によって確実に遺構であると判断した場合、あるいは同畑地内に広範囲に分布していると判断した場合には、地権者の方と現状保存について協議を行い、それが困難なところ（地点）について本調査を実施した。

検出は、アカホヤ火山灰層面を基本に行った。また、アカホヤ火山灰下層の文化層については、各トレンチ内に幅2m・長さ2mのサブトレンチを設定して、遺構・遺物の遺存状況等の確認を行った。

### 第3節 基本層序

今回の調査地点における層序はある程度一定しており以下のとおりで、第Ⅲ層に相当するアカホヤ火山灰層が遺構検出面である。なお、アカホヤ火山灰層は、フワフワでしまりがなく、キメ細かい上層と、少ししまりのある黄褐色の中層、そして、少しザラザラでしまりのある黒褐色部分の下層に細分される。

遺構及び遺物はこのアカホヤ火山灰層面と、第Ⅳ層及び第Ⅴ層に相当する黒色土・黒褐色から縄文時代早期の集石遺構や焼礫群等を検出することができた。

I	第Ⅰ層	耕作土
II	第Ⅱ層	黒色土 (クロボク)
III	第Ⅲ層	アカホヤ火山灰層 (上層) 黄褐色 10YR8/8 しまりなし アカホヤ火山灰層 (中層) 黄褐色 10YR7/8 しまりなし アカホヤ火山灰層 (下層) 黒褐色 10YR2/2 しまりあり
IV	第Ⅳ層	黒色土 10YR2/1 しまりなし 白色・黒色・灰色の粒子含む
V	第Ⅴ層	黒褐色土 10YR3/2 しまりあり 白色・透明の粒子含む
VI	第Ⅵ層	暗褐色土 10YR3/4 少ししまりあり 白色・透明の粒子含む
VII	第Ⅶ層	黄褐色土 10YR5/4 にぶい黄褐色土 10YR4/3 しまりあり 白色・橙色・透明・黒色粒子混入
VIII	第Ⅷ層	褐色土 10YR4/4 しまりなし 白色・黄褐色・黒色粒子混入
IX	第Ⅸ層	にぶい黄褐色土 10YR5/4 しまりあり 白色・黄褐色・灰色・透明の粒子多量混入
X	第Ⅹ層	明黄褐色土 しまりあり 目が粗くザラザラ 白色・黄褐色・灰色・透明の粒子多量混入
XI	第Ⅺ層	黄褐色土 (AT) しまりなし きめ細かくザラザラ 白色・黄褐色・灰色・透明の粒子多量混入
XII	第Ⅻ層	にぶい黄褐色土 10YR5/3 しまりあり 白色・黄褐色・灰色・透明の粒子多量混入
XIII	第Ⅼ層	灰黄褐色土 10YR4/2 しまりあり 白色・灰色粒子混入
XIV	第Ⅽ層	橙土 7.5YR6/8 しまりあり 黒色・褐色・灰色の粒子混入
XV	第Ⅾ層	黄褐色土 7.5YR7/8 しまりあり 黒色・灰色・白色の粒子多量混入 キメ荒くザラザラ

図11 基本層序図

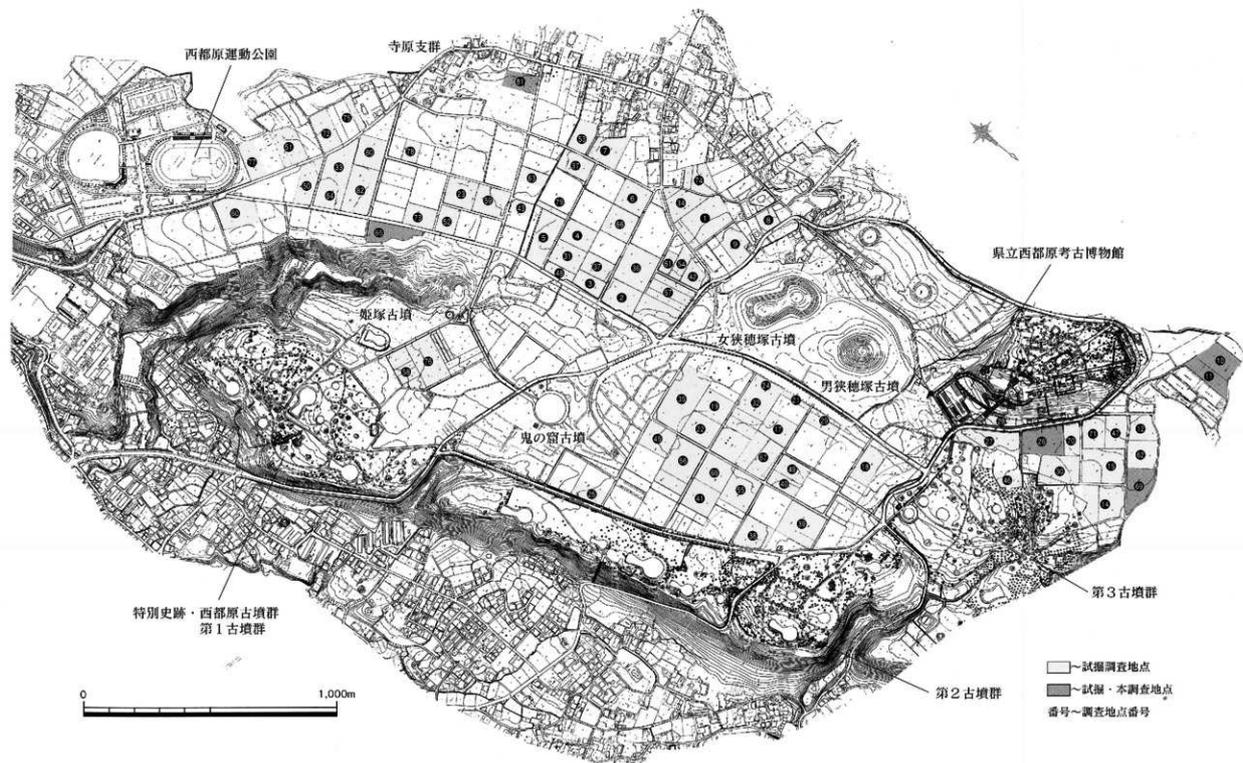


图12 西都原地区遺跡調査区域(地点)図(1/15,000)



## 第IV章 調査の記録

発掘調査は、あまりにも広範囲で、調査箇所も82地点とかなり多く、しかも、各地点より多種多様な遺構や遺物が検出され、混乱を生じる恐れがあることから、時代・遺構に関係なく、年度毎に地点の早い順に報告することとした。

### 第1節 平成10年度の調査

本年度は、陵墓の西側及び南側の既に圃場整備された地域を中心に29箇所（第1～29地点）の調査を行った。調査対象面積は約12,500㎡である。

アカホヤ火山灰層の遺存率は全体の50%程度で、かなり削平されている地点が多い。

調査の結果、第10・11・14地点から縄文時代早期の焼礫群をはじめ、台地のほぼ中央部、陵墓の西側に位置する第17地点から弥生時代後期のものと推定される竪穴式住居跡、台地の北部の第26地点からは柱穴群を確認した。

このなかで、焼礫群を検出した第10・11・14地点、柱穴群を検出した第26地点については、地権者のご協力を得て、次年度本調査することとなった。

#### 1. 第8地点

第8地点は、陵墓である女狭穂塚の南西約200mに位置しており、周辺地は緩やかな傾斜地となっている。

##### (1) 遺構と遺物

##### 竪穴式住居跡

###### i 立地

第8地点の北側で検出したもので、検出面はアカホヤ火山灰層である。

###### ii 規模と構造

方形プランを有しているが、東側は耕作によりかなり削平されており、床面とほぼ同じレベルとなっている。その他のところもかなり浅く、検出面から深さ0.1m程度である。床面は一部少し窪んでいるものの平坦で、主柱は2本である。

###### iii 出土遺物

遺物は、総数約200点が出土しているが、ほとんどが弥生土器で、器形的には甕・壺があり、量的には甕が圧倒的に多い。

1～8は、いずれも刻目突帯を有する下城式系の甕であるが、1～4は口縁部が外反するタイプのもので、2は推定口径30.3cmを測る。5～8は口縁部が直行するタイプのもので、5は推定口径35.0cmを測る。

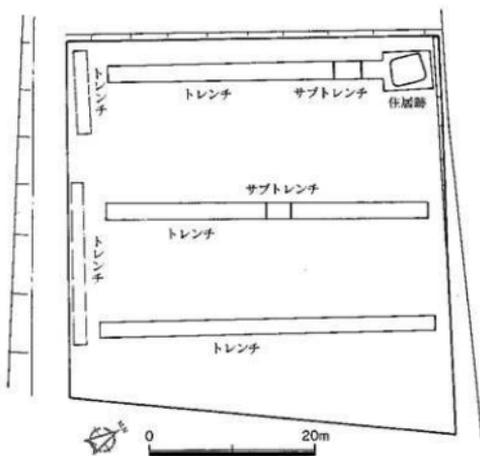


図14 第8地点調査状況(トレンチ)図(1/600)

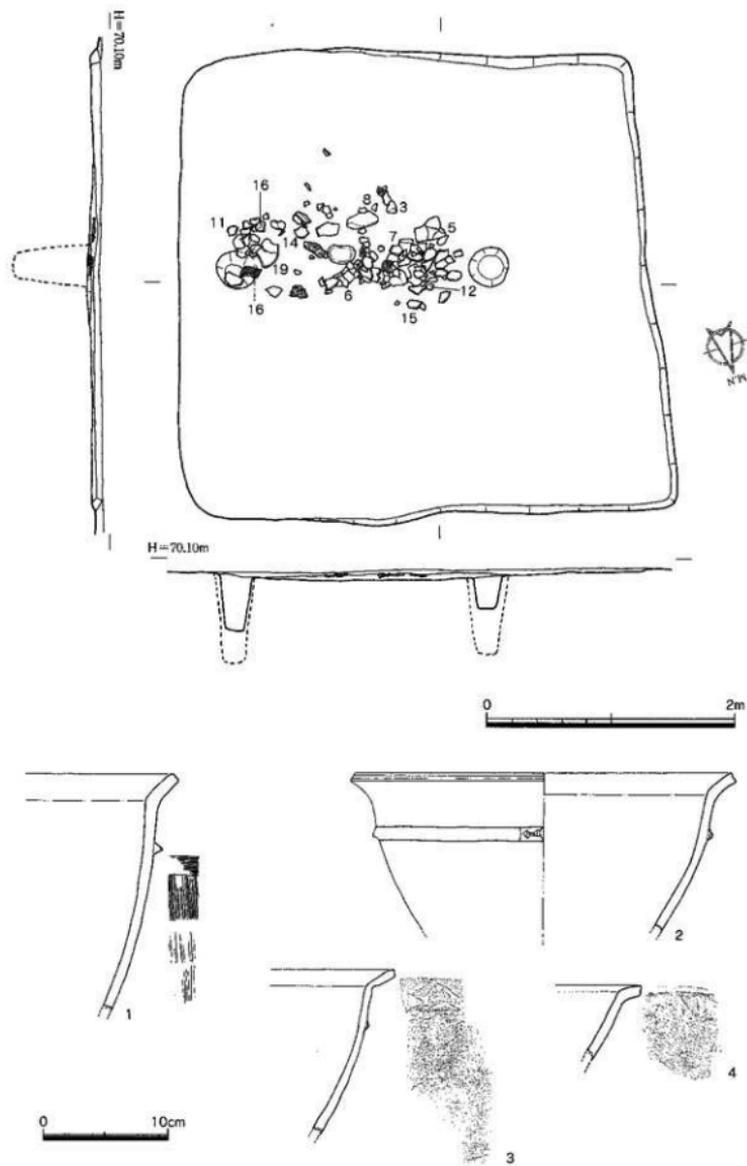


图15 第8地点住居跡 出土遺物実測図 (1/40・1/4)

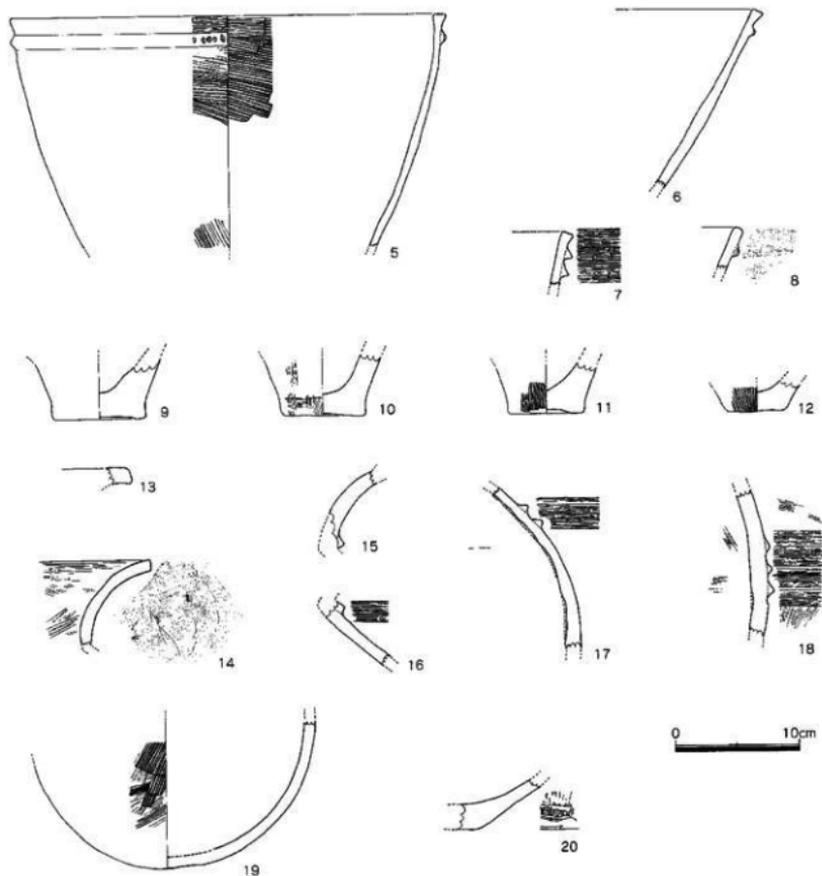


図16 第8地点住居跡内出土遺物実測図 (1/4)

8は小片であるが、突帯の他に口唇部にも刻目が施されている。9～12は、甕の底部で、底面が平らなもの(12)と、わずかに窪んでいるもの(9・10)、中央部が円形に窪んでいるもの(11)がある。13～20は壺で、13は鋤先状口縁、14は大きく外反した口縁を有している。15は口縁下部、16は頸部で1条の突帯を有しているが、おそらく鋤先状口縁の壺のものと思われる。15は縦方向のナア、16はヘラ磨きで調整が施されている。17は胴上部に2条の突帯、18は胴部最大幅のところに3条の突帯を有

している。19は丸底、20は平底の底部である。

なお、これら遺物の詳細については、今後のものも含めて、「表2 出土遺物観察表」を参照していただきたい。

これらの共伴遺物の特徴から、时期的には弥生時代後期初頭に比定される。

## 2. 第10・11・14地点

西部原台地の北部及び北西部にあたる地点で、なかでも第14地点は平成5～7年度圃場整備に伴い調査した地区（2号支線道路）に隣接しており、その際にも焼礫群や柴石遺構が検出されている。よって、台地北部及び北西縁辺部には、かなり広範囲に分布しているものと思われる。

このようなことから、これらの地点については米年度に本調査をすることとなった。

## 3. 第17地点

第17地点は、陵墓の東約150mに位置している。周辺は平坦な地形で、圃場整備に伴う調査の際、弥生時代後期の竪穴式住居跡を検出した地点（8号支線道路）の南西部約70mでもある。

### (1) 遺構と遺物

#### 竪穴式住居跡

##### i 立地

第17地点の北東部の平坦地から検出したもので、検出面はアカホヤ火山灰層である。

##### ii 規模と構造

長軸4.35m・短軸4.05mの規模を有する方形プランのもので、検出面からの深さは0.35mを測る。床面は平坦で、主柱は2本で深い。また、南側中央部には楕円形状の窪みを有している。

##### iii 出土遺物

遺物は量的には少なく、緑色頁岩の石鏃及び剥片が主体で、その他に弥生土器甕、石錘等が出土している。21は「く」字状に外反する甕の口縁部、22は胴部、23は頁岩製の石錘、24・25は緑色頁岩製の石鏃である。

## 4. 第24地点

第24地点は、陵墓の東側畑地内で第17地点から南西約100mに位置している。ちなみに、その東側には第20地点、北側には第21地点が所在しているが、残念ながら、ここからは遺構・遺物等は検出されなかった。

### (1) 遺構と遺物

#### 竪穴式住居跡

##### i 立地

第24地点の南西部から検出したもので、検出面はアカホヤ火山灰層である。周辺は平坦で、この竪穴式住居跡以外、遺構・遺物等は検出できなかった。

##### ii 規模と構造

長軸4.70m・短軸3.00m、南辺と西辺の中央部に突出壁を有する長方形プランのものである。検出面からの深さは0.40mを測る。床面は平坦で、柱穴は3個検出しているが、主柱は2本と思われる。特徴的なのは、その主柱の位置と掘方である。西都市内における竪穴式住居跡のほとんどが主柱は中

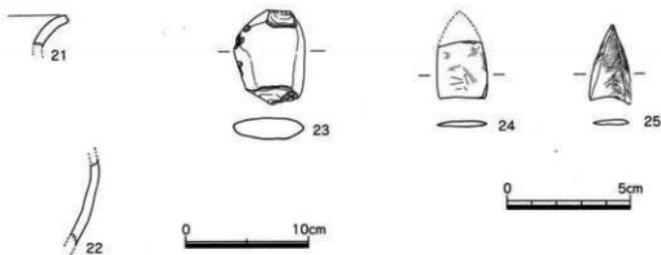
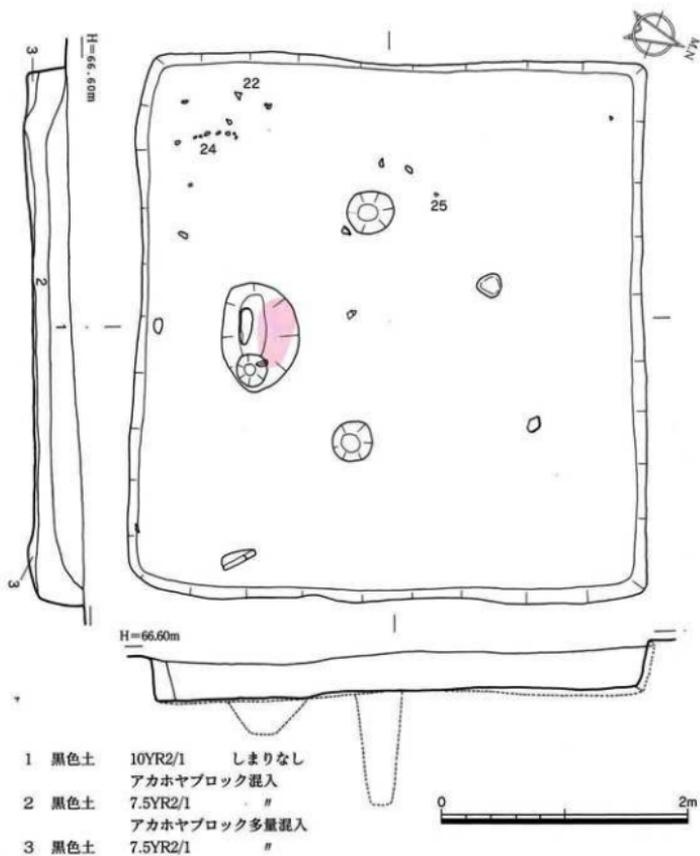


図17 第17地点住居跡・出土遺物実測図 (1/40・1/4・1/2)

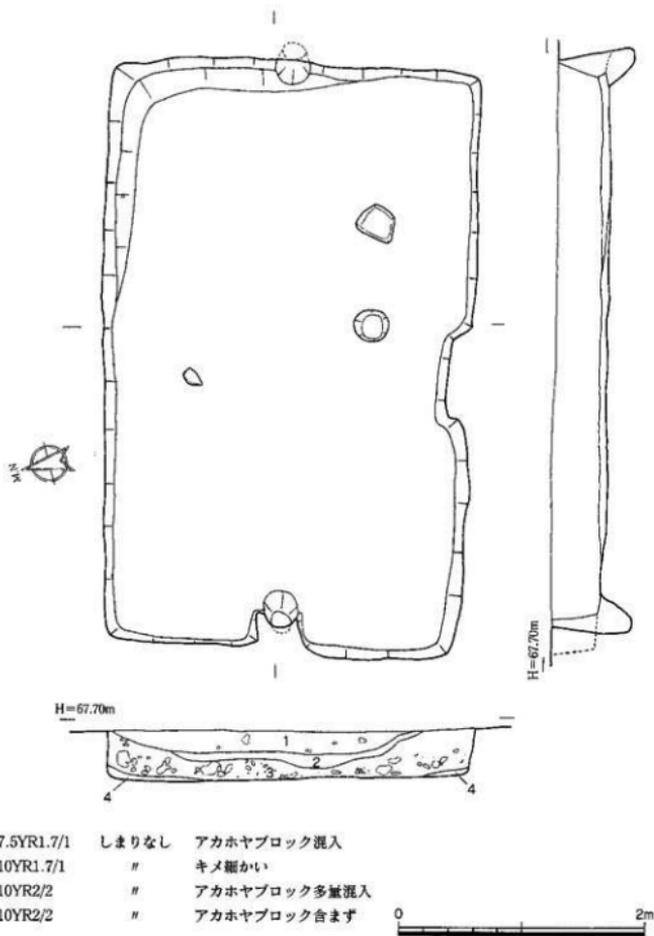


図18 第24地点住居跡実測図 (1/40)

央部近くに設置しているが、本竪穴式住居跡のように両サイドの壁面に接して、しかも、外側に向かって掘られているのは珍しく、竪穴式住居跡の構造を考えるうえでは貴重な資料である。

### iii 出土遺物

遺物はまったく出土しておらず、時期的なことは不明である。

## 第2節 平成11年度の調査

平成11年度の調査は、平成10年度に遺構・遺物等を確認した第10・11・14・26地点の本調査と、新たに天地返しが予定されている陵墓の西側及び南側8地点（第30～37地点）の確認調査を行った。調査対象面積は約57,000m<sup>2</sup>である。

検出面としているアカホヤ火山灰層の遺存率は、前年同様全体の50%程度であり、かなり削平されている地域が多かった。

調査の結果、第10・11・14地点から縄文時代早期の集石遺構や焼礫群、第14地点から古墳時代後期の消失円墳の周溝、第26地点から16世紀頃の掘立柱建物跡群等を検出した。

### 1. 第10・11地点

第10・11地点は、西部原台地の北端部で、県立西都原考古博物館の北側に位置している。昨年度の調査で、焼礫群を検出している。

#### (1) 遺構と遺物

##### 10-1号集石遺構

###### i 立地

本地点の南東部に位置している。

###### ii 規模と構造

径1.10m・深さ0.22mの円形プランのもので、凹レンズ状の掘込みを有している。礫はそれほど密集していないが、礫は角礫が多く、火を受け赤く変色している。掘込みは黒褐色ローム層からである。

###### iii 出土遺物

遺物は出土していない。

##### 10-2号集石遺構

###### i 立地

本地点の東部で、1号集石遺構の北西6.0mに位置している。

###### ii 規模と構造

径1.00m・深さ0.21mの円形プランのもので、凹レンズ状の掘込みを有している。床底面の中央部に大きな礫を置き、その上に礫が積まれている。礫はわりと密集しており、礫は角礫が多く、火を受け赤く変色している。掘込みは黒褐色ローム層からである。

###### iii 出土遺物

遺物は出土していない。

##### 10-3号集石遺構

###### i 立地

本地点のほぼ中央部で、2号集石遺構の西北西約2.3mに位置している。

###### ii 規模と構造

径1.31m・深さ0.31mの円形プランのもので、「U」字状の掘込みを有している。床底面の中央部に平たい礫を置き、その周囲にさらに大きな礫を花卉状に配するタイプのものである。礫は密集しており、礫は角礫が多く、火を受け赤く変色している。掘込みは黒褐色ローム層からである。

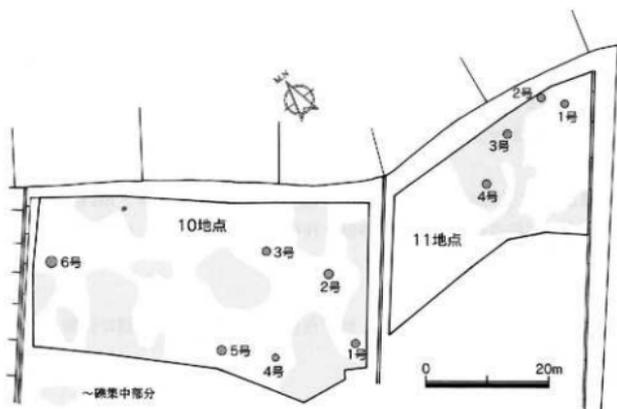


图19 第10・11地点遺構分布图 (1/800)

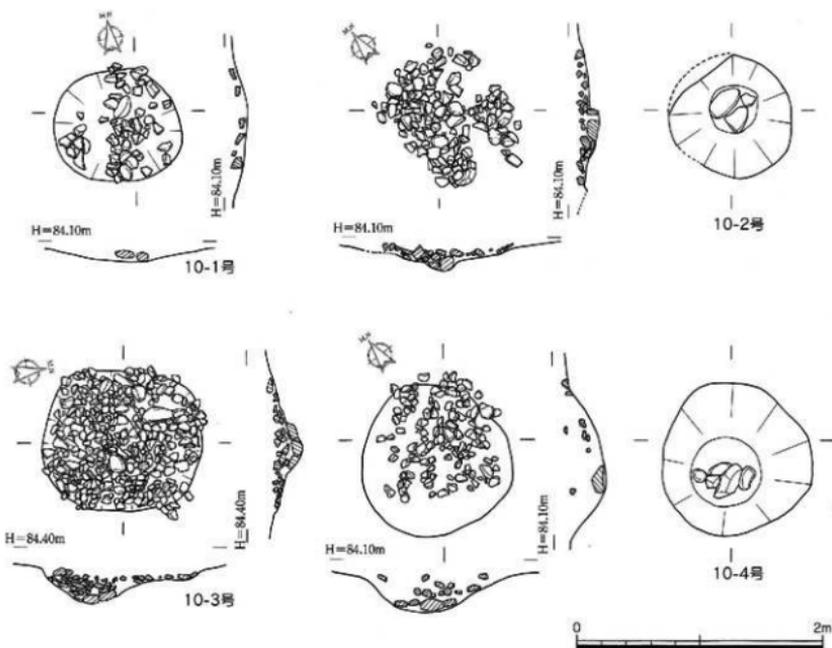


图20 第10地点集石遺構実測图 (1/40)

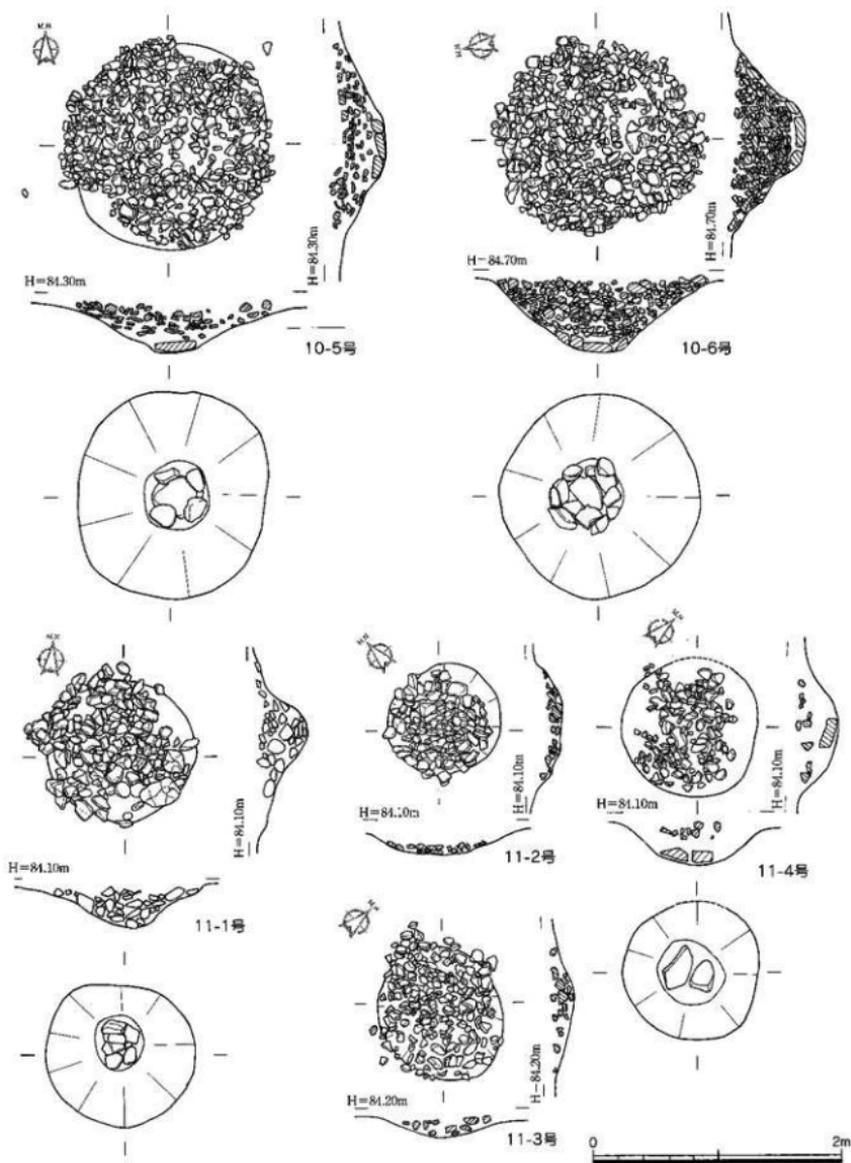


图21 第10·11地点集石遗槽实测图 (1/40)

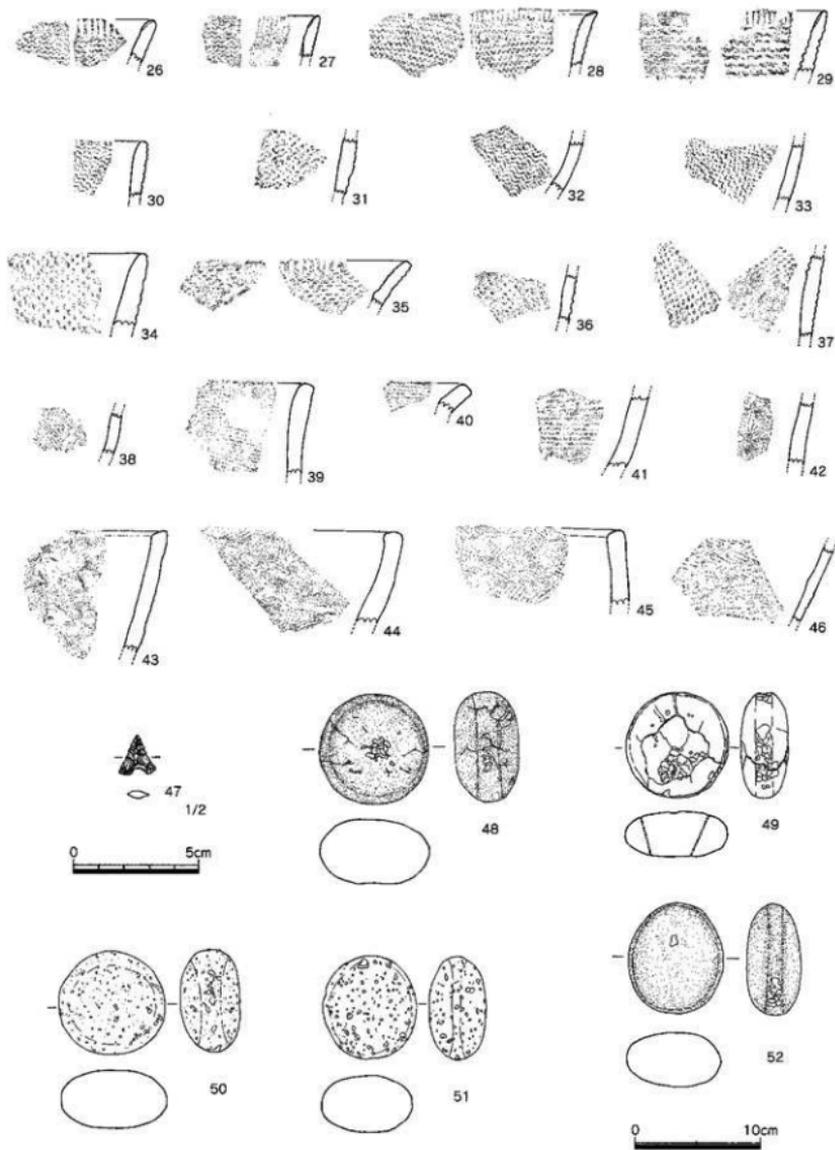


图22 第10·11地点出土文物实测图 (1/4·1/2)

### iii 出土遺物

遺物は出土していない。

## 10-4号集石遺構

### i 立地

本地点の南部で、1号集石遺構の西約3.3mに位置している。

### ii 規模と構造

径1.25m・深さ0.39mの円形プランのもので、「U」字状の掘込みを有している。床底面の中央部に平たい大きな礫を置き、その上に礫が集積されている。礫は密集しており、礫は角礫が多く、火を受け赤く変色している。掘込みは黒褐色ローム層からである。

### iii 出土遺物

遺物は出土していない。

## 10-5号集石遺構

### i 立地

本地点の南部で、4号集石遺構の西約2.3mに位置している。

### ii 規模と構造

径1.53m・深さ0.42mの円形プランのもので、「U」字状の掘込みを有している。床底面の中央部に長さ0.32mの平たい大きな礫を置き、その周囲に長さ0.2m前後の礫を花卉状に配するタイプのものである。礫は密集しており、礫は角礫が多く、火を受け赤く変色している。掘込みは黒褐色ローム層からである。

### iii 出土遺物

遺物が共存しているのはこの5号のみであるが、量的にはわずかである。総数7点で、縄文I:器5点、黒曜石製の石鏃1点(47)である。縄文土器は楕円押型文(36)と山形押型文(33)、そして、綾杉文(43)が出土している。

## 10-6号集石遺構

### i 立地

本地点の西部に1基だけはずれて位置している。

### ii 規模と構造

第10地点最大の規模を有するもので、径1.62m・深さ0.62mを測る。円形プランのもので、かなり深い「U」字状の掘込みを有し、5号集石遺構同様、床底面の中央部に長さ0.31mの細く平たい大きな礫を置き、その周囲に長さ0.2m前後の礫を花卉状に配するタイプのものである。礫はかなり密集しており、礫は角礫が多く、火を受け赤く変色している。掘込みは黒褐色ローム層からである。

### iii 出土遺物

遺物は出土していない。

## 11-1号集石遺構

### i 立地

本地点の北東部に位置している。

### ii 規模と構造

径1.20m・深さ0.44mの円形プランのもので、「U」字状の掘込みを有している。床底面の中央部に平たい大きな礫を置き、その上に礫が集積されている。礫は密集しており、礫は角礫が多く、火を

受け赤く変色している。掘込みは黒褐色ローム層からである。

iii 出土遺物

遺物は出土していない。

11-2号集石遺構

i 立地

本地点の北東部で、1号集石遺構の西北西約1.1mに位置している。

ii 規模と構造

径0.93m・深さ0.26mの円形プランのもので、凹レンズ状の掘込みを有している。礫はそれほど密集していないが、礫は角礫が多く、火を受け赤く変色している。掘込みは黒褐色ローム層からである。

iii 出土遺物

遺物は出土していない。

11-3号集石遺構

i 立地

本地点の北部で、2号集石遺構の南西約2.05mに位置している。

ii 規模と構造

径1.00m・深さ0.18mの円形プランのもので、凹レンズ状の掘込みを有している。礫はそれほど密集していないが、礫は角礫が多く、火を受け赤く変色している。掘込みは黒褐色ローム層からである。

iii 出土遺物

遺物は出土していない。

11-4号集石遺構

i 立地

本地点の中央部に位置している。

ii 規模と構造

径1.10m・深さ0.32mの円形プランのもので、「U」字状の掘込みを有している。床底面の中央部に長さ0.35mと0.25mの大きな礫を置き、その上に礫を集積させている。礫は密集していない。礫は角礫が多く、火を受け赤く変色している。掘込みは黒褐色ローム層からである。

iii 出土遺物

遺物は出土していない。

今回、遺構には伴件しなかったが、周辺からは多量の縄文土器片や石器等が出土した。総数約240点が出土しているが、主体を成しているのは押型文土器で、その他、貝殻条痕文系土器、篋描きで綾杉文が施された土器等がある。押型文土器は、ほとんどが楕円押型文と山形押型文であるが、わずかに格子目の押型文が含まれている。26~33は山形押型文土器で、26~29の口縁部内側には原体条痕が施されている。押型文の施文方向は横が多いが、縦・斜めもあり、また、山形が小さく丁寧なものや大きく雑に施されているものがある。34~37は楕円押型文土器で、35は原体条痕が施されている。施文方向は山形押型文同様、横・縦・斜めがある。38は丁寧に仕上げられた格子目の押型文土器の胴部である。39~41は貝殻条痕文系土器である。42は連続刺突文。43~46は篋描きにより綾杉文が施されたもので、46は横位の沈線と綾杉文で構成されている。48~51は敲石で、48・49が砂岩製、50・51が尾鈴山酸成岩製のものである。

## 2. 第14地点

西都原台地の北端部で、隣接して特別史跡・西都原古墳群（第3古墳群）が所在している。北側農道からは、圃場整備の道路整備に伴う発掘調査（2号小道路）の際、焼礫群及び縄文土器等が検出されている。

### (1) 遺構と遺物

#### 焼礫群

アカホヤ火山灰下層から焼礫群を検出したが、これらに関連した集石遺構等の遺構は検出することができなかった。調査区が細長く、狭範囲に限られていたこともあるが、遺物が多く出土しており、周辺には集落跡の存在が想定される。

遺物は、貝殻条痕文系土器と無文土器が主体を成しており、1点のみ押型文土器（69）が混在している。53～68は貝殻条痕文系土器で、特に61～64は口唇部に貝殻復縁により連続刺突が施された前平式土器、64・65は古田式土器と呼んでいる土器群に含まれるものと思われる。

71～84は無文土器の一群で、口縁部が直行するもの（71）、若干開きぎみのもの（72～74）、かなり開くもの（75）がある。また、底部は平底がほとんどであるが、直行ぎみに立ち上がるもの（84）も含まれている。

#### 消失円墳周溝

##### i 立地

調査区の南東隅からで、南西約12.5mには円墳（西都原第143号墳）が近接して所在している。地形的には平坦である。なお、この円墳が所在する南側隣地は、「西都原風土記の丘」（第3古墳群）で、その最北端にあたる。

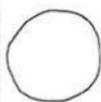
##### ii 規模と構造

検出したのは、消失円墳の北西部部分にあたる周溝で、遺存しているのは全体の1/4程度である。幅0.95～1.33m、深さ0.53～0.75m、推定復元すると径約12.00mの円墳になる。気になるのは、西都原第143号墳との位置関係で、推定復元（周溝まで含む）すると切り合っている可能性が高い。

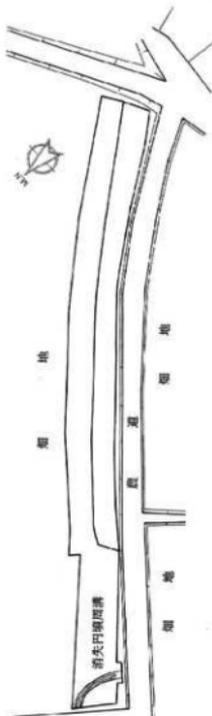
##### iii 出土遺物

遺物の出土は、東部に集中しており、須恵器が主であるが、その中には須恵器破砕甕（図27）が含まれている。90は須恵器大甕（破砕甕）で、口径24.2cm・胴部最大幅43.9cm・推定器高41.1cmを測る。頸部から底部にかけて平行叩きが施され、内面には同心円状当て具痕が良好に遺存している。91～93は須恵器短頸壺で、いずれも完形あるいは完形に近い状態で出土している。94は土師器高坏であるが、脚部のみで受部は遺存していない。95は完形の土師器鉢で平底から内湾しながら口縁部に至っている。共伴遺物の特徴から7世紀前半に比定される。

西部原面上型の丘



西部原部143号墳



0 20m

図23 第14地点周辺位置図 (1/800)

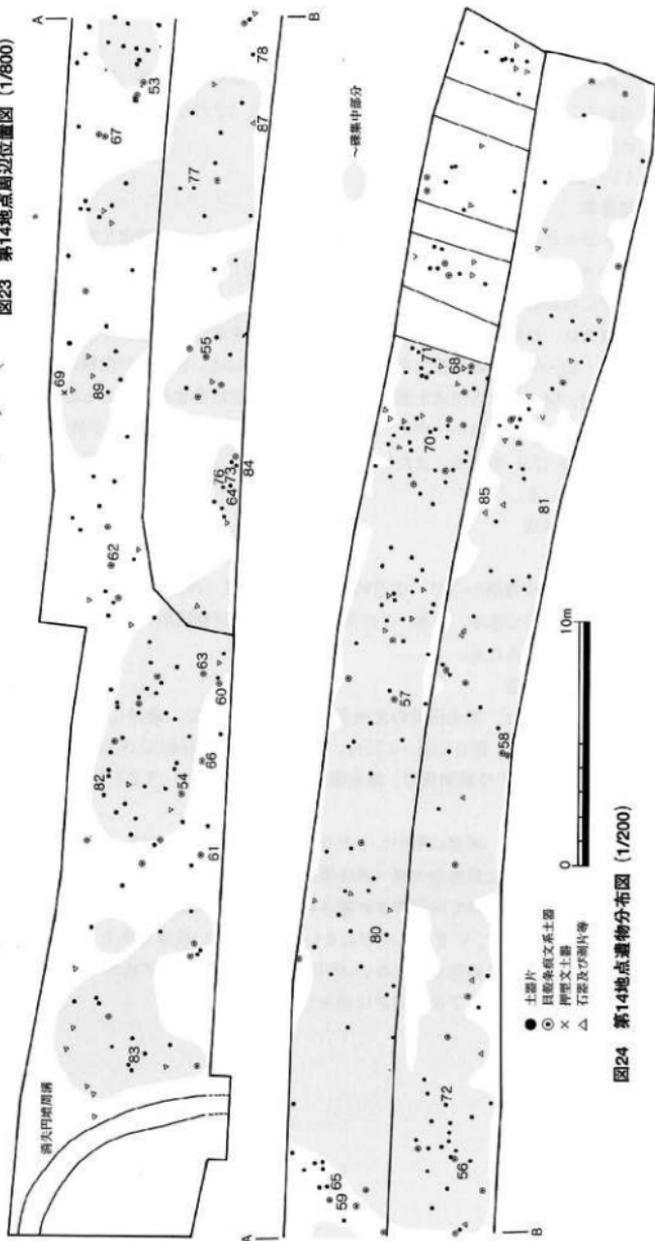


図24 第14地点遺物分布図 (1/200)

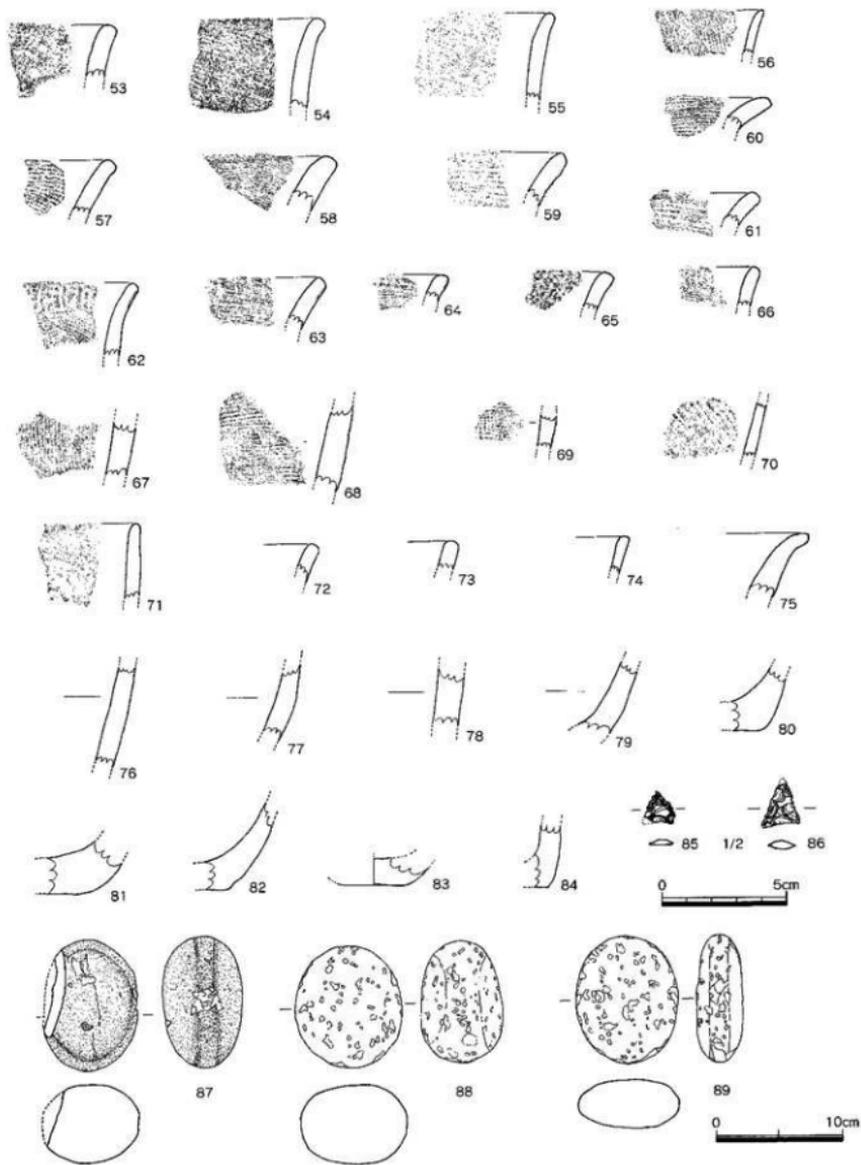


图25 第14地点出土遗物实测图 (1/4 · 1/2)

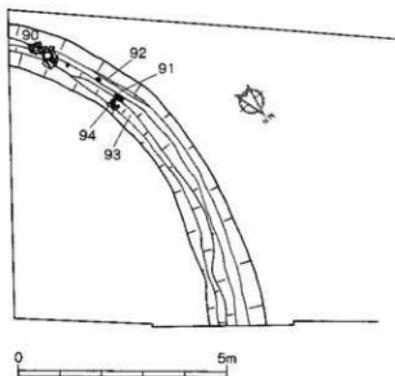


図26 第14地点消失円墳周溝実測図 (1/100)

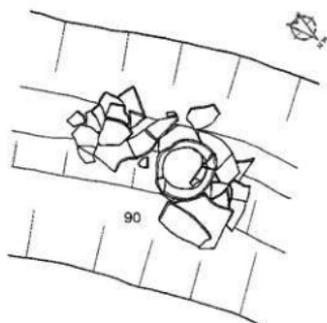
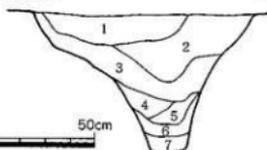


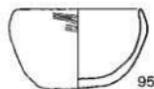
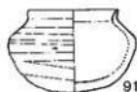
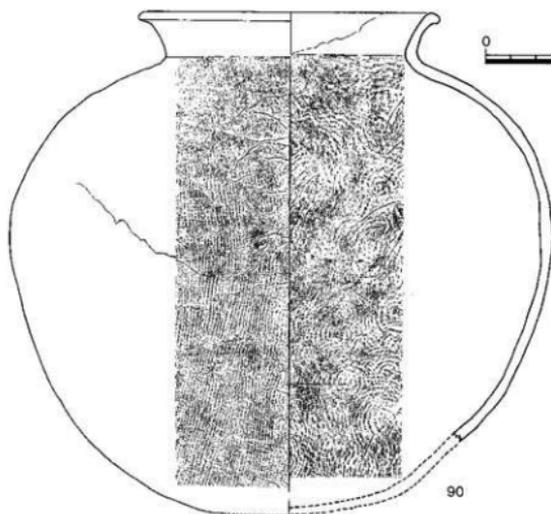
図27 破砕甕実測図 (1/20)

H=69.30m



- 1 黒色土 7.5YR2/1 しまりなし
- 2 黒色土 10YR1.7/1 #  
キメ細かい
- 3 黒色土 10YR2/1 #
- 4 黒色土 10YR2/1 #  
アカホヤブロック少量混入
- 5 黒褐色土 10YR2/2 #  
アカホヤ・褐色土ブロック多量混入
- 6 黒色土 7.5YR2/1 #  
キメ荒い・アカホヤ褐色粒子混入
- 7 褐色土 7.5YR4/3 #  
キメ荒い・褐色土ブロック多量混入

図28 第14地点消失円墳周溝層序図 (1/20)



0 10cm

図29 第14地点消失円墳周溝内出土遺物実測図 (1/4)

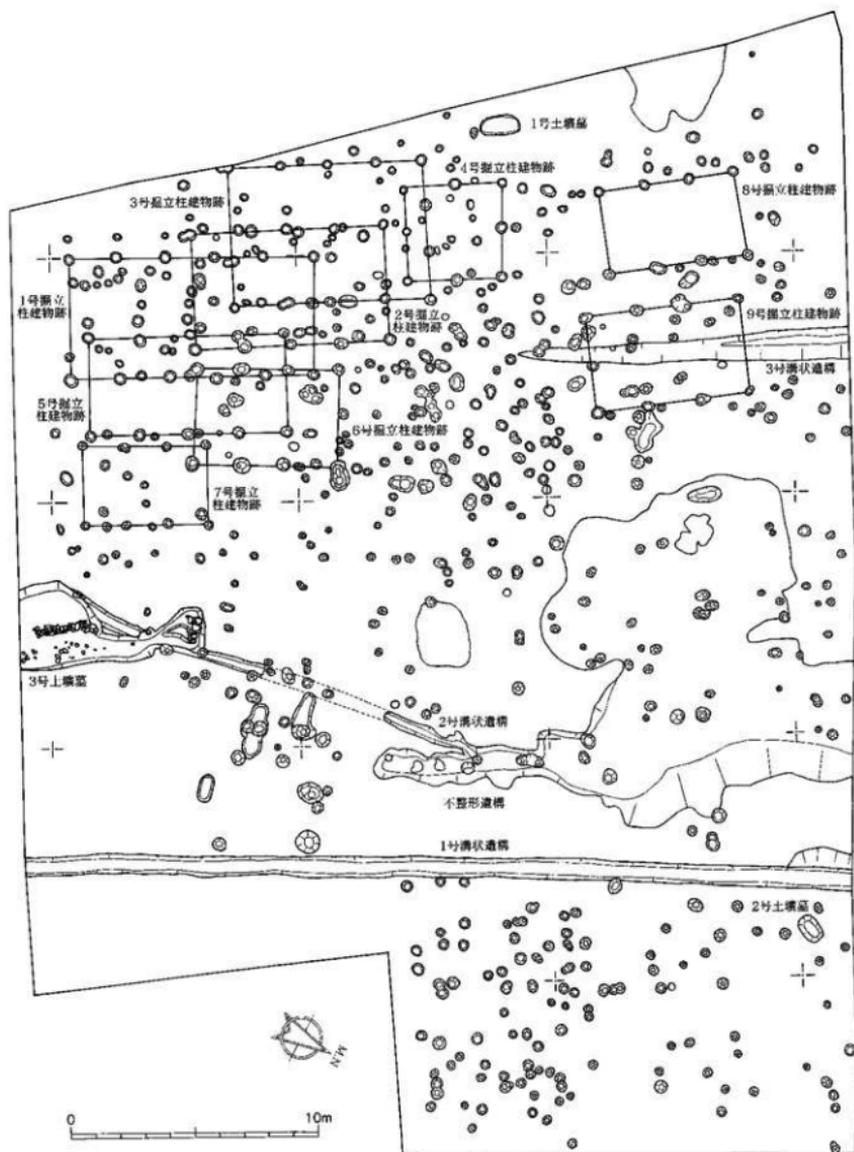


图30 第26地点遺構分布图 (1/200)

### 3. 第26地点

第26地点は、県立西都原考古博物館の東側で、第14地点から南西230m程の地点に位置している。前年度の調査で、柱穴や溝状遺構等を検出した地点である。

調査の結果、掘立柱建物跡9棟をはじめ、土壇室や溝状遺構・柱穴群等を検出した。なかでも、掘立柱建物跡はいずれも南北棟で、1号～7号は何らかの形で切り合っており、時期差をみることができる。1×3間と1×4間のものが多く、規模的には最小のもので約14.8㎡、最大で約50.0㎡を測る。

#### (1) 遺構と遺物

##### 1号掘立柱建物跡

###### i 立地

本地点の南部から検出したもので、検出面はアカホヤ火山灰層である。

###### ii 規模と構造

1×5間の南北棟で、桁行 (NS) 5.00m、梁間 (EW) 1.90～2.00mを測る。柱穴はすべて円形で、径0.40～0.55m、深さ0.34～0.44mを測る。床面積は約49.5㎡である。

###### iii 出土遺物

東側の柱穴から打製石斧が出土しているのみであるが、流入遺物と判断されるため掲載しなかった。

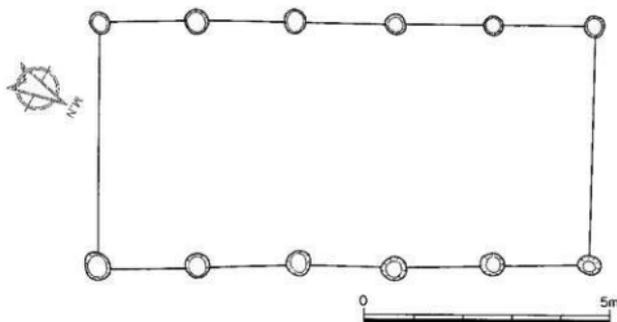


図31 1号掘立柱建物跡実測図 (1/100)

##### 2号掘立柱建物跡

###### i 立地

1号の北西部と2号の南東部が重複している。

###### ii 規模と構造

第26地点では最大規模を有するもので、1×4間の南北棟である。桁行 (NS) 4.70m、梁間 (EW) 2.00mを測る。柱穴はすべて円形で、径0.40～0.55m、深さ0.32～0.48mを測る。床面積は約36.9㎡である。

###### iii 出土遺物

遺物は出土していない。

### 3号掘立柱建物跡

#### i 立地

3号は、南東部が2号と1号、また、北側は4号と重複している。特に、2号と平面の約1/2が重なっている。

#### ii 規模と構造

2号と同じ1×4間の南北棟で、桁行 (NS) 5.75m、梁間 (EW) 1.90~2.25mを測る。柱穴はすべて円形で、径0.32~0.46m、深さ0.30~0.46mを測る。床面積は約45.1m<sup>2</sup>である。

#### iii 出土遺物

遺物は出土していない。

### 4号掘立柱建物跡

#### i 立地

3号の北側で、3号の北部と4号の南部が重複している。

#### ii 規模と構造

本地点では最小規模のもので、2×2間の南北棟である。桁行 (NS) 1.70~2.00m、梁間 (EW) 1.80~2.00mを測る。柱穴はすべて円形で、径0.28~0.50m、深さ0.26~0.32mを測る。床面積は約15.2m<sup>2</sup>である。

#### iii 出土遺物

遺物は出土していない。

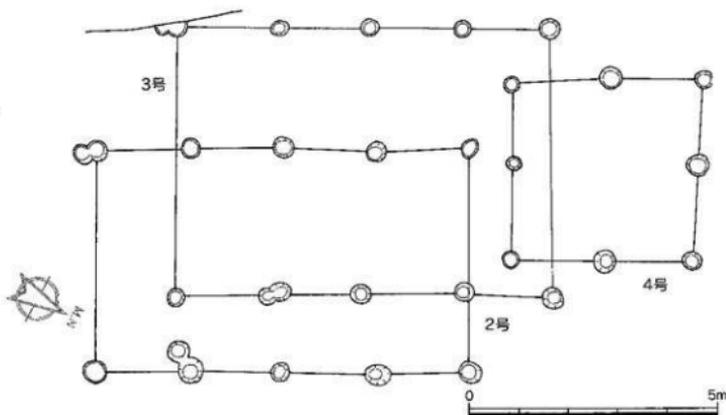


図32 2号~4号掘立柱建物跡実測図 (1/100)

### 5号掘立柱建物跡

#### i 立地

1号の東側で、1号の東部と5号の西部が重複している。

#### ii 規模と構造

1号と同じ1×4間の南北棟で、桁行 (NS) 4.00m、梁間 (EW) 2.00~2.05mを測る。柱穴はすべて円形で、径0.38~0.50m、深さ0.38~0.48mを測る。床面積は約32.0m<sup>2</sup>である。

#### iii 出土遺物

遺物は出土していない。

### 6号掘立柱建物跡

#### i 立地

5号の北東側で、6号の南西部と5号の北東部が重複している。また、7号と南東側がわずかではあるが重複している。

ii 規模と構造

1×3間の南北棟で、桁行 (NS) 4.00m、梁間 (EW) 1.80~2.00mを測る。柱穴はすべて円形で、径0.40~0.70m、深さ0.52~0.68mを測る。第26地点では一番柱穴が大きく、深い。床面積は約24.0㎡である。

iii 出土遺物

遺物は出土していない。

7号掘立柱建物跡

i 立地

5号の東側で6号の南東側である。6号の南東部と7号の北西部がわずかではあるが重複している。

ii 規模と構造

6号と同じく1×3間の南北棟で、桁行 (NS) 3.30m、梁間 (EW) 1.70mを測る。柱穴はすべて

円形で、径0.28~0.32m、深さ0.30~0.46mを測る。床面積は約16.8㎡である。

iii 出土遺物

西側柱穴から土師器環 (97) 1点が出土した。完形で器厚のある環で、底径5.0cm・口径8.0cm。器高2.2cmを測る。

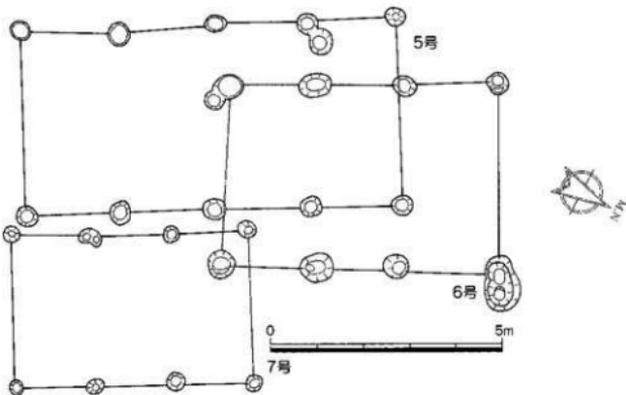


図33 5~7号掘立柱建物跡実測図 (1/100)

8号掘立柱建物跡

i 立地

本地点の西部に2軒 (8号・9号) 所在しているうちの1軒である。

ii 規模と構造

1×3間の南北棟で、桁行 (NS) 3.60m、梁間 (EW) 1.80mを測る。柱穴はすべて円形で、径0.34~0.44m、深さ0.33~0.46mを測る。床面積は約20.0㎡である。

iii 出土遺物

遺物は出土していない。

9号掘立柱建物跡

i 立地

8号の東側に位置しているが、溝状遺構（3号）と重複している。

#### ii 規模と構造

1×4軒の南北棟で、桁行（NS）4.00m、梁間（EW）2.00～2.10mを測る。柱穴はすべて円形で、径0.35～0.40m、深さ0.30～0.50mを測る。床面積は約24.8㎡である。

#### iii 出土遺物

遺物は出土していない。

### 1号土墳墓

#### i 立地

本地点の北部に単独で位置している。

#### ii 規模と構造

長軸1.10m・短軸0.70mで、1号土墳墓同様に楕円形プランを呈している。検出面からの深さ0.42mを測る。

#### iii 出土遺物

遺物は、出土していない。

### 2号土墳墓

#### i 立地

本地点の西側で、4号掘立柱建物跡の西約3.5mに位置している。

#### ii 規模と構造

長軸1.65m・短軸0.78mの楕円形プランを呈している。検出面からの深さ0.38mを測る。

#### iii 出土遺物

獣骨が出土しているが、何の動物の骨かは判断がつかない。

### 3号土墳墓

#### i 立地

本地点の南側中央部に位置しているが、溝状遺構等と重複している。

#### ii 規模と構造

他の遺構と重複しているため、遺構面がはっきりしないが、長軸2.50m・短軸1.50mの長方形のものとして推定される。遺構内西側には10～30cm前後の礫が4～5段一列に積み上げられている。検出面からの深さ0.39mを測る。

#### iii 出土遺物

青磁盤や白磁碗に加え、吉祥字が入った染付皿が2枚（105・106）重ねて埋葬されていた。これらの共存遺物から、16世紀前後のものとして推定される。

#### その他の遺構

##### 溝状遺構

本地点からは3条検出した。1号は東側に位置しているもので、南北に直線的に延びている。幅約0.90m、深さ約0.40mで、現存長約32.0mを測る。

2号は中央部に位置しているが、途中が確認できない。幅約0.50mで、深さ約0.30mを測る。

3号は西部で、9号掘立柱建物跡と重複している。この3号も途中までしか確認できない。幅約1.30m、深さ0.20mで、現存長約16.0mである。

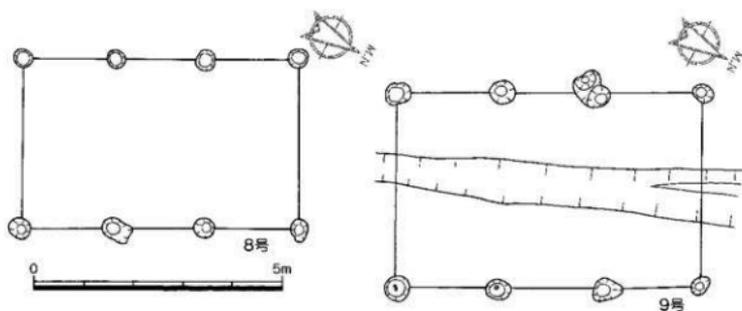


図34 8号・9号掘立柱建物跡実測図 (1/100)

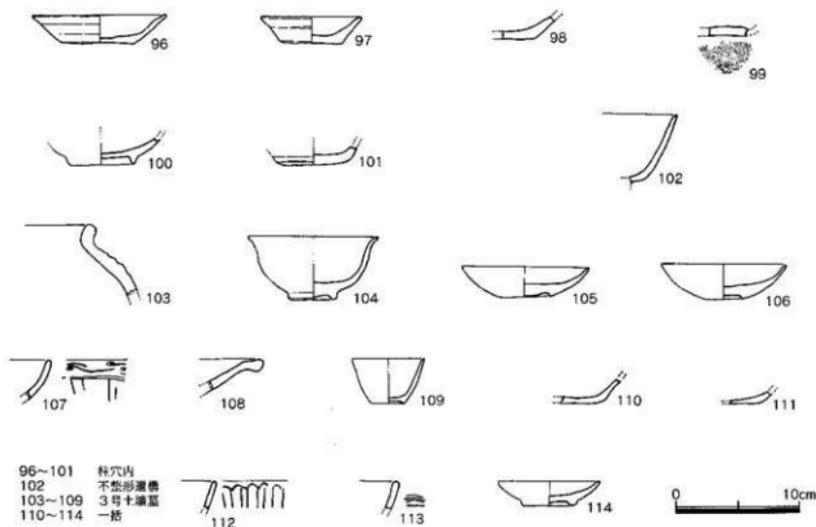


図35 第26地点出土遺物実測図 (1/4)

いずれも、時期的なことは特定できないが、1号が最も新しく、現畑地になる以前のもので、畑と畑を区切り、排水路として使用されていたものであると推定される。

#### 柱穴群

柱穴は、掘立柱建物跡のものも含めて多数検出しているが、集中しているのは西側で、一部東側に分布している。現地及び図面上で建物を復元してみたが、9軒以上は特定できなかった。何らかの口物をもって掘り込まれたものと思われるが、残念ながら判断がつかない。

### 第3節 平成12年度の調査

陵墓の東側で西部原台地の中央部及び寺原集落の東側一帯を中心に20地点（第37～56地点）の確認調査を行った。調査対象面積は約74,000㎡である。

調査の結果、これまでとは違い全体的にアカホヤ火山灰層が遺存しており、第39・51地点から竪穴式住居跡、第53地点から掘立柱建物跡、第52地点から土壇墓等を検出した。

#### 1. 第39地点

男狭穂塚古墳の北東約400mの地点に位置している。北東側は道路を隔てて西部原古墳群（第2古墳群）が分布している。

本地点から竪穴式住居跡1軒を検出した。なお、平成6年度にこの道路を改良工事した際には、弥生時代中期から後期の竪穴式住居跡を2軒検出している。

##### (1) 遺構と遺物

###### 竪穴式住居跡

###### i 立地

第39地点の東側中央部から検出したもので、検出面はアカホヤ火山灰層である。

###### ii 規模と構造

長軸5.75m・短軸5.12mの規模を有する方形プランのもので、検出面からの深さ0.38mを測る。また、床面中央部には2.38×2.20mの方形の掘込み（段差）が見られ、その南側には径0.80mの窪みがある。床面はほぼ平坦で、支柱は2本である。支柱は径0.41m・深さ0.96～1.01mで、方形の掘込みに合わせて掘削されている。

このような、中央部に方形の掘込みを有する竪穴式住居跡は、圃場整備に伴う調査の際、27号支線道路（寺原集落東側）から検出している。

###### iii 出土遺物

出土遺物の主体を占めているのは弥生土器で、その他によく石器に加工される緑色頁岩の破片や陶磁器が出土している。115～119は口縁部が逆「L」字状に外反した甕で、120・121はその甕の胴部で突帯を有している。122は甕の底部に近い部分の破片である。123は特徴的な土器で、口縁部に突帯を持ち、その口縁部と突帯上面、さらに胴部まで小さな竹状の工具で連続刺突を施した甕である。124は鉢の口縁部、125は「く」字状に外反した口縁部で磨き調整が施された土器である。

共伴遺物の特徴から、弥生時代中期末～後期初頭に比定される。

#### 2. 第51地点

第51地点は、西部原運動公園から約200m、西部原台地の南部に位置している。北側に隣接した市道の改良工事の際には古墳時代の竪穴式住居跡を検出している。周辺には古墳はなく、一番近い古墳という西都原古墳群のなかの寺原第2支群で、北西約350mに分布している。

調査の結果、竪穴式住居跡1軒を検出した。

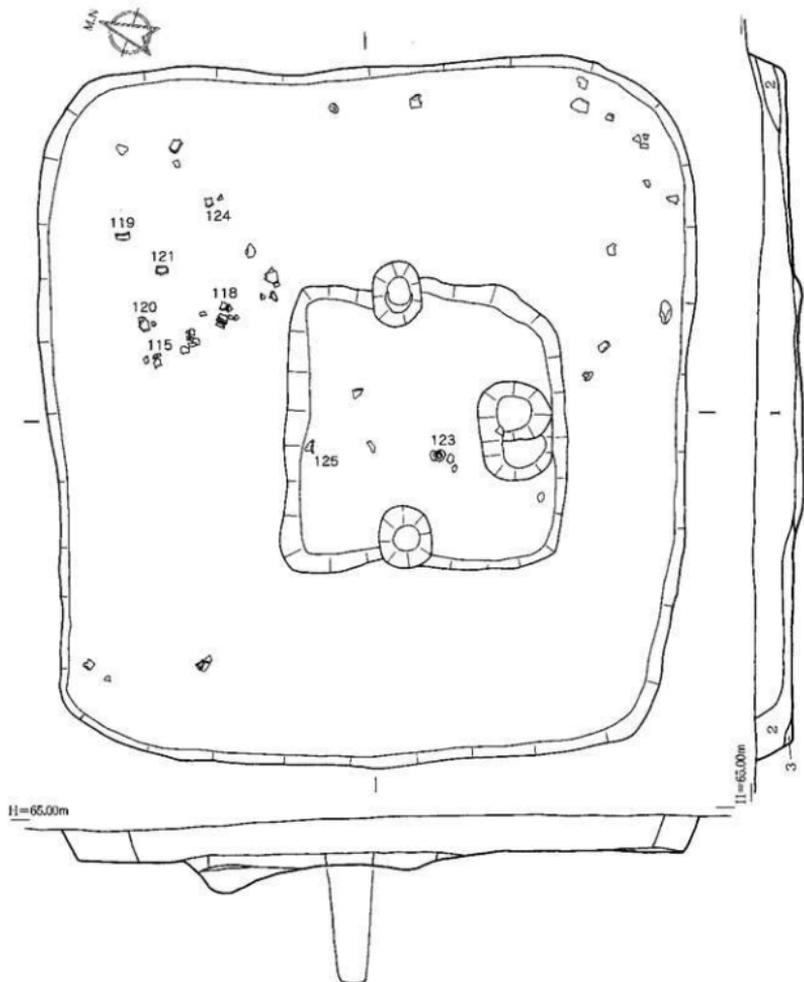
##### (1) 遺構と遺物

###### 竪穴式住居跡

###### i 立地

第51地点の南東部から検出したもので、検出面はアカホヤ火山灰層である。周辺は平坦である。

###### ii 規模と構造



- |   |      |          |              |
|---|------|----------|--------------|
| 1 | 黒褐色土 | 7.5YR3/2 | アカホヤブロック多量混入 |
| 2 | 黒色土  | 10YR2/1  | アカホヤ小粒子多量混入  |
| 3 | 黒色土  | 7.5YR1/2 |              |
| 4 | 黒色土  | 10YR1/2  |              |



図36 第39地点住居跡実測図 (1/40)

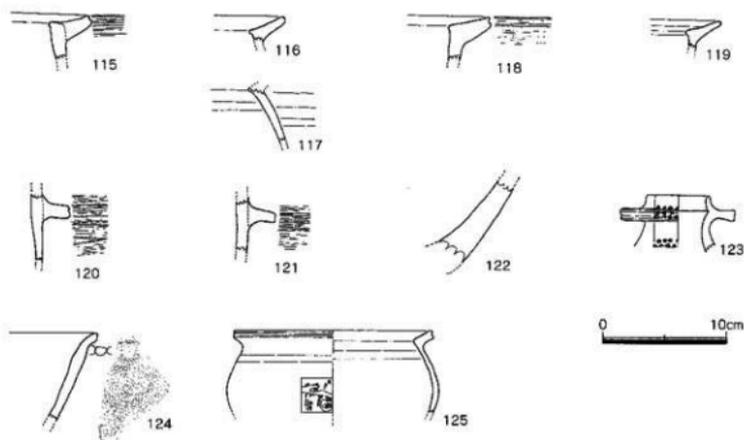


図37 第39地点住居跡内出土遺物実測図 (1/4)

長軸5.00m・短軸4.60mの規模を有する方形プランのもので、検出面からの深さ0.22mを測る。残念ながら南辺は後世の土坑によって1/2程度が消滅している。床面は平坦で、主柱は4本である。また、中央部に埋甕(129)を有している。掘方の径0.46m・深さ0.20mを測る。主柱の径は0.30~0.36mで、深さは0.35~0.49mである。

### iii 出土遺物

遺物は、竪穴式住居跡の南東部に集中している。主体を成しているのは土師器で、その他須恵器がわずかに出土している。土師器は、器形的には圧倒的に甕が多く、その他、鉢・壺・高坏等である。126~128は口縁部が「く」字状に外反した甕で、ハケ目・叩き・ヨコナデ調整がされたもの等様々である。129は埋甕として使用されていたもので、口縁部は直行し、底部は丸底ぎみである。130は口縁部が直行し、胴部の張った甕である。131~135は甕の底部で平底のもの(131・132)や丸底に近いもの(133~135)がある。131・132には木の葉痕が遺存している。136~138は鉢で、136・137は口縁部が若干外反している。138はほとんど完形のもので、口縁部は直行し、口唇部は尖っている。底部は尖底である。139は須恵器坏身で、陶邑TK209併行期に対応しており、口径12.8cmを測る。共伴遺物の特徴から古墳時代末(6世紀末~7世紀初頭)に比定される。

### 3. 第52地点

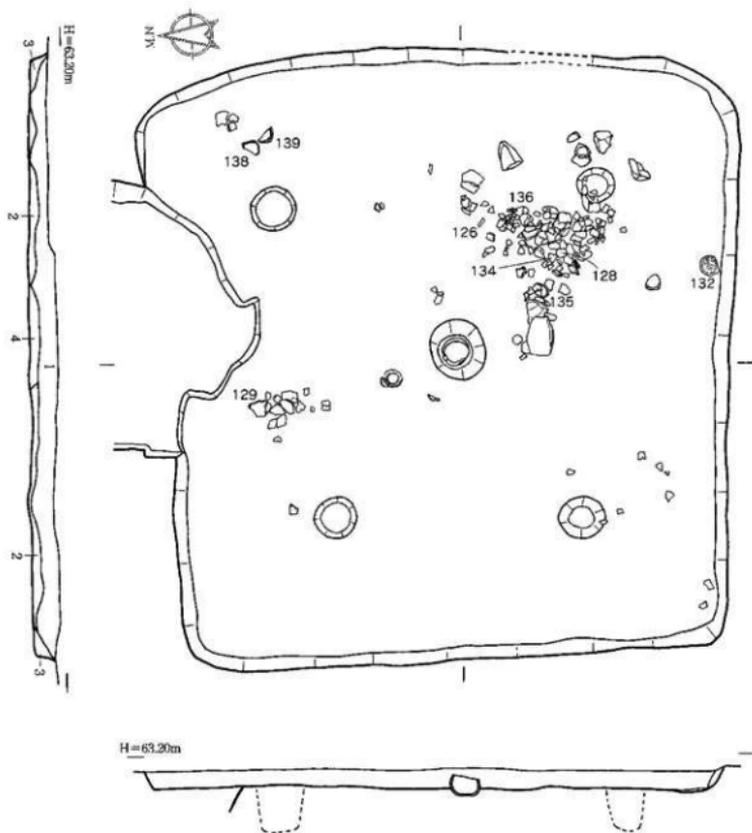
寺原集落の東側畑地帯の東端部で、姫塚古墳(西部原第202号墳)からは西約300m、第51地点からは北に約350の地点に位置している。周辺は平坦である。

調査の結果、土壇墓1基を検出した。

### 土壇墓

#### i 立地

第52地点のほぼ中央部で、検出面はアカホヤ火山灰層である。



- 1 黒色土 7.5YR2/1
- 2 黒褐色土 7.5YR2/2 アカホヤブロック多量混入
- 3 黒褐色土 10YR2/2
- 4 黒褐色土 5YR2/1 焼土混入



図38 第51地点住居跡実測図 (1/40)

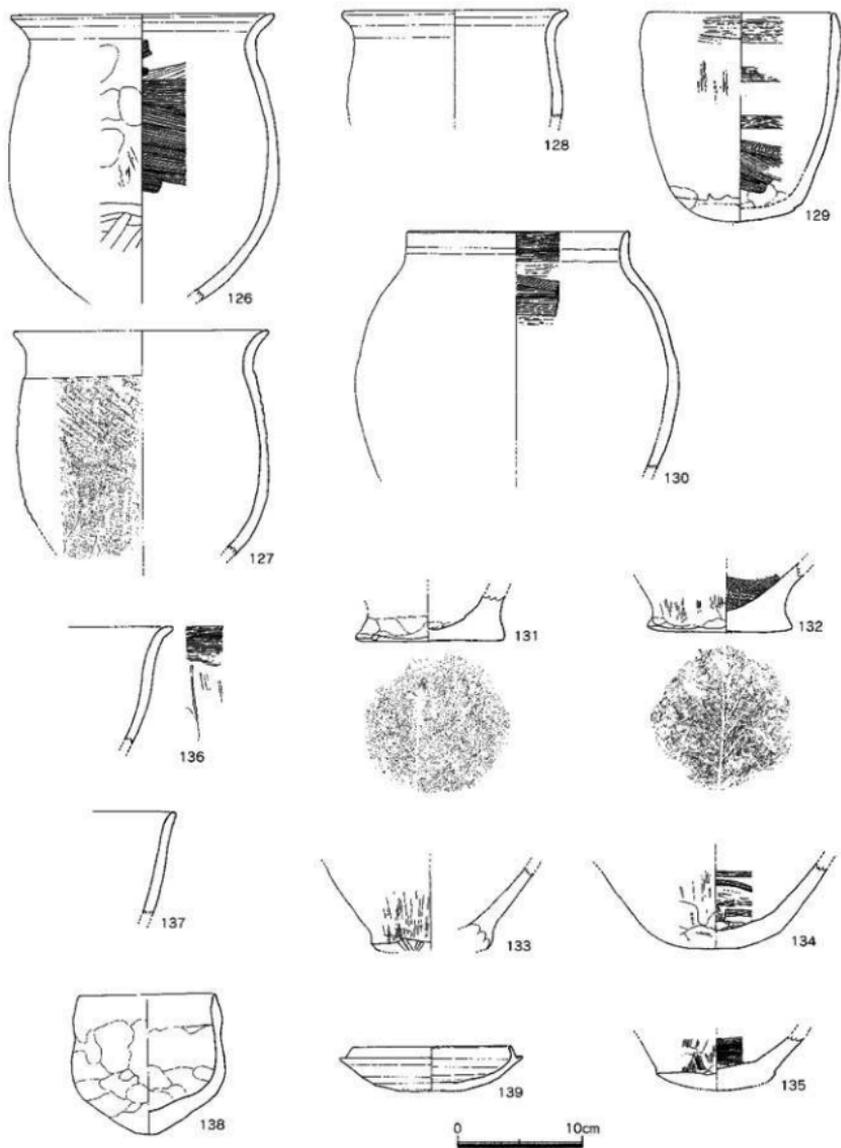


图39 第51地点住居跡内出土遺物実測図 (1/4)

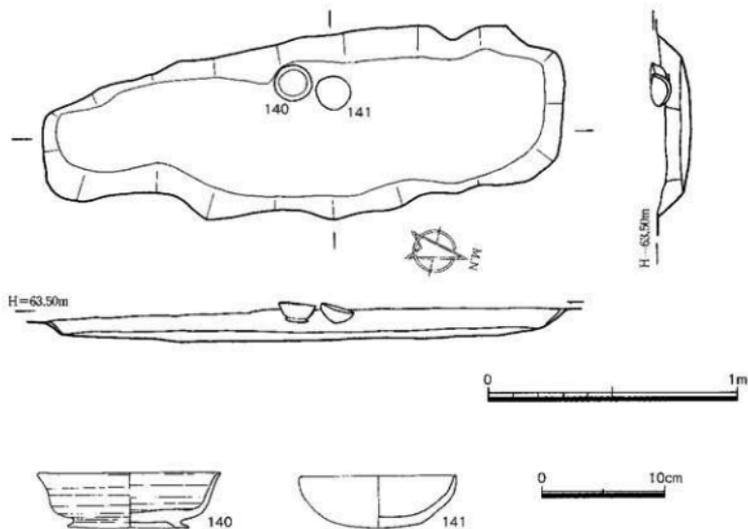


図40 第52地点土墳墓・出土遺物実測図 (1/20・1/4)

#### ii 規模と構造

長軸2.10m・短軸0.75mの規模を有し、両側が少し狭まった隅丸の長方形（長楕円形）プランのものであるが、上部のほとんどが削平され、検出面からの深さ0.05～0.08mを測る。底面は中央部が少し窪んでいる。

#### iii 出土遺物

遺物は、西側中央部から土師器椀1点と須恵器高台付椀1点の計2点が出土した。いずれも完形品で、上を向いて副葬されていた。140は須恵器高台付椀で、体部からやや外反しながら口縁部に至り、高台を有している。141は土師器椀で、丸底から内湾しながら立ち上がり口縁部に至っている。

これらの共伴遺物の特徴から、時期的には7世紀末に比定される。

ちなみに、本地点の近くの29号線道路からは同じような土師器を検出しおり、土師質の坏をはじめ黒色土器椀・刀子等が副葬されており、内容的には優位である。

### 4. 第53地点

寺原集落に隣接した畑地で、周辺は平坦である。

#### (1) 遺構と遺物

##### 掘立柱建物跡

##### i 立地

本地点の北西部で、検出面はアカホヤ火山灰層である。

##### ii 規模と構造

1×3間の南北棟で、桁行（NS）6.50m、梁間（EW）3.80～4.20mを測る。柱穴はすべて円形で、径0.40～0.48m、深さ0.13～0.26mを測る。埋土は黒色土で、1個だけ灰白色粘質土の柱痕を確認でき

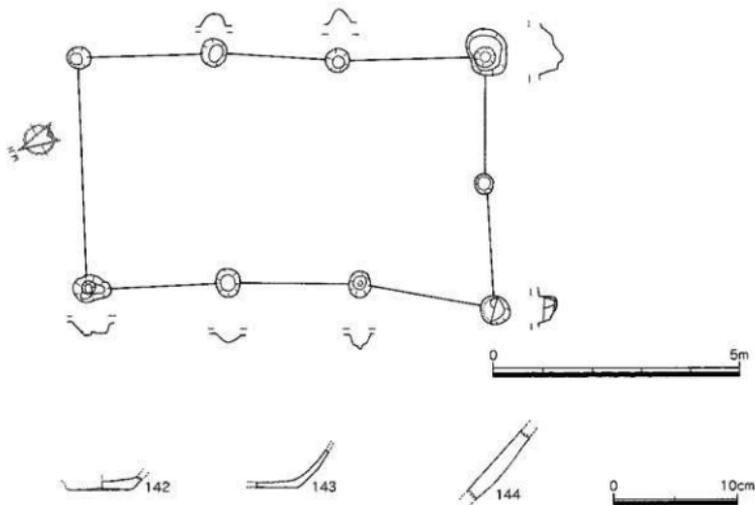


図41 第53地点掘立柱建物跡・出土遺物実測図 (1/100・1/4)

た。床面積は約23.7㎡である。

### iii 出土遺物

遺物は須恵器甕や土師器坏等が出土しているが、量的には少なく、しかもほとんどが小破片であるため、掲載可能な3点のみ取り上げた。142・143は土師器坏で、いずれもヘラ切り底の回転ナデ調整が施されている。144は須恵器甕と思われるが、表面は平行叩きで、内面には同心円状当て具痕が遺存している。

## 第4節 平成13年度の調査

平成13年度は、陵墓の南側で寺原集落の東側畑地を中心に12地点（第57～68地点）の確認調査を行った。アカホヤ火山灰層の遺存率は全体の2/3程度で良好であった。調査対象面積は約60,500㎡である。

調査の結果、第65地点から焼礫群、第60・62・65地点から竪穴式住居跡等を検出した。このなかで、第65地点については遺構及び遺物の広がり確認できたことから、来年度本調査を実施することとなった。

### 1. 第60地点

第60地点は、西郡原台地の南部で、西郡原運動公園の北東50mの地点に位置している。

#### (1) 遺構と遺物

##### 竪穴式住居跡

###### i 立地

本地点の北東部から検出したもので、検出面はアカホヤ火山灰層である。茶畑に囲まれた畑地で、地形的には平坦である。

###### ii 規模と構造

長軸4.48m・短軸4.20mの規模を有する方形プランのものであるが、西側を南北に延びた溝状遺構に切られている。検出面からの深さ0.16m前後で、床面は平坦、支柱は4本である。支柱は円形で径0.26～0.30m、深さ0.56～0.59mを測る。

###### iii 出土遺物

遺物は量的には少ないが、弥生土器甕をはじめ特徴的な器台等が出土している。145・146は口縁部が「く」字状に外反した甕で、145は、推定口径24.0cm、器高29.4cmを測る。底部は上げ底で、見た

目にはスマートな甕である。147は、器台で、口縁部から体部そして底部と曲線的にスムーズに移行するタイプのものであると推定される。上・下2段に並行して直径1.7cm程の円孔を穿っている。口縁部が遺存していないのが残念である。

相伴遺物の特徴から弥生時代後期に比定される。

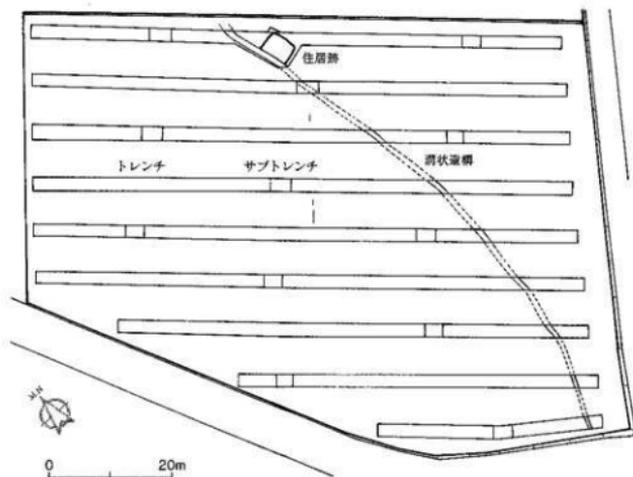


図42 第60地点調査状況（トレンチ）図（1/800）

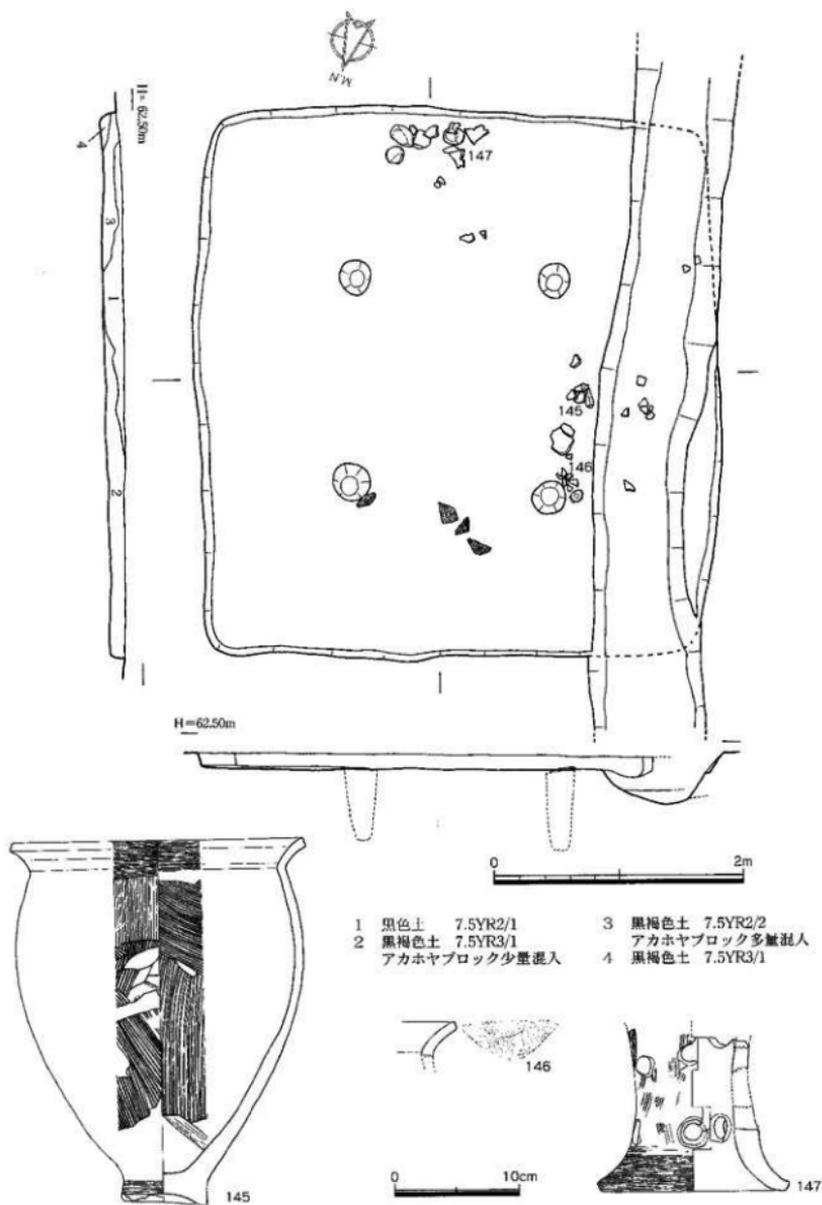


図43 第60地点住居跡・出土遺物実測図 (1/40・1/4)

## 2. 第62地点

西部原台地の北端部、西部原考古博物館の北約350mに位置している。圃場整備の際、弥生時代中期末から後期初頭の竪穴式住居跡の一角を検出した地点（2号小道路）と隣接している。

### (1) 遺構と遺物

#### 竪穴式住居跡

##### i 立地

本地点の北部から検出したもので、検出面はアカホヤ火山灰層である。農道を挟んだ北側は急傾斜地で、台地縁辺部に位置している。地形的には平坦である。

##### ii 規模と構造

長軸3.36m・短軸3.30mの規模を有する方形プランのもので、検出面からの深さ0.55mを測る。床面は平坦で、主柱は2本である。主柱は円形で径0.48~0.55m、深さ0.33~0.41mを測る。

なお、本住居跡は、北側の一部分が欠損しているが、図面を照合した結果、圃場整備の際検出したものと同一であることが判明した。

##### iii 出土遺物

遺物のほとんどは弥生土器で、緑色頁岩がわずかに出土している。148~150は甕の口縁部から胴部にかけてのもので、いずれも刻目突帯を有している。さらに、148~150は口唇部にも刻目が施されている。151・152は甕の胴部から底部にかけてのもので、151は若干の上底、152は平底と思われる。

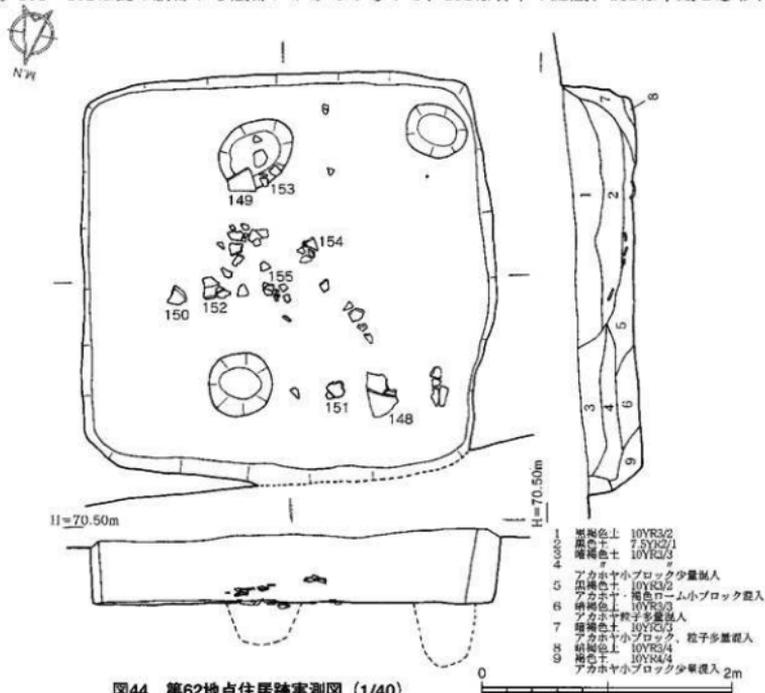


図44 第62地点住居跡実測図 (1/40)

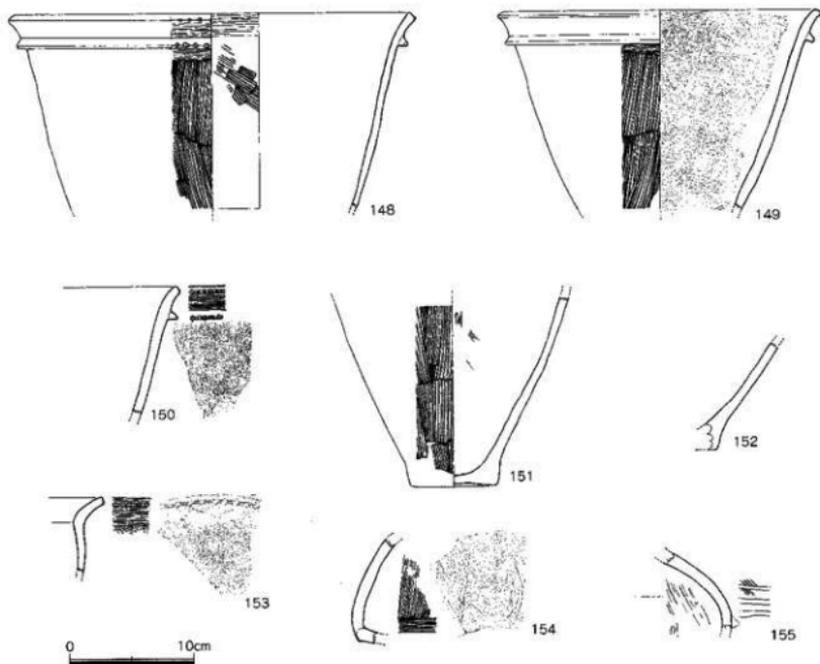


図45 第62地点住居跡内出土遺物実測図(1/4)

153は鉢の口縁部で、口唇部には刻口が施されている。154はかなり大きな「L」字状の口縁部を有する壺の頸部、155は同上部である。155には突帯が剥離した痕が見て取れる。

共伴遺物の特徴から、弥生時代中期末～後期初頭に比定される。

### 3. 第65地点

#### (1) 遺構と遺物

本地点は、圃場整備の際、縄文時代早期の集石遺構7基を検出したところ(E区)と同一畑地内の南側半分であり、今回の調査で焼礫群及び一辺5.4mと長軸5.20m・短軸4.10mの方形プランの竪穴式住居跡を検出し、さらに、遺構・遺物の広がりを確認できたことから、地権者の協力を得て、次年度本調査することとなった。よって、本年度は遺構の平面プラン等を確認したのみで調査を終了した。

## 第5節 平成14年度の調査

平成14年度は、西部原台地の北部で県立西部原考古博物館の北側、西部原台地南部で西部原運動公園の北側畑地を中心に12地点（第69～80地点）の確認調査と、前年度焼礫群や竪穴式住居跡を検出した第65地点の本調査を行った。調査対象面積は60,500㎡である。

調査の結果、第65地点から集石遺構・竪穴式住居跡、第69地点から焼礫群や竪穴式住居跡、第74地点から竪穴式住居跡、第72地点から掘立柱建物跡等を検出した。

なお、第69地点については、遺構・遺物の広がり確認できたことから、地権者の協力を得て、平成15年度に本調査することとなった。

### 1. 第65地点

西部原運動公園の北西約400m、姫塚古墳（西部原第202号墳）の南西約230mで、台地縁辺部に位置している。本調査の対象となったのは、遺構・遺物が集中している南東側1,200㎡である。調査の結果、集石遺構7基、竪穴式住居跡3軒を検出した。

なお、本畑地の北西側は圃場整備の際、E区として調査を行ったところで、縄文時代早期の集石遺構7基と溝状遺構2条を検出している。

#### (1) 遺構と遺物

##### 1号集石遺構

###### i 立地

本地点の南部で、検出面はアカホヤ火山灰下層の黒褐色ローム層からである。

###### ii 規模と構造

径0.90m・深さ0.10mの規模を有する円形プランのもので、凹レンズ状の浅い掘込みを有している。礫はあまり密集しておらず、礫は角礫が多く、火を受け赤く変色している。掘込みは黒褐色ローム層からである。

###### iii 出土遺物

遺物は出土していない。

##### 2号集石遺構

###### i 立地

本地点の南西部で、1号の約10.5mに位置している。

###### ii 規模と構造

径0.85m・深さ0.10mの規模を有する円形プランのもので、凹レンズ状の浅い掘込みを有している。礫はあまり密集しておらず、礫は角礫が多く、火を受け赤く変色している。掘込みは黒褐色ローム層からである。

###### iii 出土遺物

遺物は出土していない。

##### 3号集石遺構

###### i 立地

2号の北側に隣接している。

###### ii 規模と構造

径1.00m・深さ0.23mの規模を有する円形プランのもので、凹レンズ状の掘込みを有している。床底面の中央部に平たい礫を置き、その周囲にさらに礫を花卉状に配するタイプのものである。礫はあ

まり密集していないが、礫は角礫が多く、火を受け赤く変色している。掘込みは黒褐色ローム層からである。

iii 出土遺物

遺物は出土していない。

4号集石遺構

i 立地

本地点の西部で、5号と隣接している。

ii 規模と構造

径1.37mの規模を有する楕円形プランのもので、掘込みはなく平坦である。礫のみが集中している。礫は角礫が多く、火を受け赤く変色している。掘込みは黒褐色ローム層からである。

iii 出土遺物

遺物は出土していない。

5号集石遺構

i 立地

4号と隣接している。

ii 規模と構造

径1.14m・深さ0.05mの規模を有する円形プランのもので、掘込みは浅く平坦に近い。礫はかなり集積している。礫は角礫が多く、火を受け赤く変色している。掘込みは黒褐色ローム層からである。

iii 出土遺物

遺物は出土していない。

6号集石遺構

i 立地

本地点の北部に位置している。

ii 規模と構造

径1.31m・深さ0.12mの隅丸方形に近い円形プランのもので、凹レンズ状の掘込みを有している。床底面に大きな平たい礫を置き、その周囲に礫を集積するタイプのものである。礫は密集しており、礫は角礫が多く、火を受け赤く変色している。掘込みは黒褐色ローム層からである。

iii 出土遺物

遺物は出土していない。

7号集石遺構

i 立地

本地点の北部で、6号の北約8.0mに位置している。

ii 規模と構造

本地点では最小規模のもので、径0.62m・深さ0.10mを測る。円形プランのもので、凹レンズ状の掘込みを有している。礫はあまり密集していないが、礫は角礫が多く、火を受け赤く変色している。掘込みは黒褐色ローム層からである。

iii 出土遺物

遺物は出土していない。

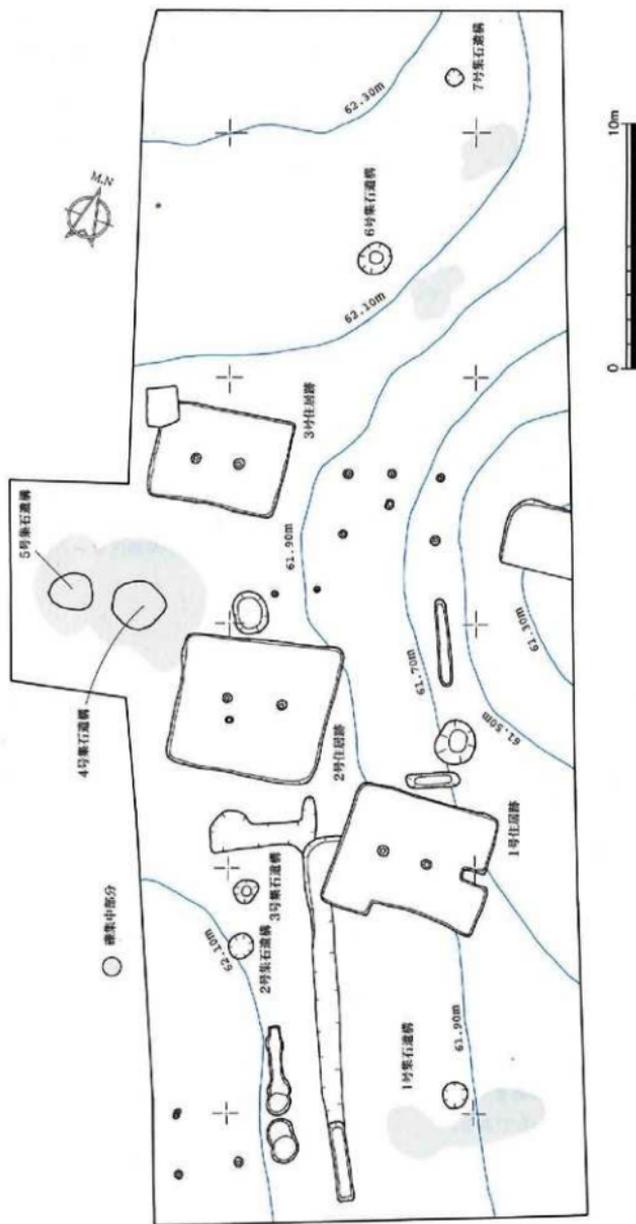


图46 第65地点遺構分布图 (1/40)

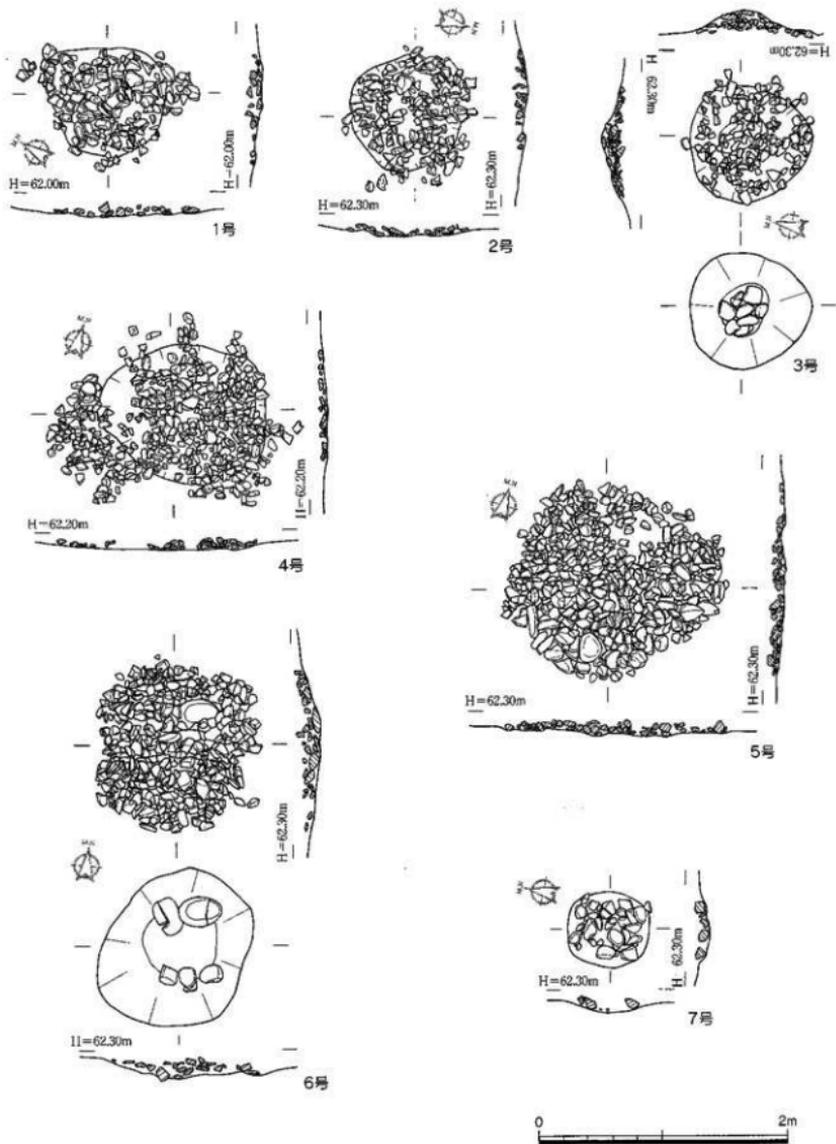


图47 第65地点集石遺構実測図 (1/40)

## 1号住居跡

### i 立地

第65地点の南側で、検出面はアカホヤ火山灰層である。地形的には東側に向かって少し傾斜している。

### ii 規模と構造

長軸6.06m・短軸4.60mの規模を有する長方形プランのものであるが、東辺中央部は内側に突出壁を持ち、南辺西部は外側に向かって長方形に張り出している。検出面からの深さ0.26mを測り、床面は平坦で、支柱は2本である。支柱は円形で、径0.43～0.46m、深さ0.72～0.90mを測る。

### iii 出土遺物

器形的には甕・壺・鉢等が出土しているが、量的には甕・壺が全体の90%以上を占めている。156・157は口縁部が少し外反した甕で、下がり気味の突帯を有している。158は刻目突帯、159・160は「く」字状に外反した甕の口縁部である。161・162は上げ底の甕の底部である。162・163は特徴的な壺の口縁部で、163の口唇部には並行した5条の沈線を巡らせている。164は鋸先状口縁に鋸歯状の沈線が施されている。165は壺の胴上部である。166・167は幅広い底部の鉢で、器厚は薄く、丁寧なヨコハケ調整が施されている。その他の地点ではあまり見られない器形の鉢である。

## 2号住居跡

### i 立地

第65地点のほぼ中央部で、1号住居跡の北西10.7m（中央から中央）に位置している。検出面はアカホヤ火山灰層で、地形的には平坦である。

### ii 規模と構造

第65地点では最大のもので、長軸6.10m・短軸5.60mの規模を有する方形プランのものであるが、わずかに北東隅が外側に出ている。検出面からの深さ0.18mを測り、床面は平坦で、支柱は2本である。支柱は円形で、径0.35～0.38m、深さ0.70～0.73mを測る。

### iii 出土遺物

形態的には甕・壺で、量的には甕が圧倒的に多い。168・169は口縁部が「く」字状に外反した甕の口縁部である。168は突帯を有しており、縄目状の刻目が施されている。170・171は甕の底部から胴部にかけてのもので、いずれも上げ底の底部から外方向に直線的に立ち上がるスマートな甕である。172は壺の頸部から胴部で、器厚は薄く、丁寧なハケ目調整が全面に施されている。

## 3号住居跡

### i 立地

第65地点の北西部で、2号住居跡の北約10.0mに位置している。検出面はアカホヤ火山灰層で、地形的には平坦である。

### ii 規模と構造

第65地点では最小のもので、長軸5.34m・短軸3.92mの規模を有する長方形プランのものである。南辺は内側に若干膨らみ、北西隅は攪乱を受けている。検出面からの深さ0.30mを測り、床面は平坦で、支柱は2本である。支柱は円形で、径0.37m、深さ0.58～0.66mを測る。

### iii 出土遺物

弥生土器が少量と鉄片が出土しているが、小片のため掲載しなかった。これらは、共伴遺物の特徴から、弥生時代後期に比定される。

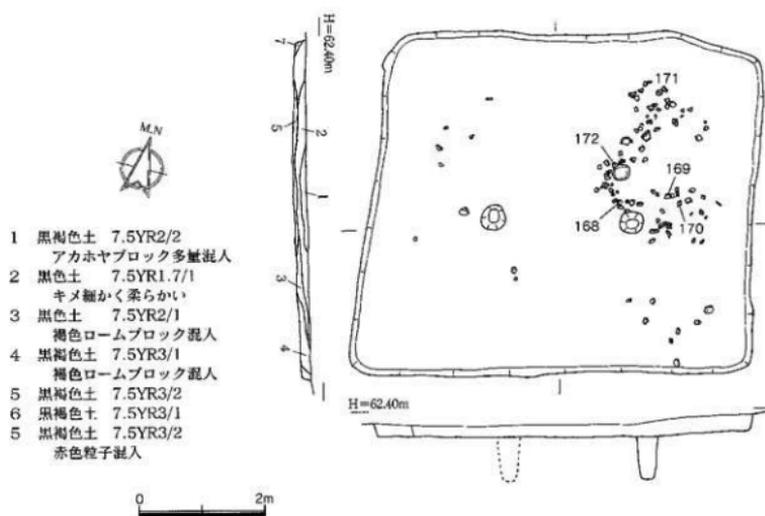
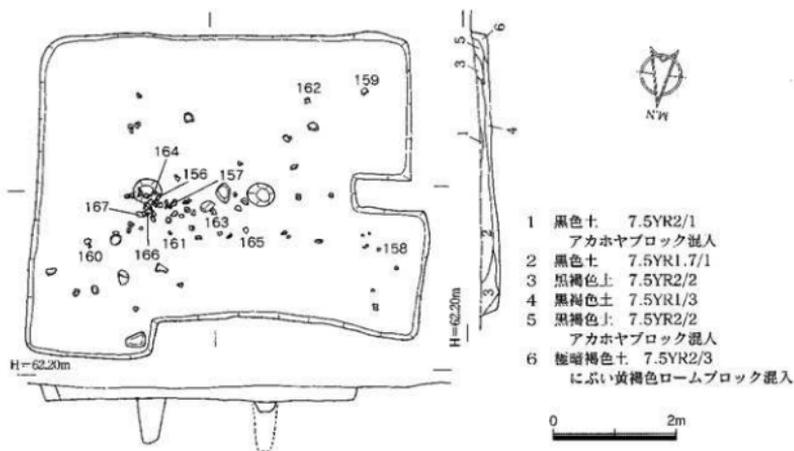
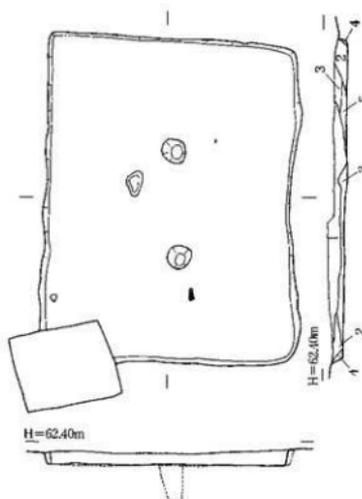


図46 第65地点1号・2号住居跡実測図 (1/80)



- 1 黒色土 7.5YR2/1 しまりなし  
透明粒子混入
- 2 黒褐色土 7.5YR2/2 //  
少し荒い アカホヤ小ブロック混入
- 3 黒褐色上 7.5YR3/1 //  
少し荒い 褐色・白色粒子混入
- 4 黒褐色上 7.5YR2/3 //  
少し荒い 透明・褐色・白色粒子混入
- 5 黒褐色上 7.5YR3/1 //  
アカホヤ小ブロック混入

図49 3号住居跡実測図 (1/80)

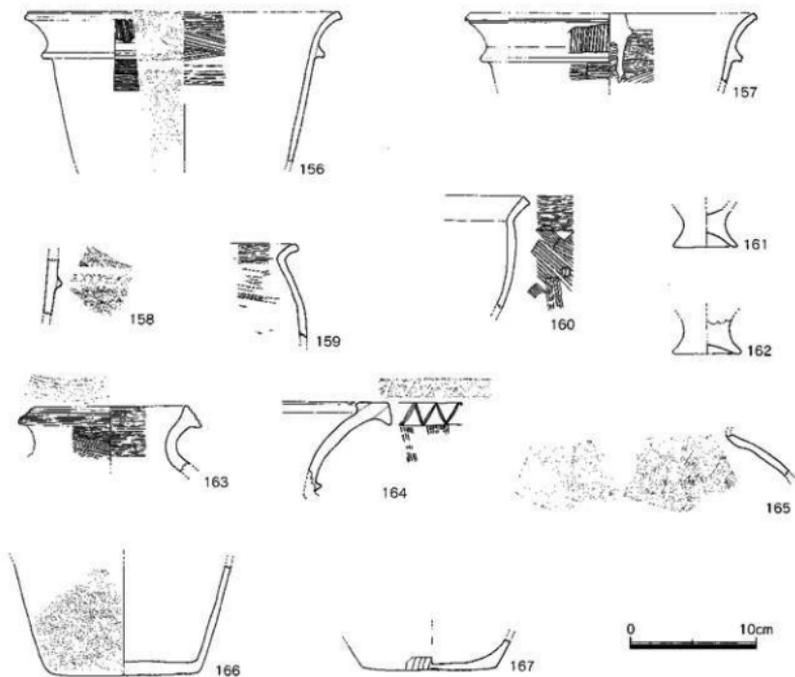


図50 1号住居跡内出土遺物実測図 (1/4)

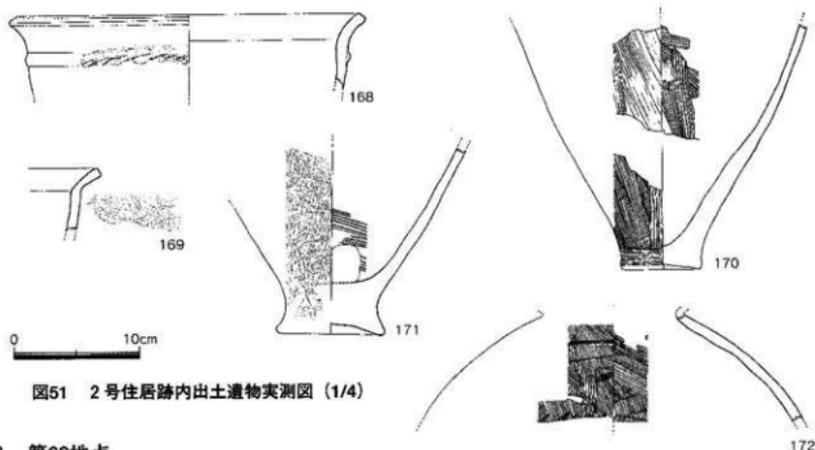


図51 2号住居跡内出土遺物実測図 (1/4)

## 2. 第69地点

### (1) 遺構と遺物

第69地点は、西部原台地の北部で、県立西都原考古博物館の北約300mに位置している。調査にて、焼礫群及び竪穴式住居跡2軒を検出したが、遺構・遺物の広がり方が確認できたことから、次年度本調査することとなった。

なお、この竪穴式住居跡のなかで東側の円形プランのものは、出土遺物から縄文時代晩期のものである可能性が高く、市内でも初めての検出例であることから、貴重な資料である。

## 3. 第72地点

第72地点は、西部原台地南部で、西都原運動公園の北東約250mに位置している。調査の結果、掘立柱建物跡を検出した。

### (1) 遺構と遺物

#### 掘立柱建物跡

##### i 立地

本地点の北部から検出している。検出面はアカホヤヤ火山灰層である。

##### ii 規模と構造

2×3間の南北棟で、柱穴は径0.42～0.56m、深さ0.40～0.61m、柱穴間1.75～1.90mを測る。主軸の方向はN-14°-Eで、床面積は約19.6㎡と推定される。

##### iii 出土遺物

遺構と相伴して遺物は全く出土しておらず、時期的なことはまったく不明である。

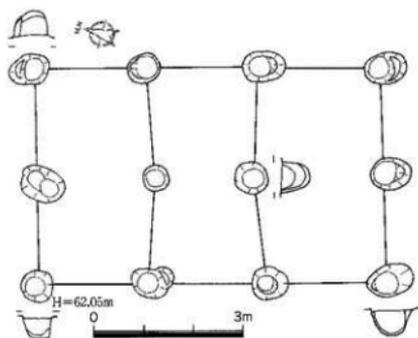


図52 第72地点掘立柱建物跡実測図 (1/100)

#### 4. 第74地点

第74地点は、西都原台地の西部で、寺原集落の東側に位置している。調査の結果、竪穴式住居跡や溝状遺構等を検出した。なお、この竪穴式住居跡については、地権者のご好意により、現状保存することとなった。

##### (1) 遺構と遺物

###### 竪穴式住居跡

###### i 立地

第74地点の北端部から検出したもので、検出面はアカホヤ火山灰層である。

###### ii 規模と構造

南辺約6.10m・東辺約7.50mの規模を有する長方形プランのものであるが、北部を東西に延びる溝状遺構に切られている。また、東辺には長方形、西辺には台形状の張り出しを有している。検出面からの深さ0.30mを測り、床面は平坦で、支柱は4本である。支柱は円形で、径0.41~0.54m、深さ0.64~0.75mを測る。

###### iii 出土遺物

形態的には甕・壺・高坏等にミニチュア土器が含まれている。量的には甕・壺が圧倒的に多いが、他地点の竪穴式住居跡と比較して高坏が多いことが注目される。173~177は口縁部が「く」字状に外反した甕で、特に173は円柱状の平底から少しずつ内湾しながら立ち上がるスマートな甕で口径26.3cm、器高29.5cmを測る。178は甕の胴部で、低い突帯を有している。179~185は甕の底部で、平底のもの(179~182)や上げ底のもの(183~185)がある。186・187は甕のミニチュア土器の底部と思われる。188~193は壺の口縁部で、188~191はいずれも上部分が逆「く」字状を呈した二重口縁壺である。188は逆「く」の下部分かかなり長く、頸部には突帯を有している。表面の風化が著しく調整等ははっきりしない。口径18.0cmを測る。189の口縁部には凹線、190には並行した斜線と横位の沈線、191には波状沈線が施されている。194・195は壺の頸部から胴部、196は壺の胴部である。197~202は壺の底部で、いずれも平底である。中には197のように円柱状の底部を有するものも含まれている。203~206は高坏の坏部で、207~215は高坏の脚部である。脚部で見ると、脚端部の外側と内側にかえりを有しているもの(209・210・213)、外側のみ有しているもの(208・214・215)、かえりを有していないもの(211・212)に分類できる。ヘラ崩き・ハケ目・ヨコナデ調整等で仕上げられている。216は高坏のミニチュア土器と思われる。

共伴遺物の特徴から、弥生時代終末に比定される。

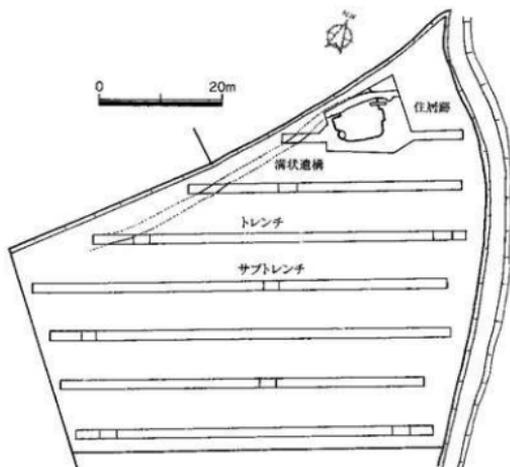
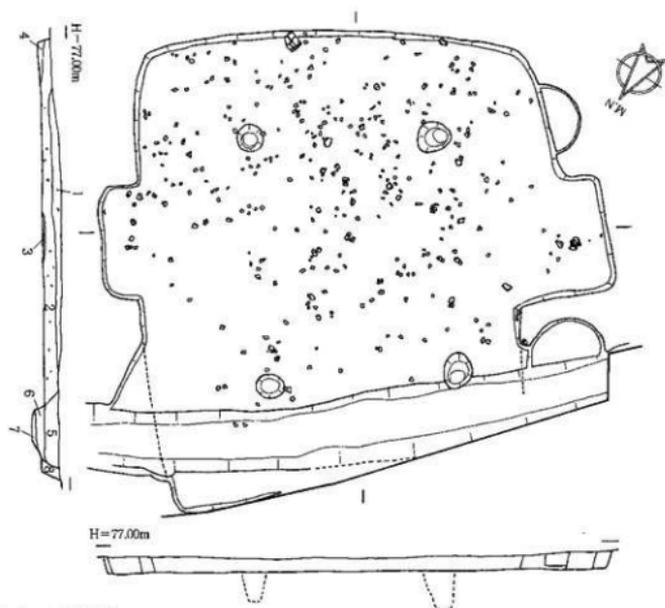


図53 第74地点調査状況(トレンチ)図(1/800)



- |   |      |            |              |
|---|------|------------|--------------|
| 1 | 黒色土  | 7.5YR2/1   |              |
| 2 | 赤褐色土 | 7.5YR3/1   | アカホヤブロック混入   |
| 3 | 黒褐色土 | 7.5YR3/2   | アカホヤブロック多量混入 |
| 4 | 黒色土  | 7.5YR1.7/1 |              |
| 5 | 黒色土  | 7.5YR2/1   |              |
| 6 | 黒色土  | 7.5YR1.7/1 | 溝            |
| 7 | 黒色土  | 7.5YR2/1   |              |
| 8 | 黒色土  | 7.5YR3/1   | アカホヤブロック少量混入 |

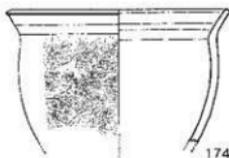
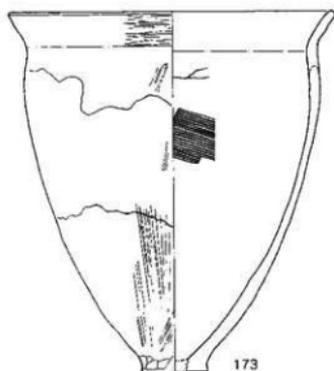


図54 第74地点住居跡・出土遺物実測図 (1/80・1/4)

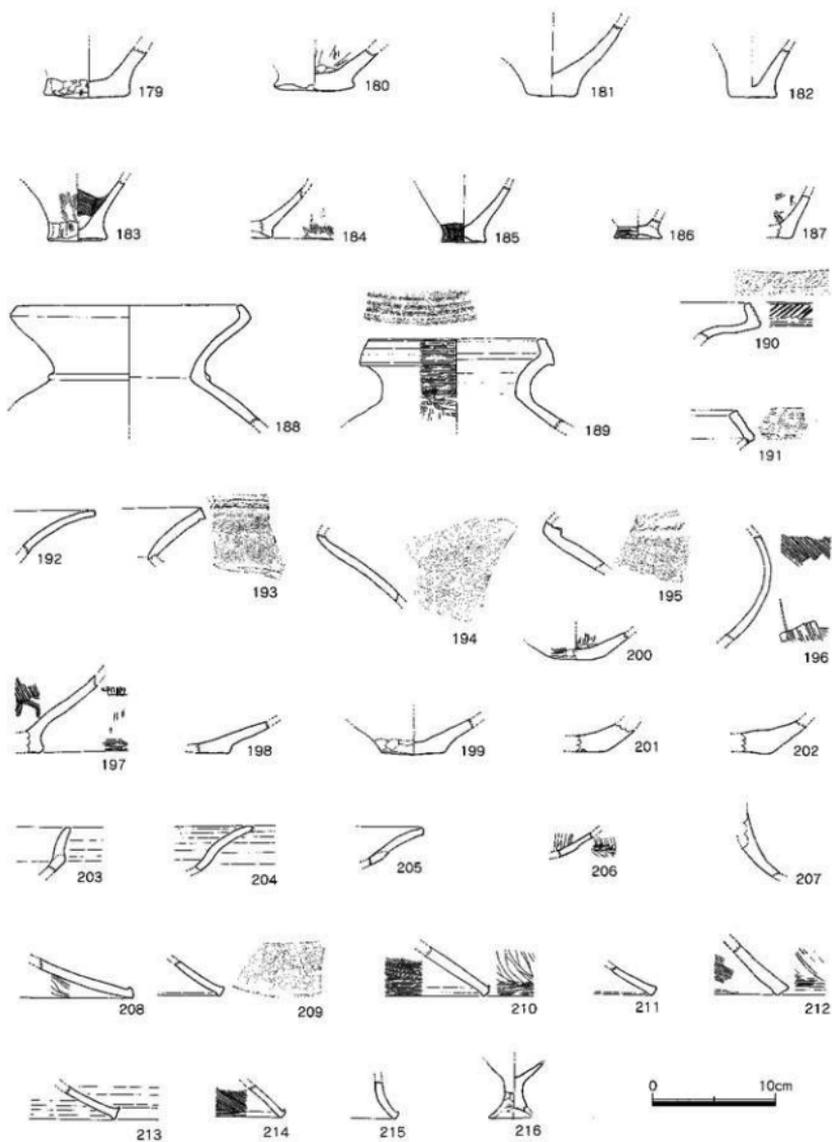


图55 第74地点住居跡内出土遺物実測図 (1/4)

## 第6節 平成15年度の調査

平成15年度は、西都原台地の南部の2地点（81・82地点）の確認調査と、昨年度焼礫群及び竪穴式住居跡を検出した第69地点及び本年度確認調査で竪穴式住居跡群を検出した第81地点の本調査を行った。

調査の結果、第69地点から集石遺構・竪穴式住居跡・土墳墓、第81地点から竪穴式住居跡群及び溝状遺構等を検出した。

なお、このなかで第81地点については、南側が西都原古墳群として整備された地域（寺原第2支群）、北側が圃場整備の道路改良に伴う調査にて竪穴式住居跡群を検出した道路に隣接している。さらに、この道路から北側畑地では耕している際に竪穴式住居跡が多数目視されることから、集落の復元を目的に保存整備をすることが計画されたところでもある。残念ながら承諾が得られずに実現はできなかったものの、第81地点はこれらに関連した重要なところであることは明白であることから、将来の保存整備のことも考慮したうえで地権者と協議を重ねた結果、ご好意により現状保存することで合意にいたった。

### 1. 第69地点

西都原台地の北部で、県立西都原考古博物館から北約300mに位置している。昨年度焼礫群及び竪穴式住居跡を検出したところで、圃場整備の際、焼礫群を検出したところ（2号小道路）とも隣接している。調査の結果、集石遺構・竪穴式住居跡・土墳墓等を検出した。

#### (1) 遺構と遺物

##### 1号集石遺構

###### i 立地

第69地点の西部で検出したもので、1号住居跡の南西約24.0mに位置している。検出面は黒褐色ローム層である。

###### ii 規模と構造

径1.60m、深さ0.44mの規模で、円レンズ状の掘込みを有している。床底面の中央に約30cmの平たい礫を2個置き、その周囲に礫を配している。礫は角礫が多く、火を受け赤く変色している。

###### iii 出土遺物

遺物は全く出土していない。

##### 2号集石遺構

###### i 立地

1号集石遺構の南東約3.6mで、検出面は1号と同じく黒褐色ローム層である。

###### ii 規模と構造

径0.91m、深さ0.16mの規模で、浅い円レンズ状の掘込みを有している。礫は角礫が多く、火を受け赤く変色している。

###### iii 出土遺物

遺物は全く出土していない。

今回、遺構とは共伴しないが、多くの縄文土器や石器が出土している。217～221は貝殻条痕文系土器の口縁部、222・223は貝殻条痕文系土器の胴部である。表面に横位あるいは斜位に貝殻復縁による



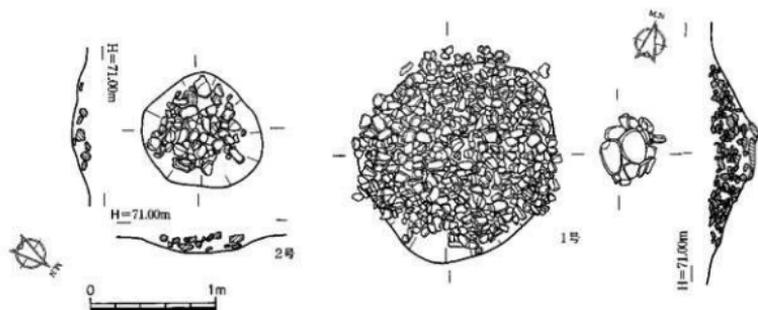


图57 第69地点集石遺構実測図 (1/40)

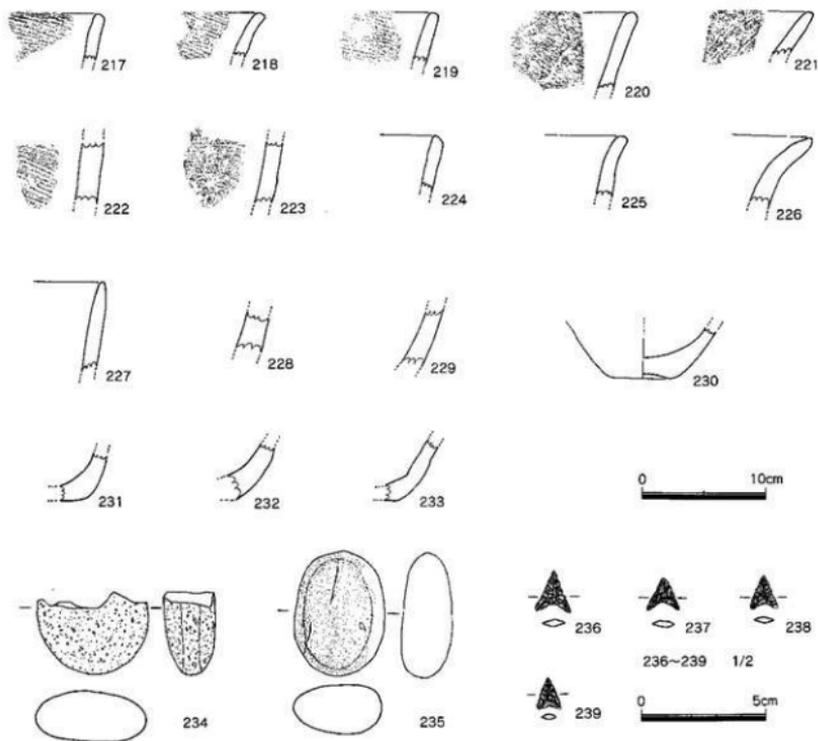


图58 第69地点出土遺物実測図 (1/4 · 1/2)

文様が施されている。224～227は無文土器の口縁部で、直線的なもの(224・227)と外反するもの(225・226)がある。228・229は無文土器の胴部、230～233は無文土器の底部で、平底と上げ底がある。234・235は敲石で、石材は234が尾鈴山酸成岩製、235が砂岩製である。236～239は石罫で、石材は236～238はチャート、239は黒曜石である。いずれも基部が凹基式のものである。

#### 1号住居跡

##### i 立地

第69地点の北部で、5号土壇墓と重複している。北側部分は農道により削平されている。検出面はアカホヤ火山灰層である。

##### ii 規模と構造

一辺2.80mの規模を有する方形プランのもので、検出面からの深さ0.33mを測る。床面は平坦であるが、支柱は2本である。支柱の径は0.35m・深さ0.74～1.04mを測る。この支柱と支柱の間には焼土が確認できる。炉として使用していたところと思われる。

##### iii 出土遺物

遺物は量的にはかなり少なく、小片が多いことから、石器1点を含む4点を掲載した。240・241は口縁部が外反した壺の口縁部、242は壺の胴上部で円形の浮文と突帯を有している。243は緑色頁岩の石罫で、基部は凹基式である。

共伴遺物の特徴から、弥生時代中期末から後期初頭に比定される。

#### 2号住居跡

##### i 立地

第69地点の南東部で、検出面はアカホヤ火山灰層である。

##### ii 規模と構造

径2.60mの規模を有する円形プランのものであるが、きちんとした円形ではなく、凸凹している。検出面からの深さは浅く0.12mを測る。床面は平坦であるが、支柱は確認できなかった。

##### iii 出土遺物

2号住居跡はさらに遺物の量は少ない。本調査ではほとんど出土しなかったことから、確認調査の際出土したものを2点掲載した。243は深鉢の口縁部で、胎土も調整もかなり荒い仕上がりととなっている。244は底部で、平底である。

共伴遺物の特徴から、縄文時代晩期に比定される。

#### 1号土壇墓

##### i 立地

土壇墓は第69地点の北部で、1号住居跡を検出した西側周辺に集中している。1号土壇墓はそのなかでも一番西に位置しているもので、検出面はアカホヤ火山灰層である。

##### ii 規模と構造

長軸1.79m・短軸1.48mの規模を有する楕円形プランである。検出面からの深さ0.33～0.45mを測る。検出面は南から北に向かって、床面は北から南に向かって下がっている。

##### iii 出土遺物

5基検出した中で最も出土量が多い。総数で22点出土している。245・246は口縁部が直行し、刻目突帯を有する甕、247・248は口縁部が外反した壺の口縁部及び頸部、249は壺の底部で平底である。250は鉢の底部と思われる。

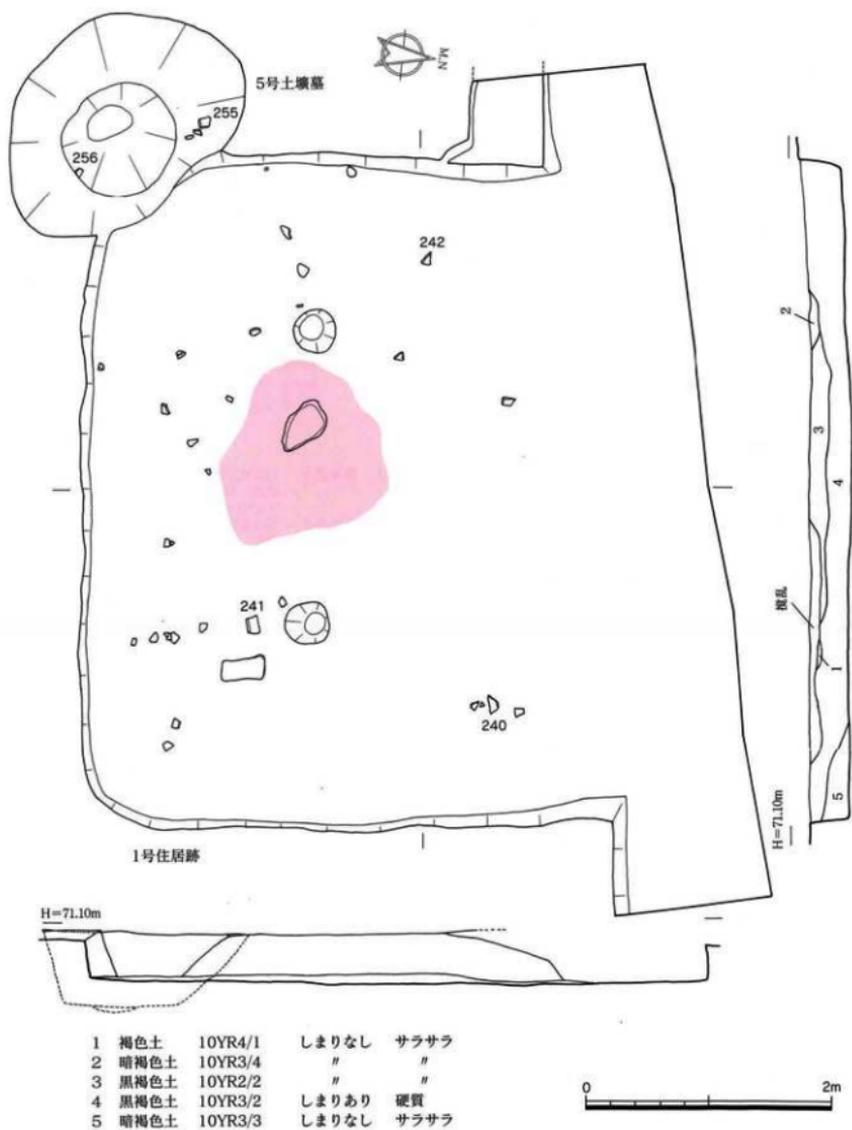


図59 第69地点1号住居跡・5号土墳墓実測図 (1/40)



図60 1号住居跡内出土遺物実測図 (1/4)

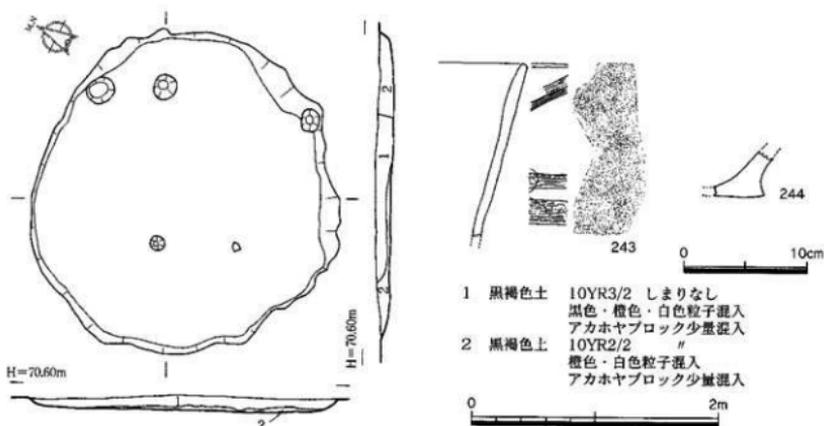


図61 2号住居跡・出土遺物実測図 (1/40・1/4)

- |   |      |         |                                       |
|---|------|---------|---------------------------------------|
| 1 | 黒褐色土 | 10YR3/2 | しまりなし<br>黒色・橙色・白色粒子混入<br>アカホヤブロック少量混入 |
| 2 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | 〃<br>橙色・白色粒子混入<br>アカホヤブロック少量混入        |

## 2号土墳墓

### i 立地

1号土墳墓の南東約2.6mに位置している。検出面はアカホヤ火山灰層である。

### ii 規模と構造

径1.70mの規模を有する少し変形した円形プランのものである。検出面からの深さ0.34mを測る。床面は平坦である。

### iii 出土遺物

量的には少なく、総数6点である。251は口縁部が「く」字状に外反した甕の口縁部で、刻目突帯を有している。また、口唇部にも刻目が施されている。252は甕の胴部である。

## 3号土墳墓

### i 立地

2号土墳墓の南東約2.4mに位置している。検出面はアカホヤ火山灰層である。

### ii 規模と構造

長軸1.43m・短軸1.27mの規模を有する楕円形プランのもので、このなかで最小のものである。検出面からの深さ0.43mを測る。床面はほぼ平坦である。

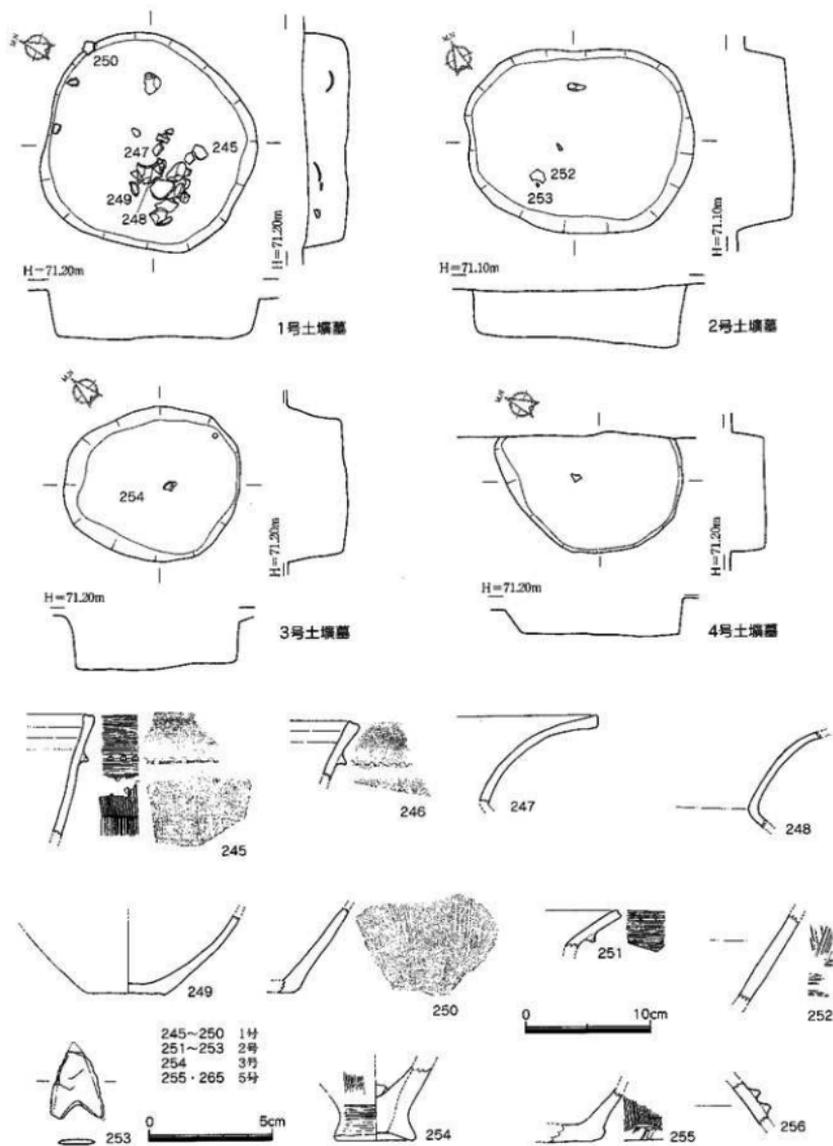


图62 第69地点土坑墓·出土遗物实测图 (1/40·1/4)

### iii 出土遺物

総数2点で、その内1点を掲載した。254は甕の底部で上げ底である。

## 4号土壇墓

### i 立地

3号土壇墓の東約1.8mに位置している。検出面はアカホヤ火山灰層である。

### ii 規模と構造

長軸は推定1.45m・短軸1.30mの規模を有する楕円形プランのものと思われる。検出面からの深さ0.26mで、他のものと比較するとかなり浅い。床面は平坦である。

### iii 出土遺物

遺物は1点のみである。

## 5号土壇墓

### i 立地

4号土壇墓の東約2.2mに位置し、1号住居跡の南西部と重複している。検出面はアカホヤ火山灰層である。

### ii 規模と構造

長軸2.15m・短軸1.47mの規模を有する楕円形プランのもので、このなかで最大のものである。検出面からの深さ0.56mを測る。

### iii 出土遺物

総数5点で、その内2点を掲載した。256は壺の胴上部で2条の突帯を有している。255は鉢の底部で平底である。

## 2. 第81地点

西部原台地の南西部で、寺原集落の南側に位置している。塚原古墳（西部原第202号墳）からは西約680mである。調査の結果、竪穴式住居跡群及び溝状遺構等を検出した。なお、本地点のその後の措置については前述したとおりである。なお、各住居跡の時期については第V章のまとめのなかで考察するのでここでは省略する。

地形的には、東から西に向かって緩やかに傾斜し、その比高差約0.50mを測る。

### (1) 遺構と遺物

#### 1号住居跡

##### i 立地

本地点のほぼ中央部で、東約7.5mには2号住居跡が位置している。南部隅が5号溝状遺構と重複している。検出面は1号～8号住居跡までいずれもアカホヤ火山灰層である。

##### ii 規模と構造

長軸6.35m・短軸6.00mの規模を有する方形プランのもので、検出面からの深さ0.28mを測る。床面は平坦であるが、周囲の地形に合わせて東から西に向かって若干傾斜している。主柱は4本で、径0.33～0.45m、深さ0.32～0.49mを測る。南部隅部分が溝状遺構と重複しているが、掘削前から確認できたことから、時期的には溝状遺構の方が新しいものである。

##### iii 出土遺物

遺物の量としては、第81地点の中では最も多く、総数約2,090点を出土しているが、小片がほとんどである。257・258は11線部が「く」字状に外反した甕の口縁部、259～262は甕の底部である。260

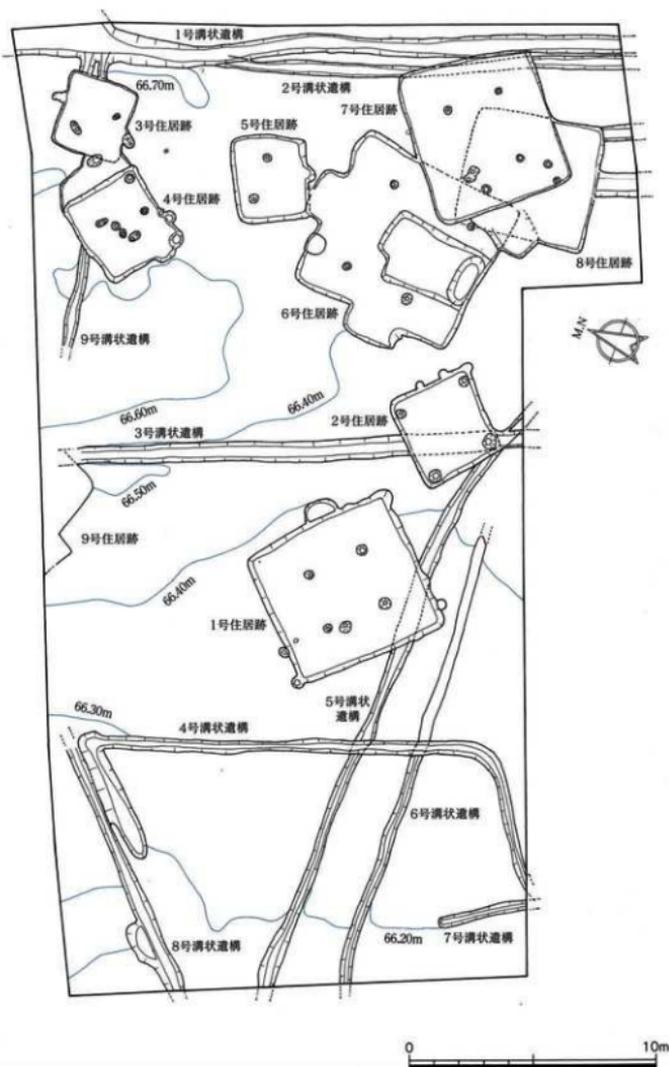


图63 第81地点遺構分布图 (1/200)



- |   |      |         |       |                             |
|---|------|---------|-------|-----------------------------|
| 1 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | しまりなし | 黒色・橙色・白色粒子混入<br>アカホヤ小ブロック混入 |
| 2 | 黒色土  | 10YR1/2 | "     | 黒色・橙色・白色粒子混入<br>アカホヤ小ブロック混入 |
| 3 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | "     | 黒色・橙色・白色粒子混入                |
| 4 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | "     | 黒色・橙色・白色粒子混入                |

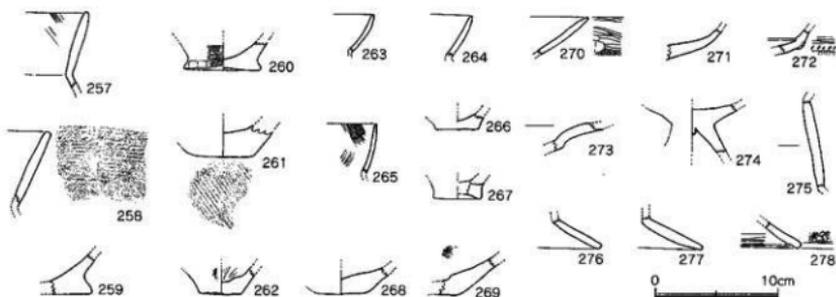


図64 1号住居跡・出土遺物実測図 (1/60・1/4)

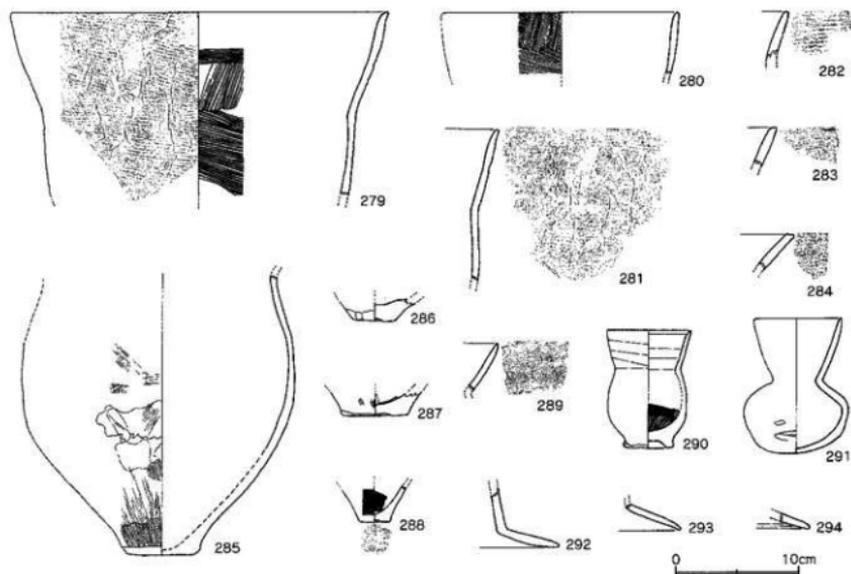
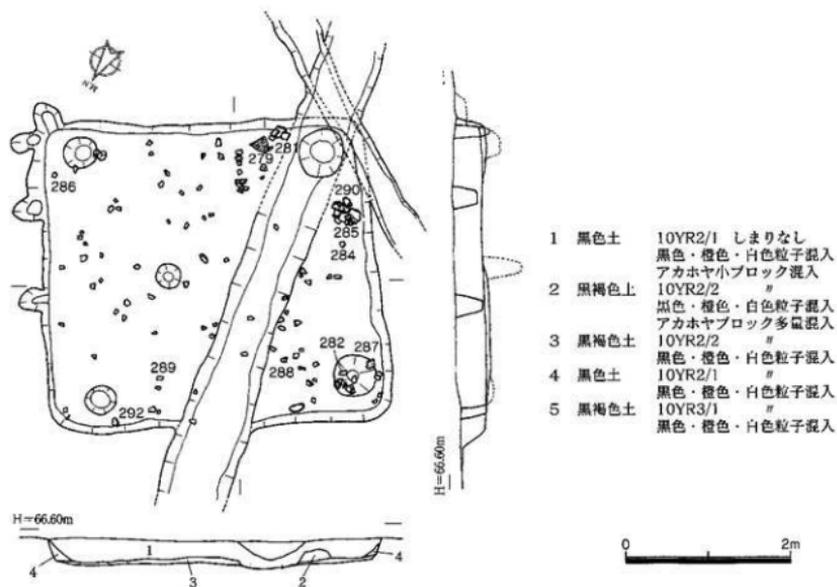


図65 2号住居跡・出土遺物実測図 (1/60・1/4)

は上げ底で、それ以外は平底である。263～265は小型丸底壺の口縁部、266・267は底部である。268・269は壺の底部で、平底である。270～273は高坏の坏部で、272には刻目が施されている。ヘラ磨き調整のものが多い。274は高坏の基部、275～278は高坏の脚部で、脚端部は丸まっているもの(277)と平坦(276・278)があるが、第74地点のようにかえりのあるものは見られない。

## 2号住居跡

### i 立地

1号住居跡の東約7.5m、対象地の南側中央部に位置している。3号及び5号溝状遺構と重複している。

### ii 規模と構造

長軸3.80m・短軸3.45mの規模を有する方形プランのもので、検出面からの深さ0.25mを測る。床面は平坦である。主柱は4本であるが、かなり四隅によって掘り込まれている。径0.36～0.50m、深さは浅く0.06～0.18mを測る。溝状遺構は2号住居跡の南西隅と北辺中央部から南西隅に向かって延びているが、住居跡を掘削する前から確認できたことから、溝状遺構の方が新しい時期のものである。

### iii 出土遺物

総数約550点が出土している。器形的には、甕・壺・高坏に加え、ミニチュア土器や小型丸底壺が含まれている。279～284は口縁部が「く」字状に外反した甕の口縁部であるが、279～282はその角度が緩やかである。285～287は甕の底部で、いずれも平底である。285は胴部中央部に最大幅を有するもので、22.0cmを測る。288は甕のミニチュア土器の底部で、底面には木の葉痕が遺存している。289・290は小型丸底壺であるが、289は口縁部小片、290は完形である。290は口径6.8cm・底径4.2cm・器高9.6cmを測る。291も小型の長頸壺で、丸底である。口径6.8cm・器高11.0cmを測る。292～294は高坏の脚部で、脚端部は丸い。

## 3号住居跡

### i 立地

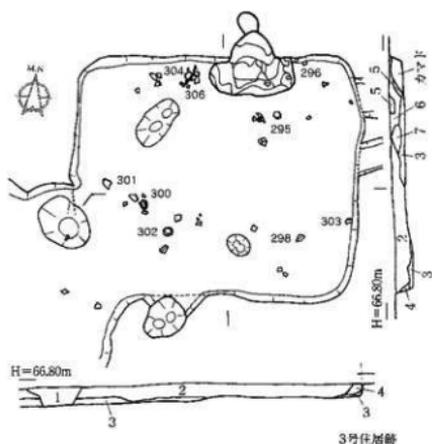
本地点の北東部隅に位置し、9号溝状遺構と重複している。

### ii 規模と構造

本地点では最小のもので、長軸3.20m・短軸2.80mの長方形プランである。北辺中央部にはカマドを有している。カマドは、幅0.95m・奥行き0.75m・高さ0.15mで、押し潰された状態で検出した。位置的には北壁や東寄りに、灰白色粘土にて造られている。煙道は伴わない。カマド内の中央部には炭化物と橙色・白色の小粒子を多量に含んだ層と、焼けて赤味を帯びた灰白色粘質土が見られた。検出面からの深さ0.15mを測る。床面は南側が若干低くなっている。柱穴は北西隅と南東隅で検出したが、上層を支持する主柱とは思われない。カマドを有しているのは3号のみで本地点では一番新しい時期の住居跡である。

### iii 出土遺物

総数約150点が出土している。295～297は口縁部が「く」字状に外反した甕の口縁部である。298～303は土師器坏で、いずれもヘラ切り底で回転ナデ調整が施されている。298は推定口径14.1cm・底径2.4cm・器高2.4cm、299は推定口径13.6cm・底径7.4cm・器高4.0cmを測る。304～306は粗雑な作りで、内面にはいずれも布口痕が遺存している布痕土器である。見た口にはかなり赤味(橙色2.5Y R6/8)を帯びており、土器群の中から容易に探し出すことができる。



- |   |      |           |                                       |
|---|------|-----------|---------------------------------------|
| 1 | 黒褐色土 | 10YR2/2   | しまりなし<br>黒色・褐色・白色粒子混入<br>アカホヤブロック少量混入 |
| 2 | 黒色土  | 10YR2/1   | 黒色・褐色・白色粒子混入<br>アカホヤブロック少量混入          |
| 3 | 黒褐色土 | 10YR3/1   | 黒色・褐色・白色粒子混入<br>アカホヤ粒子多量混入            |
| 4 | 黒色土  | 10YR1.7/1 | 黒色粒子混入                                |
| 5 | 黒褐色土 | 10YR2/3   | 黒色・褐色・白色粒子混入<br>アカホヤ小ブロック多量混入         |
| 6 | 黒褐色土 | 10YR3/1   | 黒色粒子混入<br>アカホヤブロック混入                  |

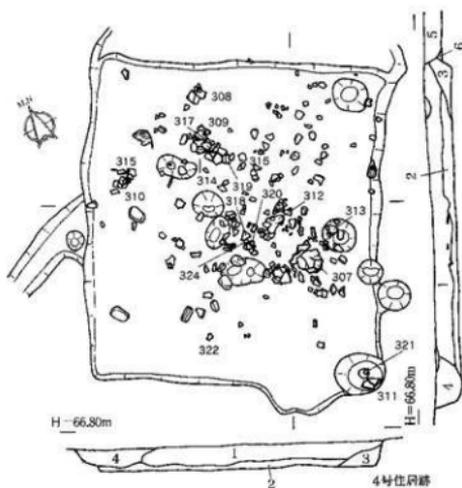


図66 3号・4号住居跡実測図 (1/60)

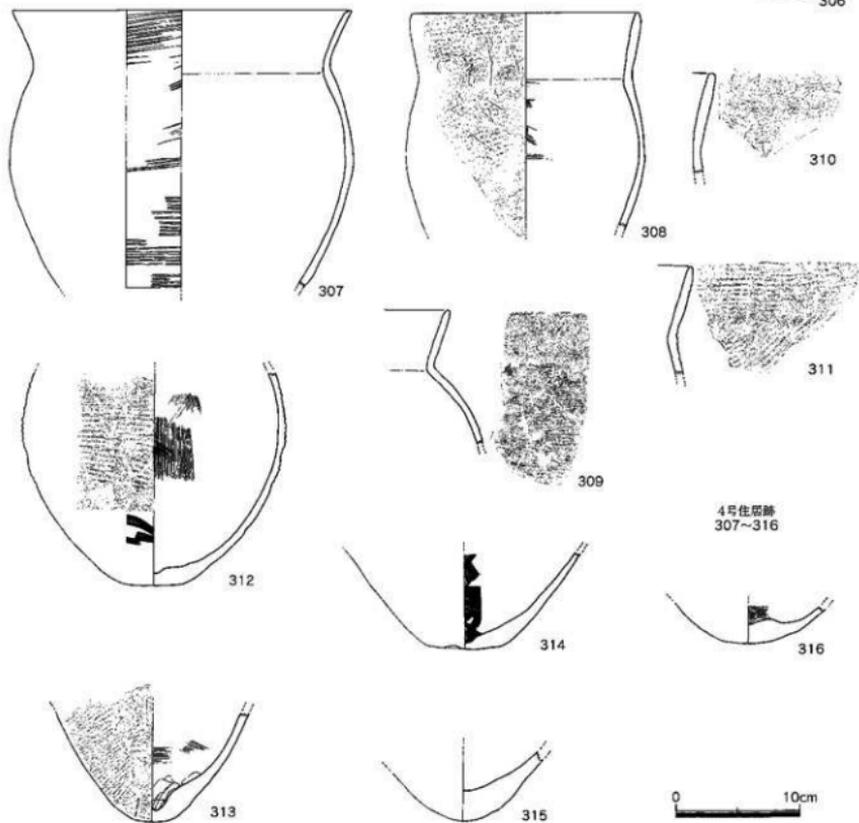
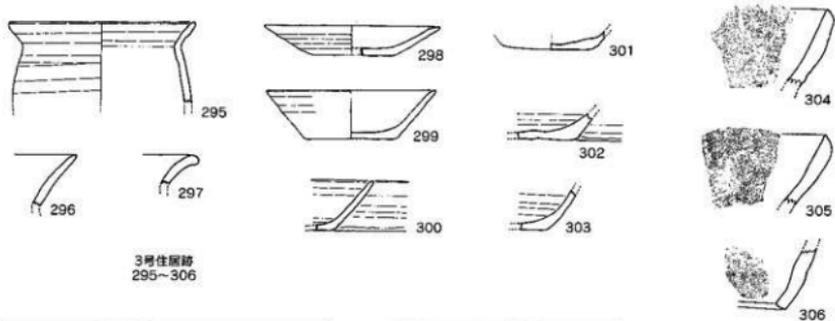


图67 3号·4号住居跡内出土遺物実測図 (1/4)

#### 4号住居跡

##### i 立地

3号住居跡の西側に隣接している。

##### ii 規模と構造

長軸3.73m・短軸3.28mの規模を有する長方形プランのものであるが、北辺は不明遺構に、西辺は9号溝状遺構と重複し、南辺は一部分が外方向に変形している。検出面からの深さ0.30mを測る。床面は3号同様南側に向かって少し傾斜している。柱穴はいくつか検出したが、主柱ははっきりできなかった。

##### iii 出土遺物

4号住居跡は小さい割には多くの遺物が出土している。総数約1,000点で、器形的には甕・壺・高坏等である。307～311は口縁部が「く」字状を呈する甕の口縁部から胴部にかけてのものであるが、その角度が緩やかなもの(308・310・311)や直行気味のもの(309)がある。調整はヨコナエに加え横あるいは斜め方向の叩きが施されているもの(308・309・311・312)が多く含まれている。313～316は甕の底部であるが、314は平底で、それ以外は丸底である。317は壺の頸部から胴部、318は壺の底部で丸底である。320はほぼ完形の小型丸底壺で、320は推定口径6.0cm・底径2.2cm・器高5.5cmを測る。321～323は高坏の脚部で、いずれもヘラ磨き調整が施されている。321は脚端部が丸く、脚部径15.5cmを測る。

#### 5号住居跡

##### i 立地

4号住居跡の南約6.0mに位置している。南西隅が6号住居跡の北辺と重複している。

##### ii 規模と構造

長軸3.50m・短軸2.90mの規模を有する長方形プランのものであるが、南辺中央部の一部が半円形に張り出している。検出面からの深さ0.26mを測る。床面は平坦である。主柱は2本と思われるが、位置関係があまりにも対象でなく、不安が残る。径0.27～0.33m、深さは浅く0.34～0.48mを測る。

##### iii 出土遺物

遺物は極端に少なく、総数約80点である。325・326は平底の甕の底部、327は二重口縁壺の口縁部である。328は高坏の脚部で、柱状部がないタイプのものである。脚端部は丸く、脚部径13.2cmを測る。329は頁岩製で、長軸側扶人の石包丁、330は砂岩製の磁石である。

#### 6号住居跡

##### i 立地

5号住居跡の南辺と6号住居跡の北辺の中央部が張り出した部分とが重複している。さらに、6号住居跡は南東部分が7号と8号住居跡と重複している。

##### ii 規模と構造

本地点最大のもので、長軸6.90m・短軸6.72mの規模を有する方形プランのものである。北辺及び西辺中央部には、外側に向かった長方形の張り出しを有している。また、南側中央部には長方形の掘り込みがあり、その中央部には焼土が確認できることから、炉として使用していたものと思われる。掘り込みの幅2.5m・長さ4.0m・深さ0.15mを測る。検出面からの深さ0.40mを測り、床面は平坦である。主柱は4本で、径0.34～0.43m、深さは0.27～0.48mを測る。

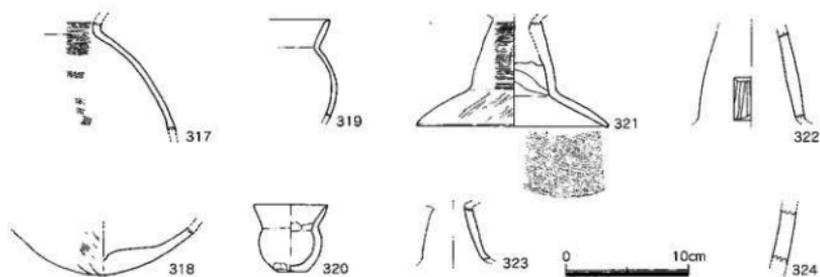


図68 4号住居跡内出土遺物実測図 (1/4)

- 1 黒色土: 10YR2/1 しまりなし  
黒色・橙色・白色粒子混入
- 2 黒色土: 10YR2/1 "  
黒色・橙色・白色粒子混入  
アカホヤ小ブロック多量混入
- 3 黒褐色土: 10YR2/2 "  
黒色・橙色・白色粒子混入  
アカホヤ小ブロック多量混入
- 4 黒褐色土: 10YR2/2 "  
黒色・橙色・白色粒子混入
- 5 黒褐色土: 10YR3/1 "  
黒色・橙色・白色粒子混入

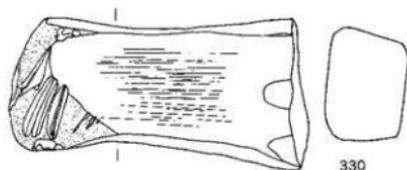
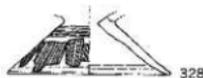
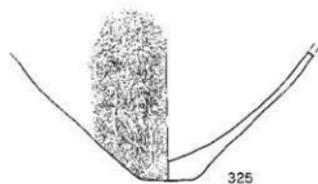
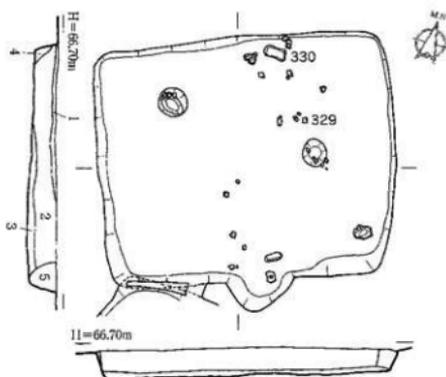


図69 5号住居跡・出土遺物実測図 (1/60・1/8・1/4)

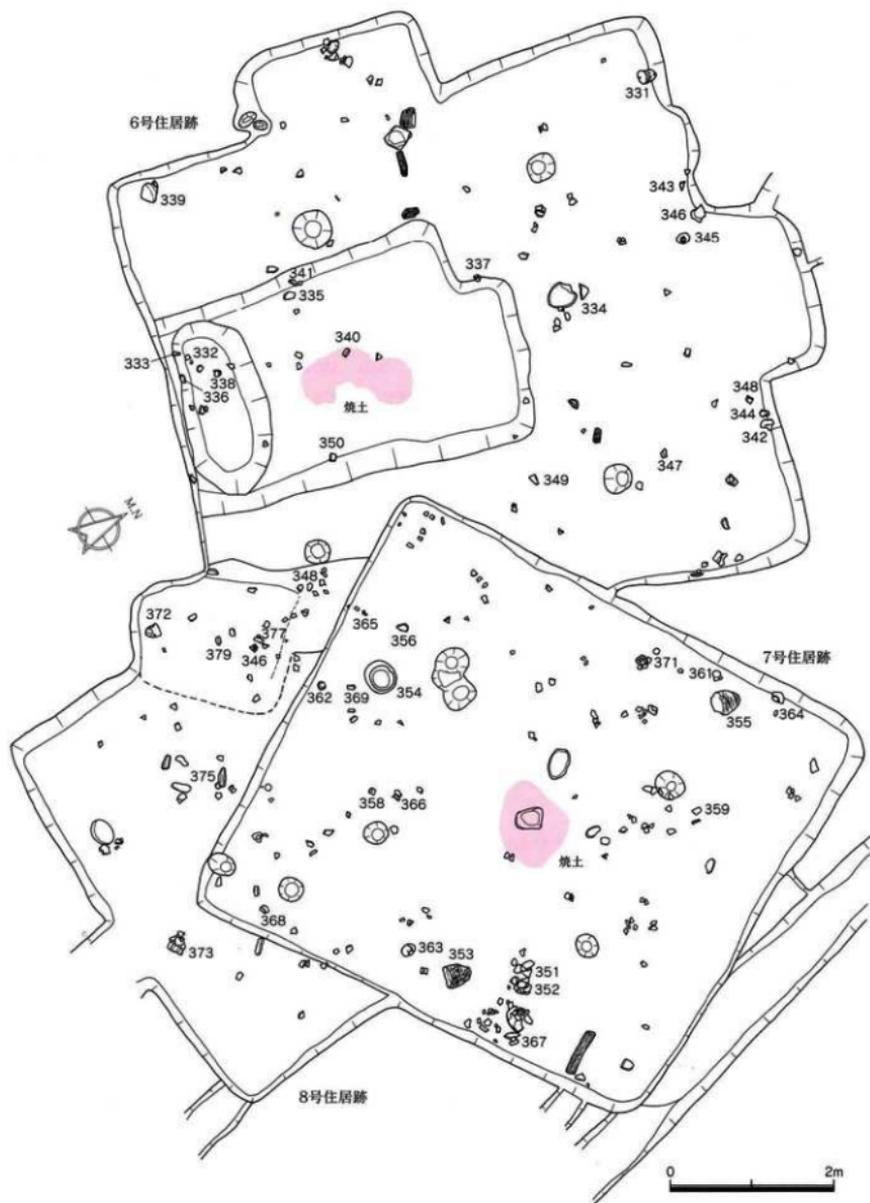


图70 6号~8号住居跡实测图 (1/60)

### iii 出土遺物

出土遺物の量は総数約560点と多くはないが、器形的に特徴的なものが含まれている。331~333は甕であるが、331は口縁部が外反し、底部が丸底に近い平底の甕の完形で、横・斜め方向の叩きが施されている。口径15.1cm・底径3.5cm・器高15.5cmを測る。334~338は甕の底部で上げ底のもの(335)、中央部が円形に窪んでいるもの(348)等がある。339は二重口縁部で、口縁部には波状文が施されている。器形的には安定の悪い丸底から大きく内湾しながら立ち上がり、頸部で「く」字状に外反し口縁部に至っている。外面は風化著しくはつきりにないが、ヘラ磨き調整が施されている。全体の4/5程度が遺存しており、口径13.8cm・底径2.8cm・胴部最大幅19.6cm・器高20.2cmを測る。340は二重口縁部の口縁部で、波状文が施されている。341は口縁部が立った壺、342は算盤玉のような胴部をした壺である。343は壺の底部で、丸底である。344はコップ状のもので、底部の中央部が円形に窪んでいる。外面はヘラ磨き、内面は丁寧なハケ目調整が施されている。全体の3/5が遺存しているが、残念ながら口縁部が出土していない。底径5.1cmを測る。345・346は鉢で、345は丸底から大きく内湾しながら立ち上がり、頸部で「く」字状に外反し口縁部に至っている。外面は風化著しくはつきりしないがタテ・ヨコナデ調整が施されている。胴部最大幅18.4cm・底径2.6cmを測る。347~349は高坏の坏部で、ヘラ磨き調整が施されている。350は頁岩製の石包丁で、長方形で挟入はない。

### 7 住居跡

#### i 立地

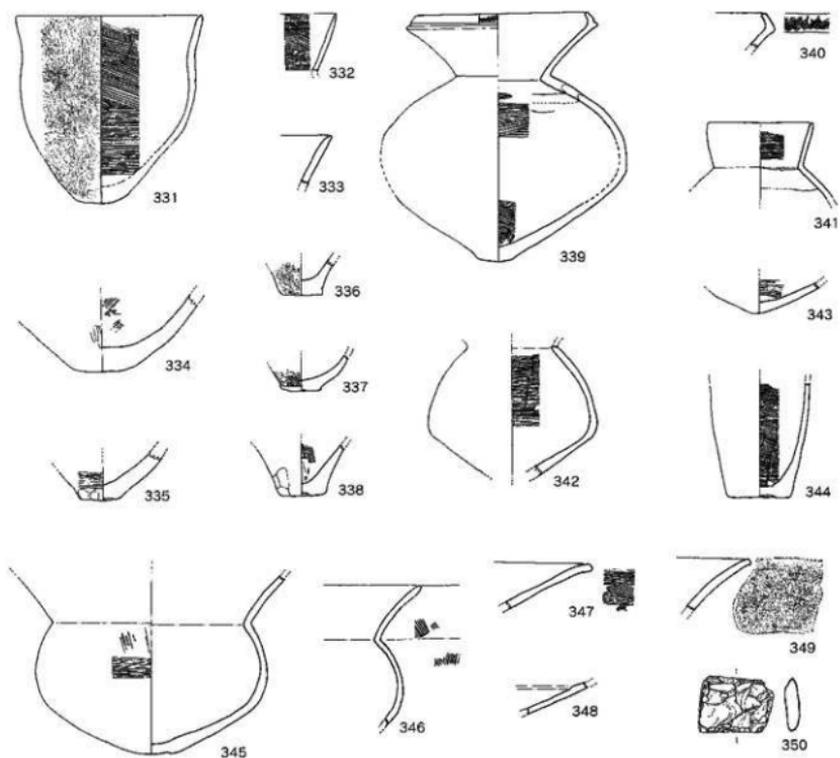
6号住居跡の東で、8号住居跡とも重複している。6号住居跡とは南西隅の一部分しか重複していないが、8号住居跡とはそれぞれ1/2程度が重複している。また、東辺は、1号・2号溝状遺構とも重複している。

#### ii 規模と構造

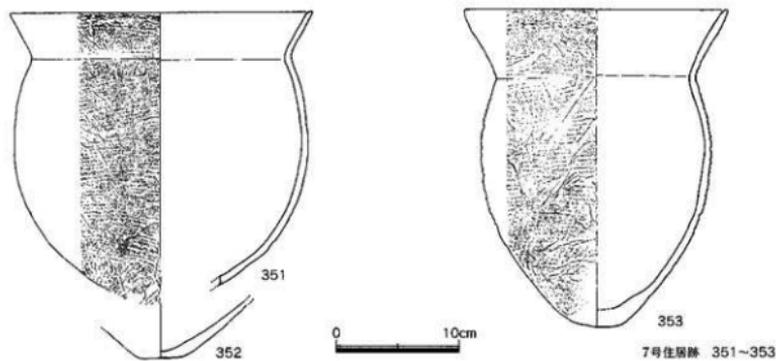
長軸6.10m・短軸5.55mの規模を有するが、北辺よりも南辺が短く、平面的には台形状を呈している。中央部には径0.80mの範囲で焼土が確認できる。検出面からの深さ0.42mを測る。床面は平坦で、支柱は4本である。径0.27~0.30m、深さは0.49~0.55mを測る。6号~8号住居跡を床面で見ると、7号住居跡が一番深く、プランがはっきりと確認できる。

#### iii 出土遺物

出土遺物の量は、総数で約1,280点が多い。特徴的なのは甕が押し潰れた状態で何点か出土していることと、大きな甕(354)が円形の穴に口縁部を上にして立てた状態で収められていたことで、何かを貯蔵するために意図的に埋め込まれたと思われる。351~355は口縁部が「く」字状を呈した甕で、いずれも叩き調整が施されている。351と352は同一個体で、推定口径24.3cm・底径3.3cm・胴部最大幅23.6cmを測る。353は1/2遺存しており、推定口径21.2cm・底径4.0cm・器高26.0cmを測る。354は丸底で、口径30.1cm・胴部最大幅30.8cm・器高38.1cmを測る。355は推定口径22.0cm・胴部最大幅18.0cmを測る。356~358は甕の底部で、いずれも丸底である。ちなみに、甕は粗い叩きが施されているものが多く、胴部には炭化物が付着していることから、煮炊き用として使用されていたものと思われる。359は外反した壺の口縁部小片、360は小型丸底壺の口縁部と思われる。361は小型丸底壺の完形で、口径8.7cm・底径3.5cm・器高9.7cmを測る。外面ヘラ磨き調整が施されている。362は小さな完形の鉢で、口径8.8cm・底径3.3cm・器高5.45cmを測る。調整は風化著しく不明である。363は高坏の坏部から脚部半分で、口径17.2cmを測る。丁寧なヘラ磨きが施されている。364は高坏の坏部で、口径11.5cmを測る。調整は風化著しく不明である。365・366は高坏の坏部小片である。367は高坏の脚



6号住居跡 331~350



7号住居跡 351~353

图71 6号・7号住居跡内出土物实测图 (1/4)

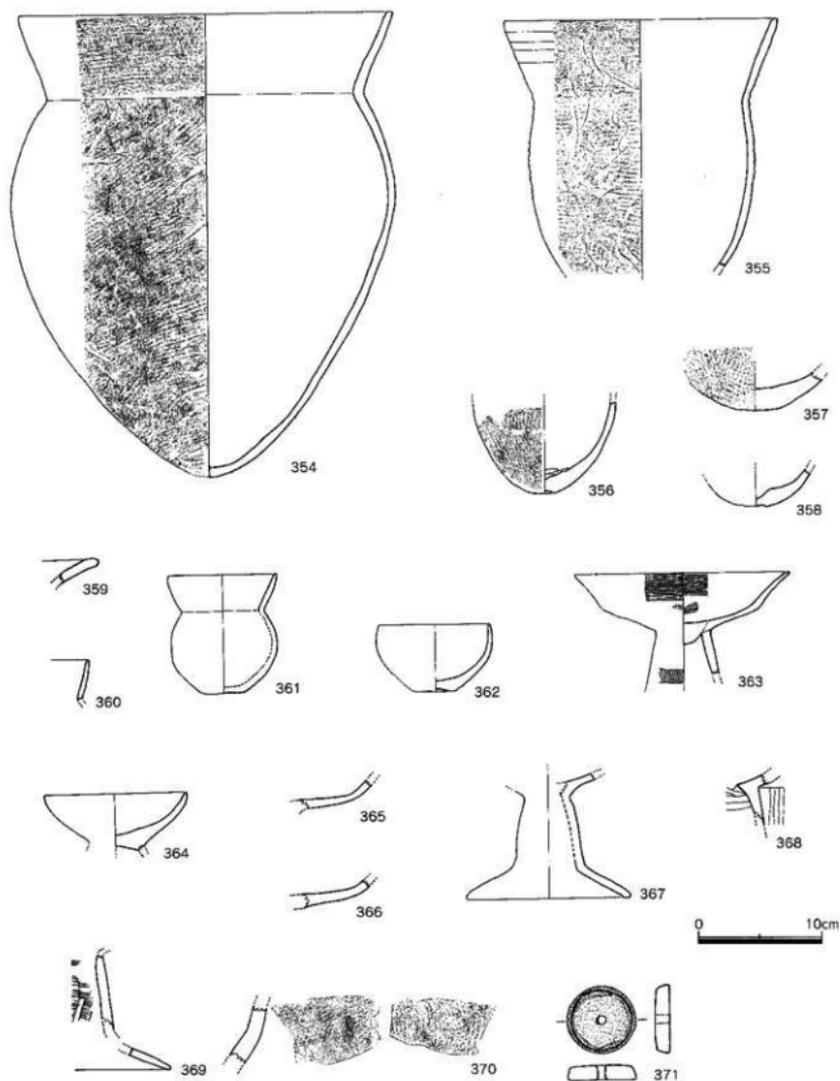


图72 7号住居跡内出土遺物実測図 (1/4)

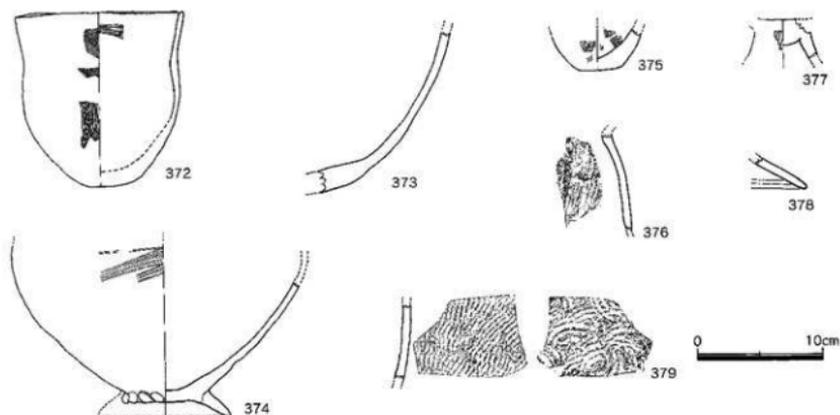


図73 8号住居跡内出土遺物実測図 (1/4)

部で脚部径13.4cm、368は基部、369は脚部で、いずれも外面へラ磨き調整が施されている。370は須恵器甕の胴部と思われる。両面叩き調整が施されている。371は円形の紡錘車で、砂岩製である。直径5.6cm・円孔径0.8cm・厚さ1.2cmを測る。

#### 8号住居跡

##### i 立地

6号住居跡の南東側で、7号住居跡の南側に位置している。

##### ii 規模と構造

重複している部分が多くはつきりしないが、掘削前の埋土状態から判断すると、一辺5.2mの方形プランのもとと推定される。検出面からの深さ0.25mを測り、床面は平坦である。支柱は2本と思われるが、はつきりしない。

##### iii 出土遺物

出土遺物の量は少なく、総数約310点である。372は口縁部が外反した甕の完形で、口径13.4cm・底径3.3cm・器高14.3cmを測る。両面ハケ目調整が施されている。373は鉢の胴部で、374は外方向に向けた高台の付いた鉢と思われるが、その他の住居跡では見られない器形である。375は小型丸底甕の底部で、底径4.2cmを測る。376は高坏の基部、377・378は高坏の脚部である。379・380は須恵器甕の胴部と思われる。379の外面は並行の叩きで、内面は同心円状当て具痕が遺存している。

## 9号住居跡

### i 立地

9号住居跡は1号住居跡の北側に位置しているが、南隅部分しか検出していない。それは、この北側部分は地権者のご協力により現状保存されることから、掘削しないまま残すこととなったためである。

### ii 規模と構造

全体のプランを検出していないため、規模と構造については不明である。

### iii 出土遺物

遺物は、須恵器甕が1点埋土上層から出土している。外面は擬格子目叩き、内面は同心円状当て具痕が遺存している。

## その他の遺構

### 溝状遺構

溝状遺構は9条検出しているが、後世のものがほとんどである。規模的には幅0.45～0.80m、深さ0.14～0.30mで、時期的には埋土の状態から一番東側に位置している1号と2号が最も古いと思われるが、遺物が全体的に極端に少なく、不明な点が多い。

## その他の土器

### 墨書土器

1号住居跡からは、墨書土器が2点出土している。379は「作」という文字が土師器高台付碗の側面に書かれている。380の文字は残念ながら判読できないが、これも土師器杯の側面に書かれている。これらは、時期的には9世紀後葉のものと同定され、1号住居跡の遺物とはかなりの時期差が認められるため、何らかの形で混入したものと思われる。住居跡内及び周辺から柱穴を検出していることから、1号住居跡内に柱穴があり、その掘方を見落としてしまったのかもしれない。いずれにしても、注目される資料であるため、1号住居跡とは別資料として掲載した。



図74 1号住居跡出土墨書土器 (1/4)

Tab.1 主な検出遺構一覧表

## 集石遺構

地点	番号	時期	プラン	掘込み	保 (m)	深さ (m)	底面配石	検出面	相伴遺物	備 考
10	1	縄文早期	円形	有	1.10	0.22	無	黒褐色土		
#	2	"	"	"	1.00	0.21	"	"		
#	3	"	"	"	1.31	0.31	有	"		底面に花卉状配石
#	4	"	"	"	1.25	0.39	無	"		
#	5	"	"	"	1.53	0.42	"	"	縄文土層	底面に花卉状配石
#	6	"	"	"	1.62	0.62	有	"		底面に花卉状配石
11	1	"	"	"	1.20	0.44	"	"		底面に平たい礫
#	2	"	"	"	0.93	0.26	無	"		
#	3	"	"	"	1.00	0.18	"	"		
#	4	"	"	"	1.10	0.32	有	"		底面に平たい礫
65	1	"	"	"	0.90	0.10	無	"		
#	2	"	"	"	0.85	0.10	"	"		
#	3	"	"	"	1.00	0.23	有	"		底面に花卉状配石
#	4	"	"	無	1.37	-	無	"		
#	5	"	"	"	1.14	0.05	"	"		
#	6	"	"	有	1.31	0.12	有	"		底面に平たい礫
#	7	"	"	"	0.62	0.10	無	"		
89	1	"	"	"	1.60	0.44	"	"		底面に2個の礫
#	2	"	"	"	0.91	0.16	"	"		

## 土墳墓

地点	番号	時期	プラン	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	検出面	相伴遺物	備 考
26	1	16世紀	長方形	2.50	1.50	0.39	アカホヤ火山灰層	青磁盤、白磁碗、染付皿当	染付皿には吉祥字
#	2	不明	楕円形	1.65	0.78	0.38	"	獣骨	
#	3	"	"	1.10	0.70	0.42	"		
52	1	7世紀末	長楕円形	5.75	5.12	0.08	"	土師器・須恵衛	
69	1	弥生-古墳期	楕円形	1.79	1.84	0.33~0.45	"	弥生土器類・壺	
#	2	"	円形	1.70	1.70	0.34	"	弥生土器類・石燧	石燧は緑泥岩製
#	3	"	楕円形	1.43	1.27	0.43	"	弥生土器類	
#	4	"	"	1.45	1.30	0.26	"		
#	5	"	"	2.15	1.47	0.56	"	弥生土器類・壺	

## 竪穴式住居跡

地点	番号	時期	プラン	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	主体 (本)	検出面	共存遺物	備考
8	1	縄文時代前期	方形			0~0.10	2	アカボク火石期	弥生土器甕・壺等	
17	1	弥生後期	"	4.35	4.05	0.35	2	"	弥生土器罎、石鏝、石鏝	石鏝は録記岩製
24	1	不明	長方形	4.7	3.00	0.40	2	"		主柱を壁面に掘削
39	1	縄文時代前期	方形	5.75	5.12	0.38	2	"	弥生土器甕・壺・鉢等	
51	1	古墳終末	"	5.00	4.60	0.22	4	"	土師器罎・鉢、須恵器坏身等	
60	1	弥生後期	"	4.48	4.20	0.16	4	"	弥生土器罎、陶台等	溝状遺構と重複
62	1	縄文時代前期	"	3.36	3.30	0.35	2	"	弥生土器罎・壺等	
65	1	弥生後期前半	長方形	6.06	4.60	0.26	2	"	弥生土器罎等	長方形状掘出し
"	2	"	方形	6.10	5.60	0.18	2	"	弥生土器罎・鉢等	
"	3	弥生後期	長方形	5.34	3.92	0.30	2	"	弥生土器罎・壺	
69	1	縄文時代前期	方形	2.80	2.80	0.74~1.04	2	"	弥生土器罎・壺等	北側は農田の下
"	2	縄文晩期	円形	2.60	2.60	0.12	0	"	縄文土器深鉢	
74	1	弥生終末	長方形	7.50	6.10	0.30	2	"	弥生土器罎・壺・高坏等	
81	1	古墳前期前半	方形	6.35	6.00	0.32~0.49	4	"	土師器罎・壺・高坏等	
"	2	古墳時代中期前半	"	3.80	3.45	0.06~0.18	4	"	土師器罎・壺・高坏等	
"	3	"	長方形	3.20	2.80	0.15	--	"	土師器罎・壺等	カマド
"	4	8世紀前半	"	3.73	3.28	0.30	--	"	土師器罎・壺・高坏等	3号と重複
"	5	古墳時代中期前半	"	3.50	2.90	0.34~0.48	2	"	土師器罎・壺・高坏、石包丁	6号と重複
"	6	古墳前期前半	方形	6.90	6.72	0.27~0.48	4	"	土師器罎・壺・高坏等	5・7・8号と重複
"	7	古墳前期後半	長方形	6.10	5.55	0.49~0.55	4	"	土師器罎・壺・高坏等	6・8号と重複
"	8	古墳前期後半	"	-5.20	-5.20	0.25	2?	"	土師器罎・壺・高坏等	6・7号と重複
"	9	不明	-	-	-	-	-	"	須恵器罎	

## 掘立柱建物跡

地点	番号	時期	主軸方位	桁行 (m)	梁行 (m)	規模 (軒)	柱穴径 (cm)	柱穴深 (m)	床面積 (㎡)	共存遺物	備考
26	1	16世紀	N-29°-W	5.00	1.90~2.00	1軒×5軒	0.40~0.55	0.34~0.44	49.5	打製石斧	2・3・5・6号と重複
"	2	"	N-31°-W	4.70	2.00	1軒×4軒	0.40~0.55	0.32~0.48	36.9		1・3・5号と重複
"	3	"	N-31°-W	5.75	1.90~2.25	1軒×4軒	0.32~0.46	0.30~0.46	45.1		1・2・4号と重複
"	4	"	N-31°-W	1.70~2.00	1.80~2.00	2軒×2軒	0.28~0.50	0.26~0.32	15.2		3号と重複
"	5	"	N-30°-W	4.00	2.00~2.05	1軒×4軒	0.38~0.50	0.38~0.48	32.0		1・2・6号と重複
"	6	"	N-28°-W	4.00	1.80~2.00	1軒×3軒	0.40~0.70	0.52~0.68	24.0		1・5・7号と重複
"	7	"	N-30°-W	3.30	1.70	1軒×3軒	0.28~0.32	0.30~0.46	16.8	土師器	6号と重複
"	8	"	N-35°-W	3.60	1.80	1軒×3軒	0.34~0.44	0.33~0.46	20.0		
"	9	"	N-26°-W	4.00	2.00~2.10	1軒×4軒	0.35~0.40	0.30~0.50	24.8		溝状遺構と重複
53	1	不明	N-27°-E	6.50	3.80~4.20	1軒×3軒	0.40~0.48	0.13~0.26	23.7	土師器・須恵器	
72	1	"	N-14°-W	5.65	3.50	2軒×3軒	0.42~0.56	0.40~0.61	19.6		

Tab.2 出土遺物観察表

○第8地点  
1号住居跡

No.	南 種	残存率	法 量	調整・文様		調整・文様		胎 七	
				口徑/底径/脚縁径 別部最大径/歯高	外面/内面	外面	内面		
1	赤生土器/甕	口縁部	-/-/-/-/-	ヨコナテ・タテハク/ヨコハク・ナテ	浅黄褐色	7.53963	褐色	5YR7/2	黒い、1~2mm前後の粒子
2	赤生土器/甕	#	030.52 /-/-/22.5/-	ヨコナテ・タテハク/ヨコハク・ヨコナテ	灰色	5Y6/1	灰色	5Y6/1	黒い、1~3mm前後の粒子
3	赤生土器/甕	#	-/-/-/-/-	ヨコナテ・ナテ/ナテ	黄褐色	10Y5/1	灰褐色	10Y5/2	少し黒い、白濁等混入、2mm前後の粒子
4	赤生土器/甕	#	-/-/-/-/-	ヨコナテ・ナテ/ヨコナテ・ナテ	黄褐色	10Y5/4	灰褐色	10Y5/2	少し黒い、白濁等混入、1mm前後の粒子
5	赤生土器/甕	#	035.02 /-/-/34.0/-	回転ナテ/回転ナテ	灰色	10Y5/2	灰色	10Y5/2	黒い、1~2mm前後の粒子、少量の鉄片
6	赤生土器/甕	#	-/-/-/-/-	回転ナテ/回転ナテ	褐色	10Y5/1	褐色	7.5Y5/1	黒い、1~2mm前後の粒子、少量の鉄片
7	赤生土器/甕	#	-/-/-/-/-	ヨコナテ/ヨコナテ	浅黄褐色	7.5Y5/3	灰色	7.5Y2/4	黒い、1~4mm前後の粒子
8	赤生土器/甕	#	-/-/-/-/-	ヨコナテ/ナテ	灰色	5YR7/4	灰色	10Y5/2	黒い、1~2mm前後の粒子
9	赤生土器/甕	底部	-7.42 /-/-/-/-	風化/ナテ	浅黄褐色	10Y5/4	灰色	7.5Y5/3	黒い、1~4mm前後の粒子
10	赤生土器/甕	#	-7.62 /-/-/-/-	ナテ/ナテ	灰色	7.5Y7/3	灰褐色	7.5Y5/3	黒い、1~4mm前後の粒子
11	赤生土器/甕	#	-7.67 /-/-/-/-	踏き/ナテ	浅黄褐色	10Y5/3	浅黄褐色	10Y5/3	黒い、1~3mm前後の粒子
12	赤生土器/甕	#	-7.17 /-/-/-/-	タテハク後磨き/風化	灰褐色	10Y5/2	灰褐色	10Y5/1	少し黒い、白濁等混入、1mm前後の粒子
13	赤生土器/甕	口縁部	-/-/-/-/-	ヨコナテ/ナテ	灰白色	10Y5/2	灰白色	10Y5/2	黒い、1~2mm前後の粒子
14	赤生土器/甕	#	-7.17 /-/-/-/-	タテハク/ヨコハク・ヨコナテ	浅黄褐色	10Y5/3	浅黄褐色	10Y5/3	少し黒い、白濁等混入、1mm前後の粒子
15	赤生土器/甕	#	-7.17 /-/-/-/-	ヨコナテ・タテハク/ヨコナテ	浅黄褐色	7.5Y5/6	灰白色	7.5Y5/2	黒い、1~4mm前後の粒子、少量の鉄片
16	赤生土器/甕	底部	-7.17 /-/-/-/-	ヨコナテ・ヘラ磨き/風化	浅黄褐色	10Y5/3	灰褐色	10Y5/1	黒い、1~3mm前後の粒子
17	赤生土器/甕	底部	-7.17 /-/-/-/-	ヨコナテ・ヘラ磨き/割破	浅黄褐色	10Y5/3	灰色	5Y/1	黒い、1~3mm前後の粒子
18	赤生土器/甕	口縁部	-/-/-/-/-	ヘラ磨き/ナテ	浅黄褐色	10Y5/3	灰褐色	10Y5/1	黒い、1~2mm前後の粒子
19	赤生土器/甕	胴部~底縁	-/-/-/-/-	タテ・ナテ/ヘラ磨き/ナテ	浅黄褐色	7.5Y5/3	浅黄褐色	7.5Y5/3	黒い、1~2mm前後の粒子
20	赤生土器/甕	底縁	-/-/-/-/-	タテ/ナテ後磨き/ナテ	浅黄褐色	10Y5/3	浅黄褐色	10Y5/3	少し黒い、白濁等混入

○第10・11地点

26	黄文土器/深鉢	口縁部	-/-/-/-/-	山形押型文/原色未焼・山形押型文	灰色	10Y4/2	灰色	10Y4/2	黒い、1~3mm前後の粒子、白濁等混入
27	黄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-	山形押型文/原色未焼・山形押型文	黄褐色	10Y5/3	浅黄褐色	2.5Y5/3	黒い、白濁・少量の鉄片
28	黄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-	山形押型文/原色未焼・山形押型文	浅黄褐色	10Y5/4	浅黄褐色	7.5Y5/3	黒い、白濁・少量の鉄片
29	黄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-	山形押型文/原色未焼・山形押型文	褐色	2.5Y5/6	灰色	5YR7/4	黒い、白濁等混入
30	黄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-	山形押型文/ナテ	灰色	5Y2/4	浅黄褐色	7.5Y5/4	黒い、白濁等混入
31	黄文土器/深鉢	胴部	-/-/-/-/-	山形押型文/ヨコナテ	褐色	2.5Y5/6	褐色	5Y5/6	黒い、1~4mmの粒子
32	黄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-	山形押型文/ナテ	浅黄褐色	10Y5/3	灰色	10Y5/3	少し黒い、白濁等・少量の鉄片
33	黄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-	山形押型文/ヨコナテ	褐色	7.5Y7/6	灰褐色	7.5Y4/1	黒い、少量の鉄片等混入
34	黄文土器/深鉢	口縁部	-/-/-/-/-	鳥打押型文/原色未焼・鳥打押型文	浅黄褐色	10Y5/3	浅黄褐色	10Y5/3	黒い、白濁等混入
35	黄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-	鳥打押型文/原色未焼・鳥打押型文	灰色	7.5Y5/1	灰色	7.5Y5/1	黒い、白濁等少量混入
36	黄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-	鳥打押型文/原色未焼・鳥打押型文	褐色	2.5Y5/6	黄褐色	7.5Y5/1	少し黒い、白濁等混入
37	黄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-	鳥打押型文/原色未焼・鳥打押型文	灰色	5Y5/6	黄褐色	5Y5/6	黒い、白濁等混入
38	黄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-	鳥打押型文/ナテ	褐色	2.5Y5/6	黄褐色	5Y5/6	少し黒い、白濁等・少量の鉄片
39	黄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-	鳥打押型文/ナテ	黄褐色	2.5Y5/6	灰白色	2.5Y5/2	少し黒い、白濁等・少量の鉄片
40	黄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-	鳥打押型文/ナテ	黄褐色	2.5Y5/3	黄褐色	2.5Y5/3	黒い、白濁等少量混入
41	黄文土器/深鉢	胴部	-/-/-/-/-	鳥打押型文/ナテ	灰色	7.5Y7/4	黄褐色	10Y5/2	少し黒い、白濁等・少量の鉄片
42	黄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-	鳥打押型文/ナテ	黄褐色	2.5Y5/6	灰色	2.5Y5/2	少し黒い、白濁等・少量の鉄片
43	黄文土器/深鉢	口縁部	-/-/-/-/-	線杉文/ナテ	灰色	7.5Y7/4	線	5Y5/5	少し黒い、白濁等混入
44	黄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-	線杉文/ナテ	浅黄褐色	10Y5/4	灰色	10Y5/3	黒い、少量の鉄片・少量の鉄片
45	黄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-	線杉文/ナテ	灰褐色	10Y5/4	浅黄褐色	10Y5/3	少し黒い、白濁等混入
46	黄文土器/深鉢	胴部	-/-/-/-/-	線杉文/ナテ	灰色	10Y5/3	黄褐色	10Y5/4	黒い、少量の鉄片・少量の鉄片

○第14地点

53	黄文土器/深鉢	口縁部	-/-/-/-/-	貝輪条紋文(右下部斜め)/磨き	灰白色	7.5Y5/8	黄褐色	7.5Y5/6	少し黒い、白濁等混入
54	黄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-	貝輪条紋文(右下部斜め)/ナテ	灰色	10Y5/7	浅黄褐色	10Y5/2	少し黒い、白濁等・少量の鉄片
55	黄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-	貝輪条紋文(右下部斜め)後ナテ	灰白色	10Y5/7	灰白色	10Y5/2	少し黒い、白濁等・少量の鉄片
56	黄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-	貝輪条紋文(縦・右下部斜め)/ナテ	浅黄褐色	7.5Y5/4	浅黄褐色	7.5Y5/3	黒い、白濁等・少量の鉄片
57	黄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-	貝輪条紋文(右下部斜め)/ナテ	黄褐色	5Y5/4	浅黄褐色	7.5Y5/3	黒い、白濁等・少量の鉄片
58	黄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-	貝輪条紋文/ナテ	灰白色	10Y/7	浅黄褐色	10Y5/3	黒い、白濁等・少量の鉄片
59	黄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-	貝輪条紋文(横・右下部斜め)/ナテ	黄褐色	10Y5/4	灰白色	10Y5/2	少し黒い、白濁等混入
60	黄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-	貝輪条紋文(横)/磨き	黄褐色	10Y5/1	黄褐色	10Y5/1	少し黒い、白濁等混入
61	黄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-	貝輪条紋文(横)/ナテ	灰白色	7.5Y7/2	灰色	10Y5/2	少し黒い、白濁等・少量の鉄片
62	黄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-	貝輪条紋文(横)・右下部斜め	灰色	10Y5/1	灰色	10Y5/2	黒い、白濁等・少量の鉄片
63	黄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-	貝輪条紋文(横)・右下部斜め	灰白色	10Y5/7	浅黄褐色	10Y5/3	少し黒い、白濁等混入
64	黄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-	貝輪条紋文(横)・右下部斜め	浅黄褐色	7.5Y5/4	浅黄褐色	7.5Y5/3	黒い、白濁等・少量の鉄片
65	黄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-	貝輪条紋文(横)・右下部斜め	灰白色	10Y5/1	灰白色	10Y5/1	黒い、白濁等混入
66	黄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-	貝輪条紋文(横)・右下部斜め	浅黄褐色	7.5Y5/3	灰白色	10Y5/7	黒い、少量の鉄片・少量の鉄片

No.	備 考	残存率	法 量		調整・文様		調整・文様		附 土	
			口径/底径/脚部径	脚部最大径/高さ	外面/内面		外面	内面		
67	縄文土器/深鉢	胴部	-/-/-/-/-		口縁破綻による連続刺突/ナテ	浅黄褐色	7.5YR8/3	浅黄褐色	7.5YR8/3	黒っぽい、白塗特多量混入
68	縄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-		口縁連続刺突/ナテ	浅黄褐色	7.5YR8/4	浅黄褐色	7.5YR8/3	少し悪い、白塗特多量混入
69	縄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-		口縁連続刺突/ナテ	浅黄褐色	7.5YR8/3	浅黄褐色	7.5YR8/4	黒っぽい、白塗特多量混入
70	縄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-		山形押型文/ナテ	黄白色	7.5YR5/1	浅黄褐色	7.5YR8/3	少し悪い、白塗特多量混入
71	縄文土器/深鉢	口縁部	-/-/-/-/-		ナテ/ナテ	浅黄褐色	10YR8/3	灰白色	10YR8/2	黒っぽい、白塗特多量混入
72	縄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-		ヨコナテ/ヨコナテ	灰白色	10YR7/1	灰白色	7.5YR8/1	悪い、1~3mm前後の硝子
73	縄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-		ナテ/ナテ	黄褐色	10YR5/1	黄褐色	10YR5/1	少し悪い、白塗特多量混入
74	縄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-		ヨコナテ/ヨコナテ	黄褐色	10YR4/1	灰白色	10YR8/2	黒っぽい、白塗特多量混入
75	縄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-		ナテ/ナテ	にんじょう色	7.5YR7/3	にんじょう色	7.5YR7/4	黒っぽい、白塗特多量混入、硝子
76	縄文土器/深鉢	胴部	-/-/-/-/-		ナテ/ナテ	浅黄褐色	7.5YR8/3	黄褐色	7.5YR4/1	黒っぽい、白塗特多量混入、硝子
77	縄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-		ナテ/ナテ	浅黄褐色	7.5YR8/4	黄褐色	2.5YR3/3	黒っぽい、白塗特多量混入、硝子
78	縄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-		ナテ/ナテ	浅黄褐色	7.5YR8/4	灰白色	10YR8/2	黒っぽい、白塗特多量混入
79	縄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-		ナテ/ナテ	黄褐色	2.5YR3/6	黄褐色	7.5YR8/4	黒っぽい、白塗特多量混入
80	縄文土器/深鉢	胴部	-/-/-/-/-		ナテ/ナテ	黄褐色	7.5YR8/3	黄褐色	7.5YR8/4	黒っぽい、白塗特多量混入
81	縄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-		風化/風化	黄褐色	10YR8/3	黄褐色	10YR8/3	悪い、1~3mm前後の硝子
82	縄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-		風化/風化	褐色	2.5YR7/6	黄褐色	2.5YR3/3	黒っぽい
83	縄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-		擦き/ナテ	にんじょう色	2.5YR8/4	黄褐色	7.5YR6/1	少し悪い、白塗特多量混入
84	縄文土器/深鉢	#	-/-/-/-/-		ナテ/ナテ	浅黄褐色	7.5YR8/6	灰白色	10YR8/2	少し悪い、白塗特多量混入

### 古墳周溝

90	須賀野/大甕	4/5	24.2/-/-/43.9/44.1	ヨコナテ、赤、おき石/石内側状で裏面	灰色	7.5Y2/1	灰色	5A/	黒っぽい、白塗特多量混入
91	須賀野/短甕	4/5	7.1/-/-/-/6.8	回転ナテ、へら切り底/回転ナテ	灰色	7.5YR6/1	灰色	7.5YR6/1	黒っぽい、白塗特多量混入
92	須賀野/短甕	完形	7.1/-/-/-/6.7	回転ナテ、へら切り底/回転ナテ	灰色	5B/1	灰色	5B/1	黒っぽい、白塗特多量混入
93	須賀野/短甕	#	6.8/-/-/-/6.45	回転ナテ、へら切り底/回転ナテ	褐色	5B/1	灰色	5B/1	黒っぽい、白塗特多量混入
94	土師器/浅杯	坏部欠損	-/-/13.2/-/-	へら磨き/回転ナテ、へら磨き	赤褐色	10YR5/5	浅黄褐色	7.5YR8/6	黒っぽい、白塗特多量混入
95	土師器/浅杯	完形	10.3/5.6/-/-/6.5	へら磨き/へら磨き	赤褐色	5YR5/6	赤褐色	5YR5/6	黒っぽい、白塗特多量混入

### ○第17地点

21	弥生土器/甕	口縁部	-/-/-/-/-		ヨコナテ/ヨコナテ	浅黄褐色	7.5YR8/3	浅黄褐色	7.5YR8/3	少し悪い、白塗特多量混入
22	弥生土器/甕	胴部	-/-/-/-/-		横方向・縦方向ハケ目/ナテ	灰白色	10YR8/2	浅黄褐色	7.5YR8/4	悪い、1~3mm前後の硝子

### ○第26地点

#### 柱穴群

96	土師器/杯	2/3	10.8/6.0/-/-/2.3	回転ナテ/ナテ	浅黄褐色	7.5YR8/3	浅黄褐色	7.5YR8/3	黒っぽい、白塗特多量混入
97	土師器/杯	完形	8.0/5.0/-/-/2.2	回転ナテ/ナテ	褐色	5YR5/6	褐色	5YR5/6	黒っぽい、白塗特多量混入
98	土師器/杯	底形	-/-/-/-/-	風化/風化	浅黄褐色	7.5YR8/4	浅黄褐色	7.5YR8/4	黒っぽい、白塗特多量混入
99	土師器/杯	#	-/-/-/-/-	赤切り底/ナテ	にんじょう色	5YR6/4	にんじょう色	5YR6/4	黒っぽい、白塗特多量混入
100	染付/甕	#	-/5.1/-/-/-		明緑灰色	10GY7/1	明緑灰色	10GY7/1	黒っぽい、白塗特多量混入
101	土師器/杯	#	-/5.6/-/-/-	回転ナテ、へら切り底/回転ナテ	にんじょう色	5YR7/4	褐色	5YR5/6	黒っぽい、白塗特多量混入

### 1号土壌墓

102	染付/甕	1/4	-/-/-/-/-		明緑灰色	7.5C9/1	明緑灰色	7.5C9/1	黒っぽい
-----	------	-----	-----------	--	------	---------	------	---------	------

### 3号土壌墓

103	甕類/甕	口縁部	-/-/-/-/-		ヨコナテ/ヨコナテ	灰褐色	5YR5/2	黄灰色	7.5YR5/1	黒っぽい、白塗特多量混入
104	白磁/甕	1/2	10.2/3.9/-/-/3.2		灰白色	7.5YR1/1	灰白色	10YR8/1	黒っぽい	
105	染付/甕	完形	10.0/2.8/-/-/2.7		明緑灰色	5GY7/1	明緑灰色	5GY7/1	黒っぽい	
106	染付/甕	#	10.2/4.0/-/-/2.6		明緑灰色	7.5GY7/1	明緑灰色	7.5GY7/1	黒っぽい	
107	青磁/甕	口縁部	-/-/-/-/-		おしべ色	10Y5/2	おしべ色	10Y5/2	黒っぽい	
108	青磁/甕	#	-/-/-/-/-		おしべ色	10Y5/2	おしべ色	10Y5/2	黒っぽい	
109	染付/甕口	完形	-/-/-/-/-		灰白色	10YR8/2	灰白色	10YR8/2	黒っぽい	

### その他

110	土師器/甕	胴部	-/-/-/-/-		ヨコナテ、へら切り底/ヨコナテ	にんじょう色	7.5YR7/4	にんじょう色	7.5YR7/4	黒っぽい、白塗特多量混入
111	土師器/甕	#	-/-/-/-/-		ヨコナテ、へら切り底/ヨコナテ	にんじょう色	5YR7/4	にんじょう色	7.5YR7/4	黒っぽい
112	青磁/甕	口縁部	-/-/-/-/-			緑灰色	5G9/1	緑灰色	5G9/1	黒っぽい
113	青磁/甕	#	-/-/-/-/-			おしべ色	5GY6/1	おしべ色	5GY6/1	黒っぽい
114	甕類/甕	完形	10.1/4.4/-/-/2.1			灰白色	7.5YR8/2	灰白色	7.5YR8/2	黒っぽい

### ○第39地点

#### 1号住居跡

115	弥生土器/甕	口縁部	-/-/-/-/-		ヨコナテ/ヨコナテ	褐色	5YR7/6	褐色	5YR7/6	悪い、1~3mm前後の硝子、白塗特多量混入
116	弥生土器/甕	#	-/-/-/-/-		ヨコナテ/ヨコナテ	にんじょう色	5YR7/3	にんじょう色	5YR7/4	悪い、1~3mm前後の硝子、白塗特多量混入

No.	商 種	残存率	法 屋		調整・文様		調整・文様		胎 土		
			口徑/底径/脚端径 胸径最大径/脚高		外面/内面		外面	内面			
117	弥生土器/甕	胴部	-/-/-/-/-		ヨコナテ/ヨコナテ		灰色	SVR2/6	灰色	SVR2/4	腹1、1~3mm前後の硝子、白炭粉混入
116	弥生土器/甕	口縁部	-/-/-/-/-		ヨコナテ/ヨコナテ		褐色	2.5YR7/8	褐色	2.5YR7/8	腹1、1~3mm前後の硝子、金箔混入
119	弥生土器/甕	#	-/-/-/-/-		ヨコナテ/ヨコナテ		灰色	SVR2/4	灰色	SVR2/4	腹4、1~2mm前後の硝子
120	弥生土器/甕	胴部	-/-/-/-/-		ヨコナテ/ナテ		褐色	7.5YR5/8	灰褐色	10YR5/2	腹1、2~5mm前後の硝子、金箔混入
121	弥生土器/甕	胴部	-/-/-/-/-		ヨコナテ/ヨコナテ		褐色	SVR2/6	灰色	SVR2/6	腹1、1~3mm前後の硝子、金箔混入
122	弥生土器/甕	胴部	-/-/-/-/-		タテハケ/ナテ		洗褐色	7.5YR5/8	洗褐色	10YR4/1	腹1、1~3mm前後の硝子、白炭粉混入
123	弥生土器/甕	口縁部	5.0/-/-/-/-		竹籠絞別荘/ヨコナテ/ヨコナテ		灰色	10YR5/2	灰色	7.5YR7/3	少し腹1、白炭粉混入
124	弥生土器/鉢	#	5.0/-/-/-/-		タテハケ/ヨコナテ		灰色	SVR2/4	洗褐色	7.5YR5/4	腹1、1~3mm前後の硝子、金箔混入
125	弥生土器/鉢	#	(15.8/-/-/)(16.9/-/-		ヨコナテタテハケ/履帯/ヨコナテ、黒土		灰青色	10YR5/2	灰青色	10YR5/2	腹4、白炭粉混入

### ○第51地点

#### 1号住居跡

126	土師器/甕	口縁部	(21.0/-/-/)(21.5/-/-		ヨコ・ナメノウ・ヨコナテ/ヨコナテ		洗褐色	7.5YR5/4	洗褐色	7.5YR5/8	腹1、1~3mm前後の硝子
127	土師器/甕	#	(20.5/-/-/)(20.1/-/-		ナメノウ・ヨコナテ/ヨコナテ、ナテ		洗褐色	10YR5/4	灰色	7.5Y7/6	腹1、1~5mm前後の硝子
128	土師器/甕	#	(17.5/-/-/)(17.1/-/-		ヨコナテ・ナテ/ヨコナテ		洗褐色	5YR5/4	洗褐色	7.5YR5/8	腹1、1~5mm前後の硝子、白炭粉混入
129	土師器/甕	3/5	(15.0/-/-/)(16.3/17.2		ヨコナテ、ナメノウ/ヨコナテ、タテハケ		洗褐色	7.5YR5/8	洗褐色	10YR5/4	腹1、1~5mm前後の硝子、白炭粉混入
130	土師器/甕	口縁部	(17.20/-/-/)(20.6/-/-		風化/ヨコ・ナメノウ		洗褐色	2.5YR5/3	褐色	2.5YR5/1	腹1、1~5mm前後の硝子、白炭粉混入
131	土師器/甕	底面	-/11.8/-/-/-		ヨコナテ、木ノ葉風/ナテ		洗褐色	7.5YR5/3	灰色	2.5YR5/3	腹1、1~5mm前後の硝子、白炭粉混入
132	土師器/甕	#	-/11.7/-/-/-		ヨコナテ/ヨコナテ		灰色	5YR5/4	灰色	5YR5/4	腹1、2~5mm前後の硝子
133	土師器/甕	#	-/8.3/-/-/-		ヨコナテ/ヨコナテ		洗褐色	10YR5/4	洗褐色	7.5YR5/8	腹1、1~3mm前後の硝子
134	土師器/甕	#	-/5.0/-/-/-		タテナテ/ヨコ・ナメノウ		洗褐色	10YR7/3	褐色	2.5YR5/1	腹1、1~5mm前後の硝子、白炭粉混入
135	土師器/甕	#	-/8.3/-/-/-		ナテ/ヨコナテ		洗褐色	10YR5/4	灰色	7.5YR5/1	腹1、1~6mm前後の硝子、黒土混入
136	土師器/鉢	口縁部	-/-/-/-/-		風化/風化		洗褐色	7.5YR5/4	洗褐色	7.5YR5/4	腹1、1~5mm前後の硝子、白炭粉混入
137	土師器/鉢	#	-/-/-/-/-		風化/風化		洗褐色	7.5YR5/4	洗褐色	7.5YR5/4	腹1、1~5mm前後の硝子、白炭粉混入
138	土師器/鉢	3/5	10.9/1.5/-/12.5/11.3		風化/風化		洗褐色	10YR5/4	洗褐色	10YR5/4	腹1、1~5mm前後の硝子
139	須恵器/外甕	1/2	12.8/6.0/-/-/3.7		回転ナテ/ヘラ切り底/回転ナテ		灰色	N5/	灰色	N5/	腹4、1~3mm前後の硝子

### ○第52地点

#### 1号土壇墓

140	土師器/甕	空形	12.4/8.0/-/-/4.3		ナテ/ナテ		褐色	5YR7/6	褐色	5YR7/6	腹4、白炭粉多量混入
141	須恵器/甕付銅	#	14.7/9.0/-/-/4.0		回転ナテ/回転ナテ		灰褐色	2.5YR5/1	灰褐色	2.5YR5/1	腹4、黒硝子混入

### ○第53地点

#### 1号独立柱建物跡

142	土師器/甕	底面	-/5.0/-/-/-		回転ナテ/回転ナテ		洗褐色	10YR5/4	洗褐色	10YR5/3	腹4、
143	土師器/甕	#	-/-/-/-/-		回転ナテ/回転ナテ		褐色	2.5YR5/6	褐色	2.5YR5/6	腹4、白炭粉混入
144	須恵器/甕	胴部	-/-/-/-/-		叩き/同心円状当て具痕		灰色	2.5Y5/1	灰色	2.5Y5/1	腹4、黒硝子混入

### ○第60地点

#### 1号住居跡

145	弥生土器/甕	3/5	(24.0/-/-/)(26.0/-/-		タテハケ/ヨコナテ、タテハケ		洗褐色	10YR5/4	洗褐色	10YR5/3	腹1、1~5mm前後の硝子、白炭粉混入
146	弥生土器/甕	口縁部	-/-/-/-/-		タテハケ/ヨコナテ/ヨコナテ		褐色	5YR7/6	洗褐色	7.5YR5/3	腹1、1~5mm前後の硝子
147	弥生土器/甕付	底面	-/14.5/-/-/-		タテハケ、ヨコナテ/ヨコナテ、ナテ		褐色	5YR5/6	褐色	5YR7/8	腹1、1~5mm前後の硝子、白炭粉混入

### ○第62地点

#### 1号住居跡

148	弥生土器/甕	口縁部	32.5/-/-/-/-		漆黒肌、タテハケ/ヨコナテ、ナメノウ		明灰褐色	10YR7/3	灰色	10YR5/3	腹1、1~6mm前後の硝子、黒土混入
149	弥生土器/甕	#	21.0/-/-/-/-		漆黒肌、タテハケ/ヨコナテ、ナメノウ		灰色	5YR7/4	褐色	5YR5/6	腹4、1~3mm前後の硝子
150	弥生土器/甕	#	-/-/-/-/-		漆黒肌、タテハケ/ヨコナテ		褐色	2.5YR5/6	褐色	5YR5/6	腹1、1~6mm前後の硝子、黒土混入
151	弥生土器/甕	#	-/6.5/-/-/-		漆黒肌、タテハケ/ヨコナテ、ナメノウ		灰色	7.5YR7/4	灰色	7.5YR7/4	腹4、1~2mm前後の硝子
152	弥生土器/甕	底面	-/11.0/-/-/-		タテハケ/ナテ		褐色	7.5Y7/6	灰色	7.5YR7/4	腹4、1~3mm前後の硝子
153	弥生土器/甕	#	-/-/-/-/-		タテハケ/ナテ		洗褐色	10YR5/4	洗褐色	10YR5/4	少し腹1、白炭粉、金箔混入
154	弥生土器/甕	底面	-/-/-/-/-		タテハケ/ナテ		明灰褐色	10YR7/6	明灰褐色	10YR7/6	腹4、1~2mm前後の硝子
155	弥生土器/甕	胴部	-/-/-/-/-		ヘラ磨き/ナテ		洗褐色	10YR5/3	洗褐色	10YR5/3	少し腹1、白炭粉混入

### ○第65地点

#### 1号住居跡

156	弥生土器/甕	口縁部	25.4/-/-/-/-		タテ・ヨコハケ/ヨコハケ		灰色	7.5YR7/4	灰色	10YR7/3	腹1、1~3mm前後の硝子
157	弥生土器/甕	#	23.5/-/-/-/-		回転、タテ・ヨコハケ/ヨコナテ		明灰褐色	7.5YR7/2	明灰褐色	7.5YR7/2	腹4、1~3mm前後の硝子、白炭粉混入

No.	崩 種	残存率	法 儀		調査・文様		調査・文様		胎 七	
			口徑/底径/胴幅徑	胴厚最大径/器高	外面/内面		外面	内面		
158	弥生土器/埴	割形	-/-/-/-	-	刻目突起、ヘラ工具による連続	褐色色	5196/7	灰青色	5195/2	少し悪い、1~2cm前後の胎子、白磁片混入
159	弥生土器/埴	口縁部	-/-/-/-/-	-	ヨコナテ突起/ヨコナテ突起、ナデ	こぶし褐色	7.5197/4	浅黄褐色	7.5198/1	胎子、1~2cm前後の胎子
160	弥生土器/埴	#	-/-/-/-/-	-	ヨコナテ、ナデ	こぶし褐色	5197/6	浅黄褐色	10197/5	胎子、1~2cm前後の胎子、白磁片混入
161	弥生土器/埴	底部	-/4.9/-/-/-	-	ヨコナテ、ヘラ突起/ナデ	褐色色	2.5197/1	灰青色	2.5194/1	胎子、1~5cm前後の胎子、白磁片混入
162	弥生土器/埴	#	-/3.4/-/-/-	-	ナデ/ナデ	こぶし褐色	7.5197/4	灰青色	7.5198/3	悪い、2~3cm前後の胎子
163	弥生土器/埴	口縁部	-/-/-/-/-	-	凹線、ヨコナテ/ヨコナテ	灰黄褐色	10196/2	灰青色	10196/2	少し悪い、~3cm前後の胎子
164	弥生土器/埴	#	-/-/-/-/-	-	連続的凹線、ヨコナテ、ヨコナテ/ヨコナテ	こぶし褐色	7.5196/4	こぶし褐色	7.5196/4	胎子、1~5cm前後の胎子、白磁片混入
165	弥生土器/埴	底部	-/-/-/-/-	-	ヨコナテ、タテハク/ナデ	淡黄褐色	7.5198/4	灰青色	5197/1	胎子、1~2cm前後の胎子、白磁片混入
166	弥生土器/埴	底部	-/12.0/-/-/-	-	ヨコナテ口/ヨコナテ、ナデ	こぶし褐色	10197/3	灰青色	10197/3	胎子、1~5cm前後の胎子、白磁片混入
167	弥生土器/埴	#	-/13.7/-/-/-	-	ヘラ突起、ヨコナテ/ナデ	灰白色	N/1	灰青色	N/1	悪い、1~2cm前後の胎子、白磁片混入

## 2号住居跡

168	弥生土器/埴	口縁部	128.4	-/-/-/-/-	タテ・ヨコナテ/ナデ	灰青色	10197/1	灰白色	10197/1	胎子、4~7cm前後の胎子、白磁片混入
169	弥生土器/埴	#	-	-/-/-/-/-	ヨコナテ、ヨコナテ/ヨコナテ	褐色色	5197/6	褐色色	7.5197/6	胎子、1~5cm前後の胎子、白磁片混入
170	弥生土器/埴	底部	-/6.3/-/-/-	-	タテ・ナデ/ナデ	褐色色	10197/1	褐色色	10197/1	胎子、1~4cm前後の胎子
171	弥生土器/埴	#	-/6.3/-/-/-	-	ヨコナテ/ナデ	こぶし褐色	10197/4	こぶし褐色	10197/2	胎子、1~4cm前後の胎子
172	弥生土器/埴	割形	-/-/-/-/-	-	タテ・ナデ/ナデ	こぶし褐色	10197/4	灰黄褐色	10196/2	少し悪い、1~3cm前後の胎子、白磁片混入

## ○第69地点

217	縄文土器/埴	口縁部	-/-/-/-/-	-	貝殻糸痕文/ヨコナテ	褐色色	10195/1	灰白色	10194/2	悪い、白磁片・黒磁片
218	縄文土器/埴	#	-/-/-/-/-	-	貝殻糸痕文/ナデ	淡黄褐色	7.5193/3	灰白色	7.5193/2	少し悪い、白磁片混入
219	縄文土器/埴	#	-/-/-/-/-	-	貝殻糸痕文/ヨコナテ	浅黄褐色	7.5196/3	浅黄褐色	7.5193/3	胎子、白磁片・黒磁片
220	縄文土器/埴	#	-/-/-/-/-	-	貝殻糸痕文/ヨコナテ	浅黄褐色	2.5193/3	灰白色	2.5193/2	少し悪い、白磁片混入、白磁片
221	縄文土器/埴	#	-/-/-/-/-	-	貝殻糸痕文/風化	浅黄褐色	7.5192/4	こぶし褐色	7.5197/4	少し悪い、白磁片混入、胎子
222	縄文土器/埴	胴部	-/-/-/-/-	-	貝殻糸痕文/ナデ	こぶし褐色	7.5197/4	こぶし褐色	7.5197/4	少し悪い、1~5cm前後の胎子、白磁片混入
223	縄文土器/埴	#	-/-/-/-/-	-	貝殻糸痕文/ナデ	こぶし褐色	7.5197/7	こぶし褐色	7.5196/4	胎子、1~1cm前後の胎子
224	縄文土器/埴	口縁部	-/-/-/-/-	-	ヨコナテ/ヨコナテ	灰白色	10192/2	浅黄褐色	10196/4	胎子、白磁片混入
225	縄文土器/埴	#	-/-/-/-/-	-	ヨコナテ/ヨコナテ	こぶし褐色	7.5197/7	こぶし褐色	5197/4	胎子、白磁片混入、白磁片
226	縄文土器/埴	#	-/-/-/-/-	-	ナデ/ヨコナテ	こぶし褐色	7.5197/4	こぶし褐色	7.5197/4	胎子、白磁片混入、白磁片
227	縄文土器/埴	#	-/-/-/-/-	-	ナデ/ナデ	こぶし褐色	5197/4	こぶし褐色	5197/4	胎子、白磁片・黒磁片
228	縄文土器/埴	割形	-/-/-/-/-	-	風化/ナデ	こぶし褐色	7.5197/4	こぶし褐色	7.5197/3	少し悪い、白磁片混入、白磁片
229	縄文土器/埴	#	-/-/-/-/-	-	ナデ/ナデ	浅黄褐色	7.5192/4	明黄褐色	7.5197/1	少し悪い、白磁片混入、白磁片
230	縄文土器/埴	底部	-/-/-/-/-	-	ナデ/ナデ	浅黄褐色	7.5199/3	灰白色	7.5198/2	少し悪い、白磁片混入、白磁片
231	縄文土器/埴	#	-/-/-/-/-	-	ナデ/ナデ	浅黄褐色	7.5198/4	浅黄褐色	7.5192/4	少し悪い、白磁片混入、胎子
232	縄文土器/埴	#	-/-/-/-/-	-	ナデ/ナデ	浅黄褐色	10194/4	浅黄褐色	2.5193/3	少し悪い、白磁片混入、胎子
233	縄文土器/埴	#	-/-/-/-/-	-	ナデ/ナデ	浅黄褐色	7.5193/4	浅黄褐色	7.5198/3	少し悪い、白磁片混入、胎子

## 1号住居跡

240	弥生土器/埴	口縁部	-/-/-/-/-	-	タテハク/ヨコナテ	灰青色	2.5193/3	灰青色	2.5193/3	少し悪い、白磁片混入
241	弥生土器/埴	#	-/-/-/-/-	-	タテハク/ヨコナテ	浅黄褐色	10198/3	灰白色	7.5198/2	胎子、白磁片混入
242	弥生土器/埴	割形	-/-/-/-/-	-	ナデ/ナデ	灰青色	7.5198/2	褐色色	7.5195/1	少し悪い、1~2cm前後の胎子、白磁片混入

## 2号住居跡

243	縄文土器/埴	口縁部	-/-/-/-/-	-	ヨコナテ/ヨコナテ	褐色色	10194/1	灰白色	10198/2	少し悪い、白磁片混入
244	縄文土器/埴	底部	-/-/-/-/-	-	ヨコナテ/ナデ	褐色色	7.5195/1	褐色色	7.5195/1	胎子、白磁片・黒磁片混入

## 1号土墳墓

245	弥生土器/埴	口縁部	-/-/-/-/-	-	ヨコナテ、ナデ/ナデ	灰白色	7.5196/2	灰青色	7.5198/2	胎子、白磁片混入
246	弥生土器/埴	#	-/-/-/-/-	-	ヨコナテ、ナデ/ヨコナテ	灰白色	7.5198/2	灰白色	7.5198/2	胎子、白磁片混入
247	弥生土器/埴	#	-/-/-/-/-	-	風化/風化	褐色色	5197/5	褐色色	5197/5	胎子、白磁片・黒磁片
248	弥生土器/埴	底部	-/-/-/-/-	-	風化/風化	褐色色	5197/5	浅黄褐色	7.5193/6	胎子、白磁片・黒磁片
249	弥生土器/埴	底部	-/6.2/-/-/-	-	ナデ/風化	こぶし褐色	10197/2	灰白色	7.5198/2	少し悪い、1~3cm前後の胎子、白磁片混入
250	弥生土器/埴	#	-/-/-/-/-	-	ナデ/風化	こぶし褐色	7.5197/7	褐色色	10195/1	胎子、1~2cm前後の胎子、白磁片混入

## 2号土墳墓

251	弥生土器/埴	口縁部	-/-/-/-/-	-	連続的刻目、刻目突起/ヨコナテ	こぶし褐色	5197/4	こぶし褐色	5197/4	胎子、1~5cm前後の胎子
252	弥生土器/埴	割形	-/-/-/-/-	-	タテハク/タテハク	淡黄褐色	10193/3	褐色色	10199/1	胎子、白磁片・黒磁片

## 3号土墳墓

254	弥生土器/埴	底部	-/6.6/-/-/-	-	ヨコナテ/ナデ	褐色色	10196/1	褐色色	10196/1	胎子、1~2cm前後の胎子、白磁片混入
-----	--------	----	-------------	---	---------	-----	---------	-----	---------	---------------------

## 5号土墳墓

255	弥生土器/埴	底部	-/-/-/-/-	-	タテハク/ヨコナテ	灰白色	10197/2	灰白色	10197/2	少し悪い、白磁片混入
256	弥生土器/埴	胴部	-/-/-/-/-	-	ヨコナテ/ナデ	褐色色	7.5195/6	浅黄褐色	7.5193/3	胎子、1~2cm前後の胎子、白磁片・黒磁片

○第74地点  
1号住居跡

No.	器 種	残存率	法 量	調整・文様		調整・文様		胎 土	
				口径/底径/脚高 胴部最大径/器高	外面/内面	外面	内面		
173	赤土上器/甕	1/2	26.5/31-/23.9/29.5	タナハ/ヨコナデ/ナナメハ、ヨコナデ	洗滌褐色	7.51938	洗滌褐色	7.51988	黒い、1-2cm程度の胎土、白磁質土
174	赤土上器/甕	口縁部	18.0/-/-/16.0/-	タナハ/ヨコナデ/ナナメハ、ヨコナデ	こみ褐色	5.91774	褐色	2.519716	黒い、1-3cm程度の胎土、白磁質土
175	赤土上器/甕	*	-/-/-/-/-/-	ヨコナデ/ヨコナデ	灰褐色	7.51922	褐色	7.51952	黒い、1-3cm程度の胎土、白磁質土
176	赤土上器/甕	*	-/-/-/-/-/-	ヨコナデ/ヨコナデ	洗滌褐色	10.91874	洗滌褐色	10.91854	黒い、1-3cm程度の胎土、白磁質土
177	赤土上器/甕	*	-/-/-/-/-/-	ナナメハ、ナデ/ナナメハ	こみ褐色	5.91774	こみ褐色	5.91774	黒い、1-3cm程度の胎土、白磁質土
178	赤土上器/甕	胴部	-/-/-/-/-/-	ヨコナデ/ヨコナデ	黒褐色	10.91732	黒褐色	2.31911	黒い、1-3cm程度の胎土、白磁質土
179	赤土上器/甕	底面	-/1.0/-/-/-/-	ナデ/ナデ	洗滌褐色	10.9183	褐色	10.9111	黒い、1-4cm程度の胎土
180	赤土上器/甕	*	-/6.5/-/-/-/-	ナデ/ナデ	褐色	5.91765	褐色	7.51956	黒い、1-2cm程度の胎土、白磁質土
181	赤土上器/甕	*	-/4.0/-/-/-/-	風化/風化	洗滌褐色	7.51983	洗滌褐色	7.51983	黒い、1-4cm程度の胎土、白磁質土
182	赤土上器/甕	*	-/7.8/-/-/-/-	風化/ナデ	明褐色	10.9171	明褐色	0.9171	黒い、1-3cm程度の胎土
183	赤土上器/甕	*	-/4.0/-/-/-/-	ナデ/ナナメハ、ナデ	こみ褐色	7.51974	こみ褐色	7.51974	黒い、1-2cm程度の胎土、白磁質土
184	赤土上器/甕	*	-/-/-/-/-/-	ナデ/ナデ、へら状工具による痕跡	洗滌褐色	7.51954	洗滌褐色	7.51984	少し黒い、1-2cm程度の胎土、白磁質土
185	赤土上器/甕	*	-/3.7/-/-/-/-	ナナメハ、ナデ/ナデ	洗滌褐色	7.51984	洗滌褐色	7.51984	黒い、1-2cm程度の胎土
186	赤土上器/甕	*	-/3.0/-/-/-/-	ヨコナデ/ヨコナデ	洗滌褐色	7.51984	灰白色	7.51984	黒い、1-4cm程度の胎土、白磁質土
187	埴土器/コハク	*	-/-/-/-/-/-	へら磨き/ヨコ/ナナメハ	洗滌褐色	7.51983	洗滌褐色	7.51983	少し黒い、1-4cm程度の胎土
188	赤土上器/甕	口縁部	16.0/-/-/-/-	風化、磨き/ヨコ/ナナメハ、ヨコナデ	洗滌褐色	7.51985	洗滌褐色	7.51985	少し黒い、1-4cm程度の胎土、白磁質土
189	赤土上器/甕	*	14.1/-/-/-/-	タナハ/ヨコナデ/ナナメハ、ヨコナデ	こみ褐色	7.51974	洗滌褐色	7.51983	少し黒い、1-2cm程度の胎土
190	赤土上器/甕	*	-/-/-/-/-/-	風化、連続沈沈文/風化	洗滌褐色	7.51984	洗滌褐色	7.51984	少し黒い、1-3cm程度の胎土、白磁質土
191	赤土上器/甕	*	-/-/-/-/-/-	表沈文、ヨコナデ/ヨコナデ	褐色	10.9141	褐色	10.9141	少し黒い、白磁質、白磁質土
192	赤土上器/甕	*	-/-/-/-/-/-	ヨコナデ/ヨコナデ	褐色	5.91765	褐色	5.91765	少し黒い、1-2cm程度の胎土、白磁質土
193	赤土上器/甕	*	-/-/-/-/-/-	磨き跡、タナハ/ナナメハ、ヨコナデ	洗滌褐色	7.51983	洗滌褐色	7.51983	黒い、1-4cm程度の胎土
194	赤土上器/甕	底面	-/-/-/-/-/-	ナナメハ、ヨコナデ/ヨコナデ、ナデ	褐色	5.91765	洗滌褐色	7.51985	少し黒い、1-2cm程度の胎土
195	赤土上器/甕	*	-/-/-/-/-/-	タナハ、磨き跡/ナナメハ	褐色	5.9183	褐色	5.9186	黒い、1-3cm程度の胎土、白磁質土
196	赤土上器/甕	胴部	-/-/-/-/-/-	ナナメハ/ナナメハ	褐色	2.51983	褐色	10.9183	少し黒い、1-3cm程度の胎土、白磁質土
197	赤土上器/甕	底面	-/-/-/-/-/-	ナナメハ、ナデ/タナハ/ナナメハ	洗滌褐色	10.9183	洗滌褐色	10.9183	黒い、白磁質、白磁質土
198	赤土上器/甕	*	-/-/-/-/-/-	風化/ナデ	褐色	2.51983	褐色	7.51976	少し黒い、1-2cm程度の胎土、白磁質土
199	赤土上器/甕	*	-/3.1/-/-/-/-	へら磨き/へら磨き	洗滌褐色	7.51984	黒色	7.51981	黒い、1-2cm程度の胎土、白磁質土
200	赤土上器/甕	*	-/3.7/-/-/-/-	ナナメハ/ナナメハ	洗滌褐色	7.51984	黒褐色	7.51981	黒い、1-3cm程度の胎土、白磁質土
201	赤土上器/甕	*	-/-/-/-/-/-	ナデ/ナデ	洗滌褐色	7.51984	明褐色	7.51971	黒い、1-3cm程度の胎土、白磁質土
202	赤土上器/甕	*	-/-/-/-/-/-	風化/風化	洗滌褐色	7.51983	洗滌褐色	7.51984	黒い、1-3cm程度の胎土、白磁質土
203	赤土上器/甕	胴部	-/-/-/-/-/-	ヨコナデ/ヨコナデ、へら磨き	洗滌褐色	10.9183	洗滌褐色	10.9183	黒い、白磁質、白磁質土
204	赤土上器/甕	胴部	-/-/-/-/-/-	ヨコナデ/ヨコナデ	褐色	5.9181	洗滌褐色	5.9184	黒い、1-2cm程度の胎土、白磁質土
205	赤土上器/甕	底面	-/-/-/-/-/-	ヨコナデ/ヨコナデ、へら磨き	こみ褐色	7.51974	こみ褐色	7.51974	黒い、1-2cm程度の胎土、白磁質土
206	赤土上器/甕	胴部	-/-/-/-/-/-	へら磨き/へら磨き	洗滌褐色	7.51984	洗滌褐色	7.51984	黒い、1-3cm程度の胎土、白磁質土
207	赤土上器/甕	胴部	-/-/-/-/-/-	風化、へら磨き/ナデ	洗滌褐色	7.51984	洗滌褐色	7.51983	黒い、白磁質土
208	赤土上器/甕	*	-/-/-/-/-/-	へら磨き/ヨコナデ/へら磨き	褐色	5.91765	褐色	5.91765	黒い、1-2cm程度の胎土
209	赤土上器/甕	*	-/-/-/-/-/-	へら磨き/へら磨き	洗滌褐色	7.51983	洗滌褐色	7.51983	黒い、白磁質、白磁質土
210	赤土上器/甕	底面	-/-/-/-/-/-	へら磨き/ナナメハ	洗滌褐色	7.51983	灰褐色	7.51982	黒い、白磁質、白磁質土
211	赤土上器/甕	胴部	-/-/-/-/-/-	へら磨き/ナナメハ	洗滌褐色	7.51983	洗滌褐色	7.51983	黒い、白磁質土
212	赤土上器/甕	胴部	-/-/-/-/-/-	ヨコナデ、ナデ/ナデ	洗滌褐色	7.51983	洗滌褐色	7.51983	黒い、1-2cm程度の胎土、白磁質土
213	赤土上器/甕	*	-/-/-/-/-/-	ヨコナデ/ヨコナデ	洗滌褐色	7.51983	褐色	5.91765	黒い、白磁質土
214	赤土上器/甕	胴部	-/-/-/-/-/-	磨き跡、タナハ/ナナメハ、ヨコナデ	こみ褐色	5.91774	こみ褐色	5.91774	黒い、1-3cm程度の胎土、白磁質土
215	赤土上器/甕	胴部	-/-/-/-/-/-	ヨコナデ/ヨコナデ	褐色	5.91765	褐色	5.91765	黒い、1-2cm程度の胎土
216	埴土器/コハク	4/5	-/-/-/-/-/-	風化/風化	洗滌褐色	7.51985	洗滌褐色	7.51985	黒い、1-2cm程度の胎土

○第81地点  
1号住居跡

257	土師器/甕	口縁部	-/-/-/-/-/-	風化、タナハ/風化、ヨコハク	洗滌褐色	7.91988	洗滌褐色	10.9186	黒い、1-3cm程度の胎土
258	土師器/甕	*	-/-/-/-/-/-	ヨコナデ/ヨコナデ	洗滌褐色	7.51982	洗滌褐色	7.51983	黒い、1-3cm程度の胎土
259	土師器/甕	胴部	-/-/-/-/-/-	ヨコナデ/ヨコナデ	こみ褐色	10.9173	こみ褐色	10.9173	黒い、1-2cm程度の胎土
260	土師器/甕	*	-/6.5/-/-/-/-	ヨコナデ/ヨコナデ	洗滌褐色	10.9183	洗滌褐色	7.51983	黒い、1-3cm程度の胎土
261	土師器/甕	*	-/6.0/-/-/-/-	横・斜め方向向き/ナデ	褐色	10.9186	こみ褐色	10.9173	黒い、1-2cm程度の胎土
262	土師器/甕	*	-/3.0/-/-/-/-	ヨコナデ/ナデ	洗滌褐色	7.51983	洗滌褐色	7.51983	黒い、1-2cm程度の胎土
263	土師器/小甕状器	口縁部	-/-/-/-/-/-	磨き/ナデ	洗滌褐色	10.9184	洗滌褐色	10.9184	少し黒い、1cm程度の胎土
264	土師器/小甕状器	*	-/-/-/-/-/-	へら磨き/へら磨き	洗滌褐色	10.9184	洗滌褐色	10.9184	少し、1-2cm程度の胎土
265	土師器/小甕状器	*	-/-/-/-/-/-	ヨコナデ/ヨコナデ	灰褐色	0.9186	灰褐色	10.9184	黒い
266	土師器/小甕状器	底面	-/3.0/-/-/-/-	タナハ/ヨコハク、ヨコナデ	洗滌褐色	10.9184	灰褐色	10.9172	黒い、1-2cm程度の胎土
267	土師器/小甕状器	*	-/1.0/-/-/-/-	ヨコナデ/ナデ	こみ褐色	10.9172	こみ褐色	10.9172	黒い、1-2cm程度の胎土
268	土師器/甕	*	-/4.1/-/-/-/-	風化/風化	洗滌褐色	7.51983	洗滌褐色	7.51983	黒い、1-3cm程度の胎土
269	土師器/甕	*	-/-/-/-/-/-	風化/風化	洗滌褐色	7.51983	洗滌褐色	7.51984	黒い、1-3cm程度の胎土

No.	器種	残存率	法 量	調整・文様		調整・文様		胎 土	
				口径/底径/胴高	胴部最大径/器高	外面/内面	外面		内面
270	土師器/甕	口縁部	-/-/-/-/-	ヘラ磨き/ヘラ磨き	紅い褐色	10YR7/4	紅い褐色	10YR2/4	黒い、内面母体入
271	土師器/甕	坏部	-/-/-/-/-	ヘラ磨き/風化	浅黄褐色	10YR8/3	浅黄褐色	10YR8/3	黒い、白雲母混入
272	土師器/甕	■	-/-/-/-/-	ヘラ磨き/ヘラ磨き	褐色	7.5Y7/6	褐色	7.5Y7/6	■
273	土師器/甕	■	-/-/-/-/-	ヘラ磨き/ヘラ磨き	浅黄褐色	7.5Y8/4	浅黄褐色	10YR8/3	黒い、1mm前後の硝子
274	土師器/甕	胴部	-/-/-/-/-	ヨコナデ、ヘラ磨き?/ヘラ磨き	浅黄褐色	10YR8/3	浅黄褐色	10YR8/4	黒い、1-2mm前後の硝子
275	土師器/甕	■	-/-/-/-/-	ヘラ磨き/ナデ	浅黄褐色	10YR8/4	浅黄褐色	10YR8/3	■
276	土師器/甕	胴部	-/-/-/-/-	風化/風化	褐色	5Y7/6	褐色	5Y7/6	黒い、内面母体入
277	土師器/甕	■	-/-/-/-/-	ナデ/ナデ	浅黄褐色	7.5YR8/4	浅黄褐色	7.5YR8/6	■
278	土師器/甕	■	-/-/-/-/-	ヨコナデ/ヘラ磨き	紅褐色	10YR9/2	紅褐色	10YR7/3	■
380	土師器/甕	4/5	15.0/8.7/-/16.0	回転ナデ、ヘラ切り底/回転ナデ	褐色	7.5Y7/8	褐色	7.5Y7/6	■
381	土師器/甕	3/5	12.6/6.4/-/4.2	回転ナデ、ヘラ切り底/回転ナデ	紅い褐色	7.5YR7/4	紅い褐色	7.5YR7/4	■、1mm前後の硝子

## 2号住居跡

279	土師器/甕	口縁部	30.2/-/-/-/-	横・斜め方向叩き/ヨコ・ナメハケ	浅黄褐色	10YR8/4	浅黄褐色	7.5YR8/4	黒い、1-3mm前後の硝子
280	土師器/甕	■	118.2/-/-/-/-	ナメハケ/ナメハケ	浅黄褐色	10YR8/4	浅黄褐色	10YR8/4	黒い、2-3mm前後の硝子
281	土師器/甕	■	-/-/-/-/-	横・斜め方向叩き/ヨコナデ	浅黄褐色	2.5YR4	浅黄褐色	7.5YR8/4	■
282	土師器/甕	■	-/-/-/-/-	横方向叩き/風化	黄褐色	2.5YR4	黄褐色	2.5YR4	黒い、1-2mm前後の硝子
283	土師器/甕	■	-/-/-/-/-	横方向叩き/風化	褐色	5YR7/6	褐色	5YR7/6	■
284	土師器/甕	■	-/-/-/-/-	横方向叩き/ナデ	浅黄褐色	7.5YR8/4	褐色	5YR7/6	黒い、1-3mm前後の硝子
285	土師器/甕	胴部~底面	-/15.9/-/22.0/-	ナデ/ナデ	紅い褐色	10YR7/2	紅い褐色	10YR7/3	黒い、2-4mm前後の硝子
286	土師器/甕	底面	-/15.5/-/-/-	ナデ/ナデ	紅い褐色	7.5YR8/4	浅黄褐色	10YR8/2	黒い、1-3mm前後の硝子
287	土師器/甕	■	-/16.2/-/-/-	ナデ/ナデ	浅黄褐色	10YR8/4	浅黄褐色	10YR8/4	黒い、1-3mm前後の硝子
288	土師器/甕	■	-/12.0/-/-/-	ナデ/ナメハケ	紅い褐色	7.5YR8/4	浅黄褐色	10YR8/3	■
289	土師器/甕	口縁部	-/-/-/-/-	ヨコナデ/ナデ	浅黄褐色	7.5YR8/4	浅黄褐色	10Y7/8/4	黒い、内面母体入
290	土師器/甕	底面	6.8/4.2/-/6.3/9.6	ヨコナデ/ナデ、ナメハケ	浅黄褐色	10YR8/4	浅黄褐色	10YR8/4	■
291	土師器/甕	■	6.8/-/18.4/11.0	1/4小へラ磨き/ナデ	褐色	5YR7/5	褐色	5YR7/6	黒い、F層母体入
292	土師器/甕	胴部	-/-/-/-/-	風化/風化	浅黄褐色	10YR8/4	浅黄褐色	10YR8/4	■
293	土師器/甕	■	-/-/-/-/-	ヘラ磨き/ヘラ磨き	浅黄褐色	2.6YR8/4	浅黄褐色	10YR7/6	黒い、内面母体入
294	土師器/甕	■	-/-/-/-/-	ヘラ磨き/回転ナデ	浅黄褐色	10YR7/8	浅黄褐色	10YR7/6	黒い、白雲母混入

## 3号住居跡

295	土師器/甕	口縁部	115.0/-/-/-/-	ヨコナデ/ヨコナデ	紅い褐色	5YR7/4	紅い褐色	5YR7/4	少し黒い、1-3mm前後
296	土師器/甕	■	-/-/-/-/-	ヘラ磨き/ヨコナデ	浅黄褐色	10YR8/3	灰色	7.5YR7/1	黒い、内面母体入
297	土師器/甕	■	-/-/-/-/-	ヨコナデ/ヨコナデ	灰色	NS/	灰色	NS/	■
298	土師器/甕	1/3	(14.1)/16.5/-/12.4	回転ナデ、ヘラ切り底/回転ナデ	浅黄褐色	7.5YR8/4	浅黄褐色	7.5YR8/4	黒い、1mm前後の硝子
299	土師器/甕	■	(13.8)/17.4/-/14.0	回転ナデ、ヘラ切り底/回転ナデ	紅い褐色	10YR7/4	紅い褐色	10YR7/4	黒い、1mm前後の硝子
300	土師器/甕	1/5	-/-/-/-/4.2	ヨコナデ/ヨコナデ	褐色	2.5YR8/6	黒褐色	10YR7/4/1	黒い、1mm前後の硝子
301	土師器/甕	胴部	-/16.9/-/-/-	風化/風化	褐色	5YR7/6	褐色	5YR7/6	黒い、1-3mm前後の硝子
302	土師器/甕	■	-/-/-/-/-	ヨコナデ/ヨコナデ	浅黄褐色	10YR8/4	浅黄褐色	10YR8/4	■
303	土師器/甕	■	-/-/-/-/-	ヨコナデ/ヨコナデ	浅黄褐色	10YR8/4	浅黄褐色	10YR8/4	■
304	土師器/甕	口縁部	-/-/-/-/-	風化/布目	褐色	2.5YR8/8	褐色	2.5YR8/8	黒い、1-3mm前後の硝子
305	土師器/甕	■	-/-/-/-/-	風化/布目	褐色	5YR8/8	褐色	5YR8/8	黒い、1-3mm前後の硝子
306	土師器/甕	■	-/-/-/-/-	風化/布目	浅黄褐色	7.5YR8/6	褐色	5YR7/6	黒い、1-3mm前後の硝子

## 4号住居跡

307	土師器/甕	口縁部~胴部	127.2/-/-/127.8/-	ヨコ・ナメハケ/風化	浅黄褐色	10YR8/4	浅黄褐色	10YR8/4	黒い、2-5mm前後の小石多量
308	土師器/甕	■	118.2/-/-/119.0/-	横・斜め方向叩き/ヨコナデ	浅黄褐色	7.5YR8/4	浅黄褐色	7.5YR8/4	黒い、2-4mm前後の小石多量
309	土師器/甕	口縁部	■	横方向叩き、ヨコナデ/ヨコナデ	浅黄褐色	10YR8/4	浅黄褐色	10YR8/4	黒い、1-3mm前後の小石多量
310	土師器/甕	■	-/-/-/-/-	ヨコナデ/ヨコナデ、ナデ	浅黄褐色	10YR8/4	浅黄褐色	10YR8/3	黒い、1-3mm前後の小石多量
311	土師器/甕	■	-/-/-/-/-	横・斜め方向叩き/ナデ	浅黄褐色	10YR8/4	浅黄褐色	10YR8/4	黒い、1-3mm前後の小石多量
312	土師器/甕	胴部~底面	-/12.1/-/21.3/14.4	横方向叩き/ナデ、ナメハケ	紅い褐色	10YR7/2	浅黄褐色	10YR8/4	黒い、1-4mm前後の小石多量
313	土師器/甕	底面	-/12.8/-/-/-	横方向叩き、ナメハケ/ナメハケ	浅黄褐色	7.5YR8/4	浅黄褐色	10YR8/4	黒い、1-3mm前後の小石多量
314	土師器/甕	■	-/15.5/-/-/-	斜め方向叩き、ナデ/ナメハケ	浅黄褐色	10YR8/4	浅黄褐色	10YR8/4	黒い、1-3mm前後の小石多量
315	土師器/甕	■	-/-/-/-/-	ナデ/ナデ	黄褐色	2.5YR8/	紅い褐色	7.5YR8/4	黒い、1-4mm前後の小石多量
316	土師器/甕	■	-/-/-/-/-	ナデ/ナデ	紅い褐色	10YR7/3	浅黄褐色	7.5YR8/4	黒い、1-3mm前後の小石多量
317	土師器/甕	胴部	-/-/-/-/-	横方向叩き/ヨコナデ	浅黄褐色	7.5YR8/3	浅黄褐色	7.5YR8/4	黒い、1-2mm前後の小石多量
318	土師器/甕	底面	-/-/-/-/-	叩き磨き/ナデ	黄褐色	2.5YR4	黄褐色	2.5YR4	黒い、1-3mm前後の小石多量
319	土師器/甕	口縁部~胴部	-/-/-/-/-	風化/風化	浅黄褐色	7.5YR8/6	浅黄褐色	7.5YR8/6	■
320	土師器/甕	底面	16.0/12.2/-/16.0/5.5	ヘラ磨き/ヨコナデ、ナデ	浅黄褐色	10YR8/4	浅黄褐色	10YR8/3	少し黒い、1-3mm前後の小石
321	土師器/甕	胴部	-/15.5/-/-/-	ヘラ磨き、風化/ナデ、ヨコナデ	紅い褐色	2.5YR8/4	黄褐色	7.5YR7/1	黒い、白雲母多量混入
322	土師器/甕	■	-/-/-/-/-	ヘラ磨き/ヨコナデ、風化	浅黄褐色	7.5YR8/4	浅黄褐色	7.5YR4	黒い、内面母体多量混入
323	土師器/甕	■	-/-/-/-/-	ヘラ磨き/ナデ、風化	浅黄褐色	10YR8/4	浅黄褐色	7.5YR8/4	少し黒い、1-2mm前後の小石
324	土師器/甕	胴部	-/-/-/-/-	縦方向叩き/円心召喚当て当り	灰色	NS/	灰色	NS/	少し黒い、内面母体入

## 5号住居跡

No.	器 種	残存平	法 量		高 整・文 様		高 整・文 様		胎 土	
			口径/底径/脚高	胴部最大径/器高	外面/内面	外面	内面			
325	十條巻/甕	底部	-/4.4/-/1-		横・斜め方向叩き/風化	淡黄褐色	10YR5/3	淡黄褐色	10YR5/3	少し白い、1~2mm程度の粒子
326	土師器/甕	#	-/(4.0)/-/1-			淡黄褐色	7.5YR5/3	淡黄褐色	7.5YR5/3	白い、1~2mm程度の粒子少量
327	1條巻/二条脚	口縁部	-/-/1.1/-/1-		風化/風化	褐色	2.5YR7/3	褐色	5YR7/3	少し白い、1~2mm程度の粒子
328	土師器/高杯	胴部	-/-/3.2/-/1-		ヨコナデ後タテハケ/ヨコナデ	褐色	5YR7/3	淡黄褐色	7.5YR5/4	細かい、少量の鉄入

## 6号住居跡

331	十條巻/甕	完形	15.1/3.5/-/14.2/5.5		横・斜め方向叩き/ヨコ・ナナメハケ	淡黄褐色	10YR5/3	淡黄褐色	10YR5/3	白い、1~3mm程度の粒子
332	土師器/甕	口縁部	-/-/1.1/-/1-		ヘラ磨き/ヨコ・ナナメハケ	淡黄褐色	10YR5/3	淡黄褐色	10YR5/3	細かい、白点多量鉄入
333	十條巻/甕	#	-/-/1.1/-/1-		ヨコナデ/ヨコナデ	淡黄褐色	7.5YR5/3	褐色	7.5YR7/3	白い、1~3mm程度の粒子
334	土師器/甕	胴部	-/3.7/-/1-		ヘラ磨き/ナデ	淡黄褐色	10YR5/3	淡黄褐色	10YR5/3	細かい、1~3mm程度の粒子少量
335	十條巻/甕	#	-/3.0/-/1-		ナデ/ナデ	こみへり	7.5YR5/3	こみへり	5YR7/3	白い、1~3mm程度の粒子、白点多量鉄入
336	土師器/甕	#	-/3.4/-/1-		斜め方向叩き/ナデ	褐色	2.5Y7/3	淡黄褐色	10YR5/3	白い、1~2mm程度の粒子
337	十條巻/甕	#	-/3.4/-/1-		ヘラ磨き、タテハケ/ナデ	淡黄褐色	7.5Y5/3	淡黄褐色	7.5Y5/3	細かい、少量の鉄入
338	土師器/甕	#	-/-/1.1/-/1-		ナデ/ナデ	淡黄褐色	10YR5/4	淡黄褐色	10YR5/4	白い、1~2mm程度の粒子
339	十條巻/高杯	4/5	13.4/2.7/1/19.4/20.2		風化、ヘラ磨き/ヨコ・ナナメハケ	淡黄褐色	7.5YR5/4	淡黄褐色	10YR5/4	白い、1~2mm程度の粒子
340	土師器/高杯	口縁部	-/-/1.1/-/1-		波状文/ヨコナデ	褐色	5YR7/3	褐色	5YR7/3	白い、1~2mm程度の粒子
341	十條巻/甕	#	3.4/-/1.1/-/1-		風化/ヨコハケ	淡黄褐色	7.5YR5/4	淡黄褐色	7.5YR5/4	細かい、白点多量鉄入
342	土師器/甕	胴部	-/-/1.1/-/1-		風化/ヨコハケ	褐色	5YR7/3	褐色	5YR7/3	細かい、白点多量鉄入
343	十條巻/甕	底部	-/1.0/-/1-		風化/風化、ヨコハケ	淡黄褐色	7.5YR5/3	淡黄褐色	7.5YR5/3	細かい、
344	1条巻/コップ	3/5	-/3.1/-/1-		ヘラ磨き/ヨコ・ナナメハケ	こみへり	7.5YR7/4	こみへり	5YR7/4	細かい、白点多量鉄入
345	十條巻/高杯	口縁部→胴部	-/2.8/-/18.4/		横・斜め方向叩き/風化、ヨコナデ、ナデ	淡黄褐色	7.5Y5/4	褐色	5YR7/3	白い、1~3mm程度の粒子
346	土師器/高杯	口縁部→胴部	-/-/1.1/-/1-		風化/風化、ヨコナデ	淡黄褐色	7.5YR5/3	褐色	5YR7/3	白い、1~2mm程度の粒子
347	土師器/高杯	胴部	-/-/1.1/-/1-		ヨコナデ、ヨコ・ナナメハケ/ヘラ磨き	淡黄褐色	10YR5/3	淡黄褐色	10YR5/3	細かい、白点多量鉄入
348	土師器/高杯	#	-/-/1.1/-/1-		ヨコハケ/風化	黄褐色	7.5YR7/3	褐色	5YR7/3	細かい、白点多量鉄入
349	十條巻/高杯	#	-/-/1.1/-/1-		風化/風化	淡黄褐色	7.5YR5/4	淡黄褐色	7.5YR5/3	細かい、

## 7号住居跡

351	土師器/甕	1/2	24.3/1.1/-/23.6/1-		横・斜め方向叩き/ヨコナデ、ナデ	こみへり	7.5YR7/1	褐色	2.5Y27/3	白い、2~4mm程度の粒子多量
352	土師器/甕	底部	-/3.3/-/1-		横・斜め方向叩き/ヨコナデ、ナデ	こみへり	7.5YR7/4	褐色	2.5YR7/3	白い、2~4mm程度の粒子多量
353	土師器/甕	1/2	21.3/1.1/1/18.4/20.0		ヨコナデ、横・斜め方向叩き/ヨコナデ、ナデ	こみへり	7.5YR7/4	淡黄褐色	10YR5/4	白い、1~3mm程度の粒子
354	土師器/甕	完形	30.1/1.1/-/30.8/39.1		ヨコナデ、斜め方向叩き/ヨコナデ、ナデ	淡黄褐色	7.5YR5/3	淡黄褐色	7.5YR5/4	白い、1~3mm程度の粒子
355	十條巻/甕	1條巻→胴部	22.0/1.1/-/18.0/1-		ヨコナデ、横・斜め方向叩き/ヨコナデ、ナデ	こみへり	7.5YR7/4	褐色	2.5YR7/3	白い、1~3mm程度の粒子多量
356	土師器/甕	胴部→底部	1.5/-/1.1/-/1-		斜め方向叩き/ナデ	黄褐色	7.5YR7/2	こみへり	7.5YR7/3	白い、1~3mm程度の粒子多量
357	十條巻/甕	底部	-/3.5/-/1-		斜め方向叩き/ナデ	こみへり	10YR5/3	淡黄褐色	7.5YR5/3	白い、1~3mm程度の粒子
358	土師器/甕	#	-/2.1/-/1-		ナデ/ナデ	淡黄褐色	7.5Y5/4	黄褐色	7.5Y5/3	白い、1~4mm程度の粒子
359	十條巻/甕	口縁部	-/-/1.1/-/1-		横方向約ハケ目/風化	黄褐色	2.5YR5/3	褐色	2.5YR6/3	白い、1~4mm程度の粒子
360	二条巻/高杯	完形	1.1/-/1.1/-/1-		ヨコナデ/ヨコナデ	淡黄褐色	10YR5/4	淡黄褐色	10YR5/4	少し白い、1mm程度の粒子
361	打割器/高杯	完形	8.7/2.5/1.1/-/7.7		風化、ヘラ磨き/ヨコハケ、ナデ	淡黄褐色	7.5YR5/3	こみへり	7.5YR7/4	白い、1~2mm程度の粒子多量
362	土師器/甕	胴部	8.8/2.3/1.1/-/5.45		風化/風化	褐色	5YR5/3	褐色	5YR5/3	細かい、
363	土師器/高杯	胴部→高杯	17.2/-/1.1/-/1-		ヘラ磨き、タテハケ/ヨコナデ、ヘラ磨き	褐色	7.5Y7/3	褐色	7.5Y7/3	細かい、白点多量鉄入
364	十條巻/高杯	胴部	11.5/-/1.1/-/1-		風化/風化	淡黄褐色	7.5YR5/4	淡黄褐色	7.5YR5/4	少し白い、1mm程度の粒子
365	土師器/高杯	#	-/-/1.1/-/1-		風化/風化	淡黄褐色	7.5YR5/3	こみへり	7.5YR7/4	細かい、白点多量鉄入
366	十條巻/高杯	#	-/-/1.1/-/1-		風化/風化	褐色	5YR7/3	褐色	5YR7/3	細かい、
367	土師器/高杯	胴部	-/1.1/3.4/-/1-		ヘラ磨き/ヘラ磨き、ヨコハケ	褐色	5YR7/3	黄褐色	10YR7/3	細かい、白点多量鉄入
368	十條巻/高杯	#	-/-/1.1/-/1-		ヘラ磨き/ヨコナデ	淡黄褐色	5YR5/3	淡黄褐色	5YR5/3	細かい、白点多量鉄入
369	土師器/高杯	#	-/-/1.1/-/1-		ヘラ磨き/ヨコハケ、ヘラ磨き	こみへり	5YR5/1	こみへり	7.5Y7/4	細かい、白点多量鉄入
390	打割器/甕	胴部	-/-/1.1/-/1-		叩き/叩き	黄褐色	N5/	黄褐色	2.5Y5/1	細かい、白点多量鉄入

## 8号住居跡

372	土師器/甕	完形	13.4/0.3/1.1/-/14.3		ヨコ・ナナメハケ/ヨコ・ナナメハケ	淡黄褐色	7.5YR5/3	淡黄褐色	7.5YR5/3	白い、1~3mm程度の粒子
373	土師器/甕	胴部→底部	-/-/1.1/-/1-		風化/ナデ	淡黄褐色	7.5YR5/3	こみへり	10YR7/2	白い、1~2mm程度の粒子
374	土師器/甕	#	-/10.8/1.1/-/1-		横方向叩き、ナデ/風化	淡白色	10YR3/2	褐色	2.5YR7/3	白い、1~3mm程度の粒子
375	土師器/甕	底部	-/4.2/-/1-		ナデ/ナナメハケ、ナデ	こみへり	7.5YR7/4	こみへり	10YR7/3	白い、1~2mm程度の粒子
376	十條巻/高杯	胴部	-/-/1.1/-/1-		ヘラ磨き/ナデ	褐色	5YR7/3	淡黄褐色	7.5Y3/4	細かい、白点多量鉄入
377	土師器/高杯	#	-/-/1.1/-/1-		ヘラ磨き/ナデ	淡黄褐色	7.5Y5/4	淡黄褐色	7.5YR5/4	細かい、白点多量鉄入
378	十條巻/高杯	#	-/-/1.1/-/1-		ヨコナデ/ヨコナデ	淡黄褐色	10YR5/3	淡黄褐色	10YR5/3	少し白い、1mm程度の粒子
379	打割器/甕	胴部	-/-/1.1/-/1-		叩き/同心円状当て真煎	淡白色	N5/	淡白色	N5/	細かい、白点多量鉄入

( ) 内の数字は反転係数

# 石器

No.	山土地点	出土遺物	器 種	石 材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	備 考
47	第10地点	5号築石	石 鏃	黒曜石	1.5	1.45	0.3	
48	"	-	敲 石	砂 岩	9	8.8	5.1	
49	"	-	敲 石	"	8.7	8.2	3.7	
50	"	-	敲 石	尾跡山巖成岩	8.4	8.5	4.7	
51	"	-	敲 石	"	8.4	7.5	4.6	
52	第11地点	-	敲 石	砂 岩	9.1	7.6	4.4	
23	第17地点	-	石 鏃	頁 岩	7.9	5.7	1.6	
24	"	-	石 鏃	緑色頁岩	-	2.05	0.25	磨製石鏃
25	"	-	石 鏃	"	3.2	1.7	0.2	磨製石鏃
85	第14地点	-	石 鏃	チャート	1.4	1.3	0.25	
86	"	-	石 鏃	"	1.8	1.5	0.4	
87	"	-	敲 石	尾跡山巖成岩	10.6	8.3	4	
88	"	-	敲 石	"	10	8.6	6.4	
89	"	-	敲 石	砂 岩	10.8	-	6.4	
234	第69地点	-	敲 石	尾跡山巖成岩	-	9	4.1	
235	"	-	敲 石	砂 岩	10.2	7.2	4	
236	"	-	石 鏃	チャート	1.8	1.4	0.3	
237	"	-	石 鏃	"	1.3	1.3	0.25	
238	"	-	石 鏃	"	1.4	1.1	0.25	
239	"	-	石 鏃	黒曜石	1.3	1	0.2	
243	"	2号土壇墓	石 鏃	緑色頁岩	2.7	2.15	0.2	
329	第81地点	5号住居跡	磨製石包丁	頁 岩	6.1	3.1	0.4	
330	"	"	砥 石	砂 岩	23.4	12.4	9.1	
350	"	6号住居跡	打製石包丁	頁 岩	6	4.4	1.3	
371	"	7号住居跡	紡錘車	砂 岩	5.6	5.6	1.2	

## 第V章 ま と め

### 縄文時代の遺構・遺物について

今回の調査で、最古の時期のものとして、第10・11・14・65・69地点から集石遺構や焼礫群、そして縄文土器等を検出した。これまでには、新立遺跡<sup>(10)</sup>をはじめ西都原地区遺跡<sup>(11)</sup>（1号支線道路・2号小道路・23号支線道路・E区）からも同様の遺構や遺物を検出している。

集石遺構は、いずれも拳大の礫を0.62～1.62mの範囲に集積させているが、掘込みを有するものと有しないもの、さらに、掘込みを有するものは底面に配石を有するものと有しないものに分類される。なお、配石には花卉状のものが含まれる。この集石遺構の使用目的は、形態や礫が焼けて赤く変色していること、炭化物が検出されることから、調理用の石蒸か<sup>(12)</sup>と考えられ、焼礫は礫の散乱状況から廃棄礫と思われる。

これらの遺構からは、あまり共伴して遺物が出土していないが、周辺からは土器や石器が出土している。第10・11地点からは押型土器と無文土器、第14・69地点からは貝殻条痕文系土器と無文土器が出土しているが、特に押型土器が主体を成して出土しているのは西都原台地では極めて珍しい。その他、第14・69地点をはじめ新立遺跡・西都原地区遺跡（1号支線道路・2号小道路・23号支線道路・E区）等いずれも貝殻条痕文系土器が主体を成して出土している。

押型土器は、山形押型文と楕円押型文、そして、わずかに格子口の押型文が含まれている。形式に当てはめると施文が細かく丁寧で、原体条痕を使用しているものが田村式、大まかで雑なものがヤトコロ式に相当するものと思われる。これらは押型土器でも比較的新しいもので、早期でも中葉から後葉に位置づけられている。

一方、貝殻条痕文系土器は文様や施文方法等が前平式土器や吉田式土器に類似しているのが出土しており、今回の調査ではないが、新立遺跡からは吉田式土器の特徴であるクサビ形突帯を有するものも出土している。この前平式や吉田式土器は早期でも中葉に位置づけられているもので、いずれにしても、本地域は他地域との交流や影響を受けながら、生活の適地として営まれていたことが窺える。

また、今回の調査で、縄文時代晩期頃の住居跡を検出することができた。第69地点から検出した円形プランの住居跡であるが、共伴遺物の特徴から縄文晩期と判断した。いずれにしても、わずかに1軒のみの検出であるが、西都原では初めての検出例であり、時代の空白を埋めることのできる貴重な資料となった。

### 弥生時代の遺構・遺物について

弥生時代の遺構としては、竪穴式住居跡と土壇墓等を検出している。中でも、竪穴式住居跡は8地点で9軒検出している。

これら各住居跡からは多くの遺物が出土しているが、そのほとんどが土器で、器種としては甕が主体を成し、その他壺や高坏・鉢・器台等が含まれている。この中で、甕を形態で大まかに分類すると、I線部が逆「L」字状を呈し胴部に突帯を有しているもの、口縁部が「く」字状を呈し突帯を有するものと有しないもの、口縁部が直線的で刻目突帯を有しているものに分かれる。さらに、口縁部が「く」字状を呈し突帯を有するものは、その突帯に刻目を有しているものと有しないものに分かれる。この中で、口縁部が直線的で刻目突帯を有しているものはいわゆる下城式系の甕で、I線部が逆「L」

字状で突帯を有する甕と鋤先状口縁で胴部に突帯を有する壺と共伴関係にある場合が多く、西都市のこれまでの調査でも2号小道路（西都原地区遺跡）等からかなりの量が出土している。

壺は量的には少ないものの、口縁部が特徴的で、鋤先状を呈しているもの、長く内湾しながら延びているもの、「く」字状を呈しているもの、二重口縁を呈しているものに分類できる。この中で、第65地点から出土している鋤先状の沈線が施された鋤先状口縁の壺（164）と凹線が施された壺（163）のセットは新田原遺跡<sup>(5)</sup>4号住居跡（新宮町）から出土している。ちなみに、新田原遺跡は弥生中期末から後期初頭に位置づけられているが、第65地点の住居跡は後期に比定される。その他、形態的に胴部上や最大幅部分に突帯を有しているものや、円形浮文を有しているものも含まれているが、これは鋤先状口縁壺の胴部と思われる。

一方、これらとは別に特徴的なものも存在している。第39地点の123は壺としたが胴部以下が出土しておらず、断定できない。同じ壺で八幡上遺跡<sup>(6)</sup>10号住居跡（新宮町）から出土しているものは、口縁部は破損しているが、胴上部に同じような施文で文様が描かれている。いずれにしても、見た目ではかなり異様であり、特別な場合のみ使用されたのかもしれない。また、第65地点の166・167は鉢の底部であるが、底面積が広く、方形に立ち上がっている。器厚が薄く、丁寧なヨコハケ調整が施されている。これまでに見られないタイプのものである。そして、第60地点の147は器台であるが、銀代ヶ追遺跡<sup>(5)</sup>（新宮町）、下那珂遺跡<sup>(5)</sup>（佐土原町）等から出土しているが、形態的には銀代ヶ追遺跡の方に近く、下那珂遺跡のように直径が広く、底部及び口縁部は広がらない。しかし、円孔を有している点では下那珂遺跡の器台ではないが、高坏の施文方法と同じである。

このように、全く同じものはないが、他地域との類似点もかなり有している。さらに、今回の出土遺物の中には外来系の影響を受けているものもあり、他地域とも交流し、影響を受けながら在地型の土器として変化していったものと思われる。

これらの遺物については、形態の特徴や共伴関係等を、編年の指標としてきた石川悦雄氏の「宮崎平野における弥生土器編年試案<sup>(7)</sup>」を基に、これまで検出してきた同遺跡の遺物とも照らし合わせながら各住居跡の時期比定を行った。

プラン的には方形あるいは長方形で、規模的には長軸が4.5mから6.0m前後のものかほとんどで、中には3.36m（第62地点）のものや7.50m（第74地点）とかなり大きなものもある。また、内側に向かって突出壁（第24・65地点）や外側に張り出し（第65・74地点）を有しているものがある。これらは間仕切り住居と呼ばれている範囲に含まれるものであるが、西都原台地の東方、一ツ瀬川を隔てた対岸の台地上の緑ヶ丘遺跡<sup>(8)</sup>（西都市）、新田原遺跡、八幡上遺跡等からは花弁状の間仕切り住居（花弁状間仕切り住居）が検出されている。西都原では検出されていないことから、その影響を受けていないのか、まだ検出できないのかわからないが興味ある問題である。

また、これら住居跡は単独で遺存している例が多く、まとめて検出しているのは第65地点の3軒のみで、遺構密度としてはかなり低いと考えられる。それが、弥生時代終末から古墳時代初頭にはまとめて検出されるようになり、規模も長軸が7.0mを超える大きな住居跡が確認できるようになる。この頃からかなりの人が流入し、生活が豊かになってきたことを示しているものと思われる。

## 第81地点の住居跡群について

第81地点の北側に隣接して道路が東西に延びている。この道路はすでに調査され整備は完了しているが、その際に拡幅された部分だけであったが330㎡の範囲内に21軒もの住居跡を検出した。単独で

遺存しているものは少なく、3～6軒が重複していた。また、北側畑地一帯でも耕した後に黒い方形のプランをいくつも確認できる。この地点の南西約10mにあたる畑地が第81地点であるが、この畑地の半分から南側では竪穴式住居跡を全く確認することができなかった。つまり、北側はどこまで範囲が広がっているのかははっきりしないが、第81地点は本地域一帯に想定される大集落跡の南西端に当たるのではないかと推定される。

この第81号地点からは、9軒の竪穴式住居跡を検出した。この中で、6号～8号住居跡は重複しており、まず、その相互関係の把握に努めた。掘削前の切り合い関係では、6号住居跡が一番古く、次に8号住居跡、そして7号住居跡であることが見て取れた。それは、土層からも同じような状況が確認できることから、相互関係は間違いないと思われる。よって、6号→8号→7号という相互関係が成り立つ。それぞれの住居跡から出土した土器を見てみると、6号住居跡からは小片ではあるが甕、そして、二重口縁壺や大きく外反した口縁部を持つ壺、また、算盤球のように胴部が膨らんだ壺等が出土している。その他、コップ状のものや口縁部が「く」字状に開いた鉢等も出土している。7号住居跡は、甕が多く出土しており、口縁部が「く」字状に外反するものと、その外反度が少ないものなどに分類される。さらに、口縁部が「く」字状に外反する甕は、胴上部に最大幅をもつものと胴部中央に最大幅をもつものに細分される。器形的にはスマートで、均整のとれた甕が含まれている。その他、高杯や小型丸底壺等が出土している。8号住居跡は量的には少なく、甕や高台付の鉢等が出土している。以上がそれぞれの住居跡から出土したものであるが、比較できる器種に乏しく、前後関係を把握することは難しい。そこで、それぞれを他地域の土器と比較すると、6号住居跡が古墳時代前期前半、7号住居跡が前期後半、8号住居跡が前期後半葉と推定される。

その他の住居跡について、土器の形態や構成等を考慮して推察すると、1号住居跡が古墳時代前期前半、2号・3号住居跡が中期前半、4号住居跡が8世紀前半、5号住居跡が中期前半のものと推定される。

これらの遺構・遺物を27号支線道路と比較してみると、3号住居跡を除いて全体的に土器形態は酷似しているものが多い。近接しており、同じ集落内に位置する関係にあるからと思われる。この27号支線道路の住居跡群は、古墳時代前期前半から前期後半に比定しており、比較的短い期間営まれた集落であると判断した。

その他、第81地点に類似する土器を出土する遺跡に西部原では新立遺跡・周辺地域では八幡上遺跡・銀代ヶ迫遺跡等がある。

新立遺跡から出土した土器を比較すると、甕は類似しているものも含まれるが、全体的に外反度合が大きく、壺も直口した口縁部のものはほとんど見られない。また、壺の胴部も球状のものよりも弾丸状のものが多い。その他、小型丸底壺でも新立遺跡のものは、口縁部が大きく開く古いタイプのものが含まれているなど、若干の土器形態の相違が見受けられる。時期的には弥生時代終末から古墳時代初頭に位置づけている。

また、形態的には八幡上遺跡1号・3号住居跡、銀代ヶ迫遺跡1号住居跡から出土している甕や壺等が類似している。時期的には4世紀後半から5世紀前半に比定されている。

このようなことを踏まえながら考察すると、本地点の住居跡群は新立遺跡の新しい時期から八幡上遺跡・銀代ヶ迫遺跡と同時期、つまり、古墳時代初頭から中期前半を中心に営まれた集落跡であると思われる。

最後に、本地点を含め弥生時代終末から古墳時代前半頃には遺構密度が全体的に非常に高くなって

いる。この頃になるとかなりの人たちが流入し大集落が形成され、生活環境が変化したと同時に繁栄したことがこのことから理解できる。

### 掘立柱建物跡について

今回の調査で、第26・52・72地点の3箇所から検出している。特に第26地点からは9軒もの掘立柱建物跡を検出している。残念なのは、柱穴から遺物がほとんど出土しておらず、建物自体は重複しているのに時期及び相互関係を確実に特定できないことである。その他の柱穴や遺構等から判断すると16世紀頃のものと同定される。遺物としては、青磁盤や白磁碗などをはじめとする輸入陶磁器が出土している。さらに、吉祥字の入った染付皿等も出土しているが、青磁盤を含め市内の徳北城跡から出土したものと類似している。徳北城跡は、中世期に日向一門を支配した伊東氏（本城は都於郡城）の支城であり、この時期は都於郡10代城主伊東三位入道義祐の全盛期に相当する時代で、特に南方貿易に尽力した結果、貴重な中国陶磁器が流入したと推察されており、このような観点・関連性からも注目される。

このように、各時代に応じて影響を受けながら様々な様相を呈し、文化をもつ西都原、今回の調査によって少しずつ解明されてはきているものの、まだまだ未解明で謎の部分が多いのが現状であり、これからも、さらに検討を加え、解明していかなければならないと思われる。

### 註

- (1) 西都市教育委員会「新立遺跡」『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書』第18集 1992
- (2) 西都市教育委員会「西都原地区遺跡」『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書』第22集 1996
- (3) 新富町教育委員会「新田原遺跡」『新富町文化財調査報告書』第4集 1986
- (4) 新富町教育委員会「八幡上遺跡」『新富町文化財調査報告書』第13集 1992
- (5) 新富町教育委員会「銀ヶ迫遺跡」『新富町文化財調査報告書』第13集 1992
- (6) 宮崎県総合博物館「下那珂貝塚」『埋蔵文化財調査報告書』II 1988
- (7) 石川悦雄が「宮崎平野における弥生土器編年試案—素描（MK II）」『宮崎考古』第9号 1984の中で、6期12小期に分類している。
- (8) 西都市教育委員会「徳北城跡・三納城跡」『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書』第24集 1996
- (9) 西都市教育委員会「都於郡城址本丸跡」『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書』第5集 1998 の中で、日高正晴氏が推察されている。



1. 西都原地区遺跡全景 (真上より)



2. 西都原地区遺跡全景 (北より)



3. トレンチ内調査状況 (第1地点)



4. サブトレンチ内調査状況 (第1地点)



5. 第8地点住居跡内遺物出土状況



6. 第8地点住居跡検出状況



7. 西都原遺跡遠景 (北より)



8. トレンチ内調査状況 (第14地点)



9. 第17地点住居跡検出状況



10. 第24地点住居跡検出状況



11. 第10・11地点遠景（東より）



12. 第10地点2号集石遺構検出状況



13. 第10地点2号集石遺構検出状況



14. 第10地点4号集石遺構検出状況



15. 第10地点4号集石遺構底面配石検出状況



16. 第10地点5号集石遺構検出状況



17. 第10地点5号集石遺構底面配石検出



18. 第10地点6号集石遺構検出状況



19. 第10地点6号集石遺構底面配石検出



20. 第11地点1号集石遺構検出状況



21. 第11地点3号集石遺構検出状況



22. 第14地点焼礫群検出状況



23. 第14地点消失門壇周溝検出状況



24. 第14地点消失円墳周溝内破碎甕出土状況



25. 第26地点1～4号掘立柱建物跡検出状況



26. 第26地点遺構分布状況(真上より)



27. 第26地点5・6号掘立柱建物跡検出状況



28. 第26地点1号土壙墓検出状況



29. トレンチ内調査状況 (第38地点)



30. サブトレンチ内調査状況 (第38地点)



31. 第31地点住居跡検出状況



32. 第51地点住居跡内遺物出土状況



33. 第51地点住居跡検出状況



34. 第52地点土壇墓検出状況



35. 第52地点土壇墓内遺物出土状況



36. 第53地点掘立柱建物跡検出状況



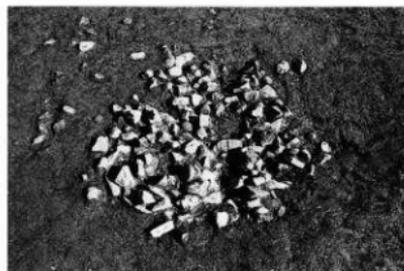
37. 第60地点住居跡検出状況



38. 第62地点住居跡検出状況



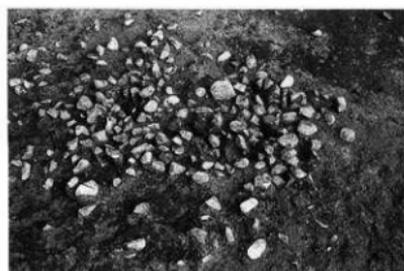
39. 第65地点1号集石遺構検出状況



40. 第65地点2号集石遺構検出状況



41. 第65地点3号集石遺構検出状況



42. 第65地点4号集石遺構検出状況



43. 第65地点5号集石遺構検出状況



44. 第65地点6号集石遺構検出状況



45. 第65地点遠景（西より）



46. 第65地点遺構分布状況（真上より）



47. 第69地点1号集石遺構検出状況



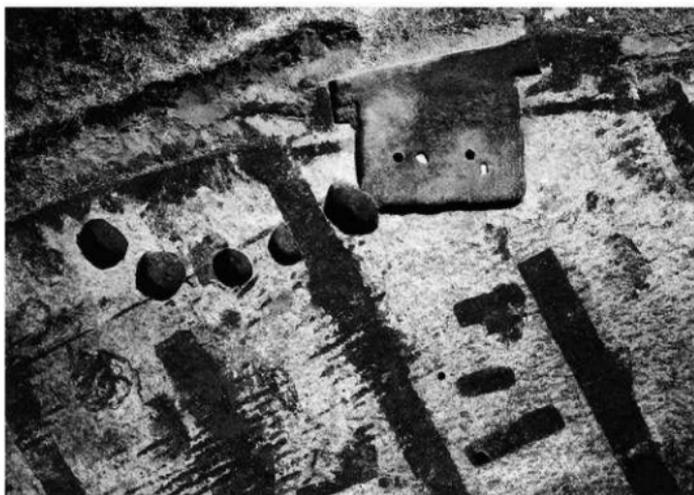
48. 第69地点2号集石遺構検出状況



49. 第69地点2号集石遺構底面検出状況



50. 第69地点1号土壇検出状況



51. 第69地点遺構分布状況 (真上より)



52. 第69地点1号住居跡検出状況



53. 第69地点2号住居跡検出状況



54. 第74地点掘立柱建物跡検出状況



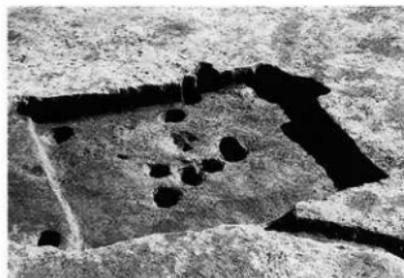
55. 第74地点住居跡検出状況



56. 第81地点遺構掘削前状況



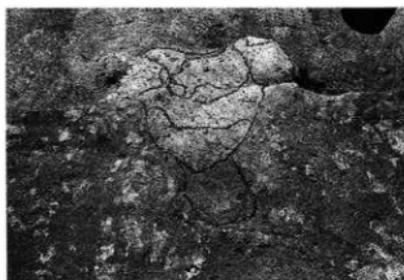
57. 第81地点1号住居跡検出状況



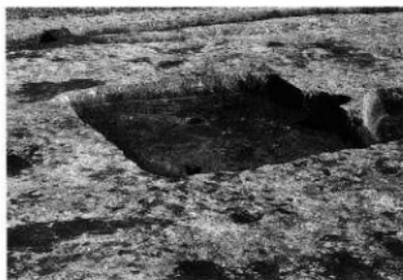
58. 第81地点2号住居跡検出状況



59. 第81地点3・4号住居跡検出状況



60. 第81地点3号住居跡カマド検出状況



61. 第81地点5号住居跡検出状況



62. 第81地点6～8号住居跡検出状況①



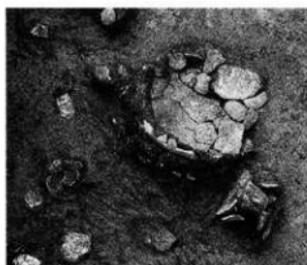
63. 第81地点6～8号住居跡検出状況②



64. 6号住居跡遺物出土状況



65. 7号住居跡遺物出土状況①



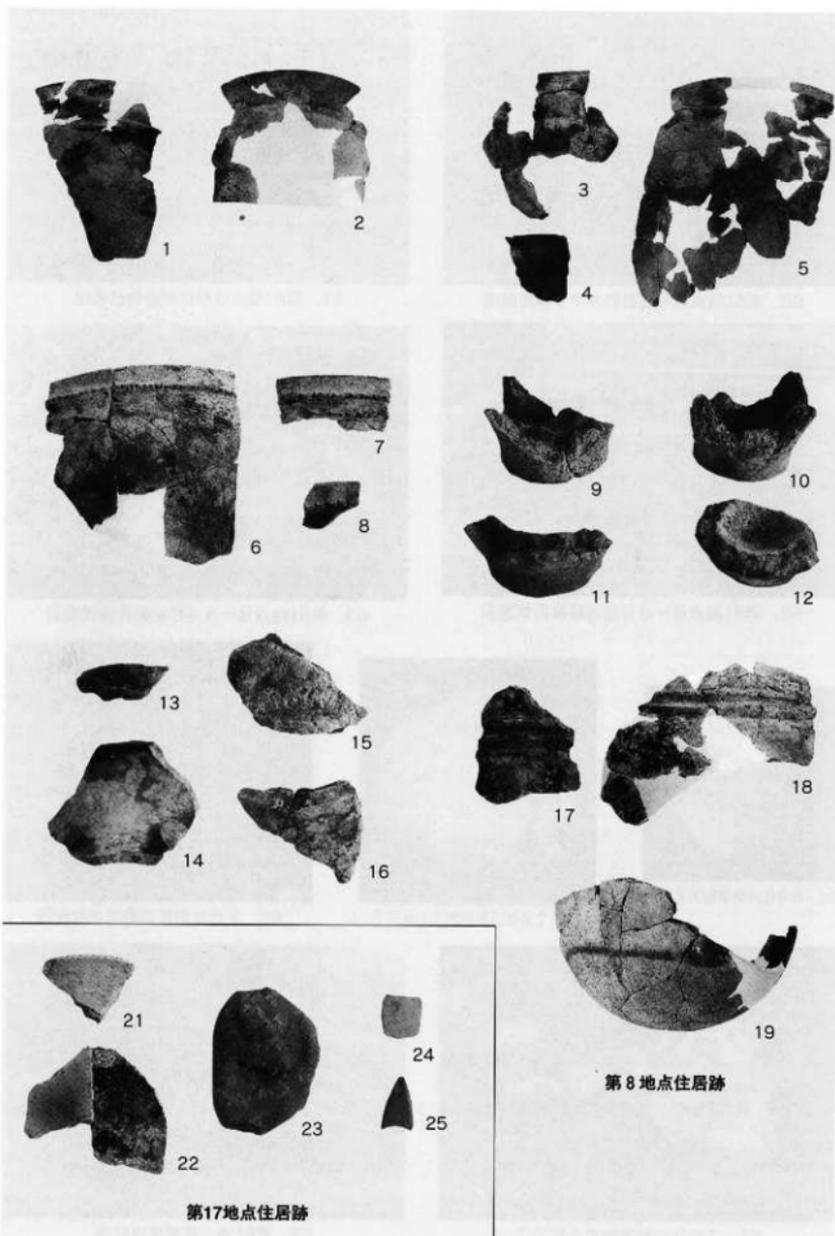
66. 7号住居跡遺物出土状況②

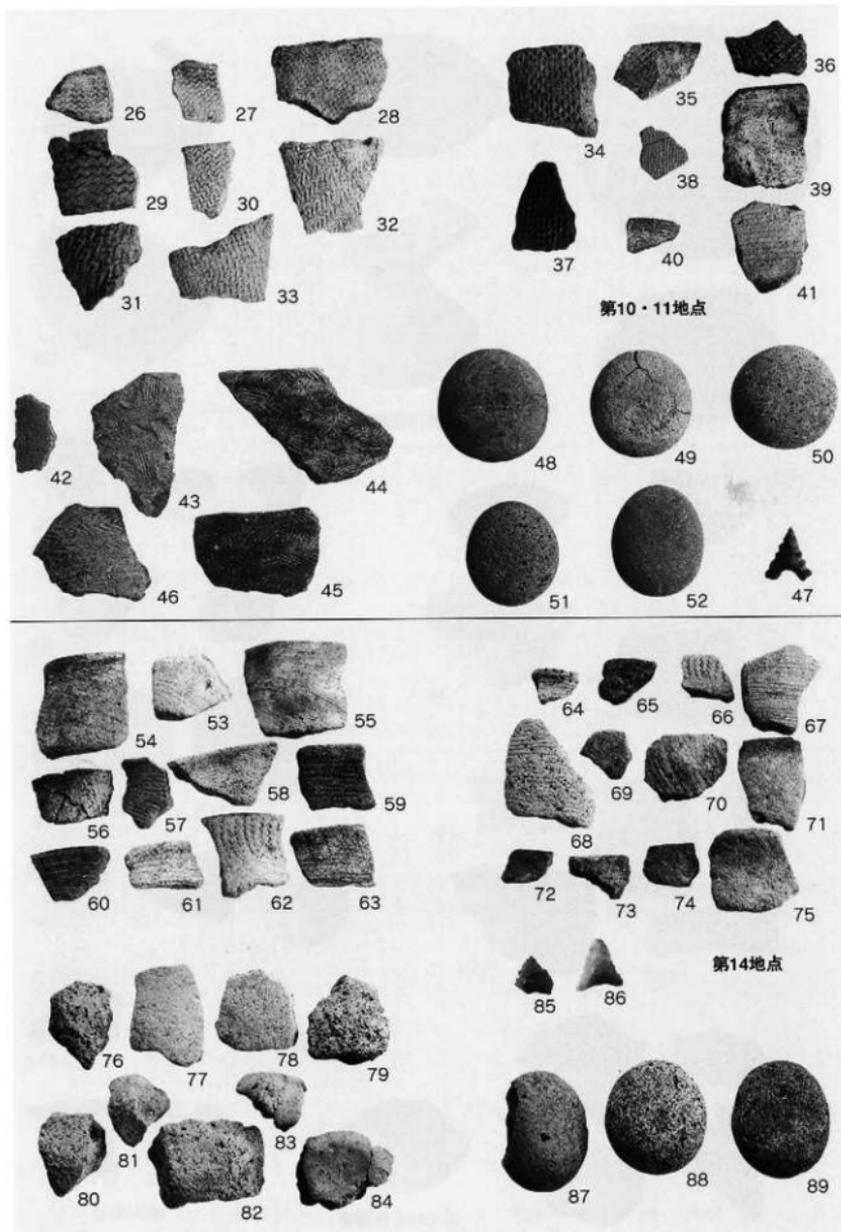


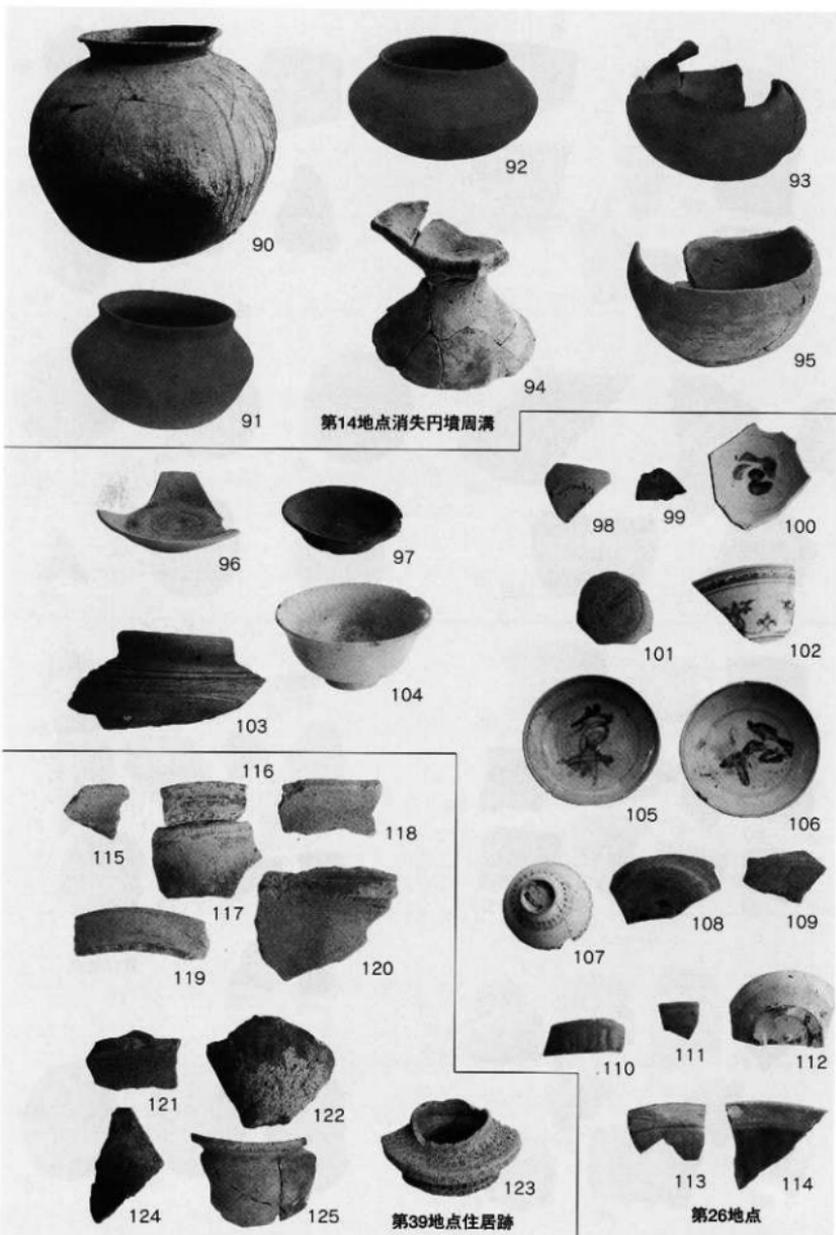
67. 7号住居跡遺物出土状況③



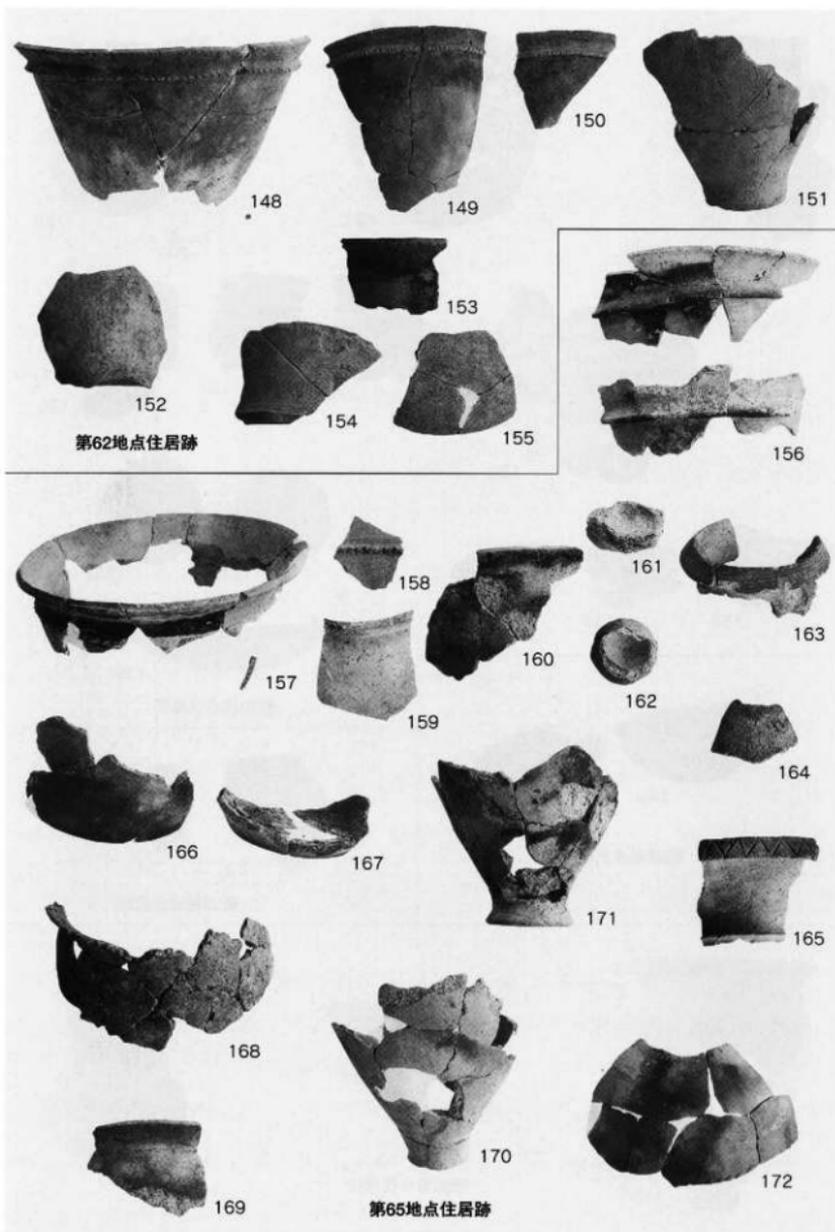
68. 第81地点遺構検出状況





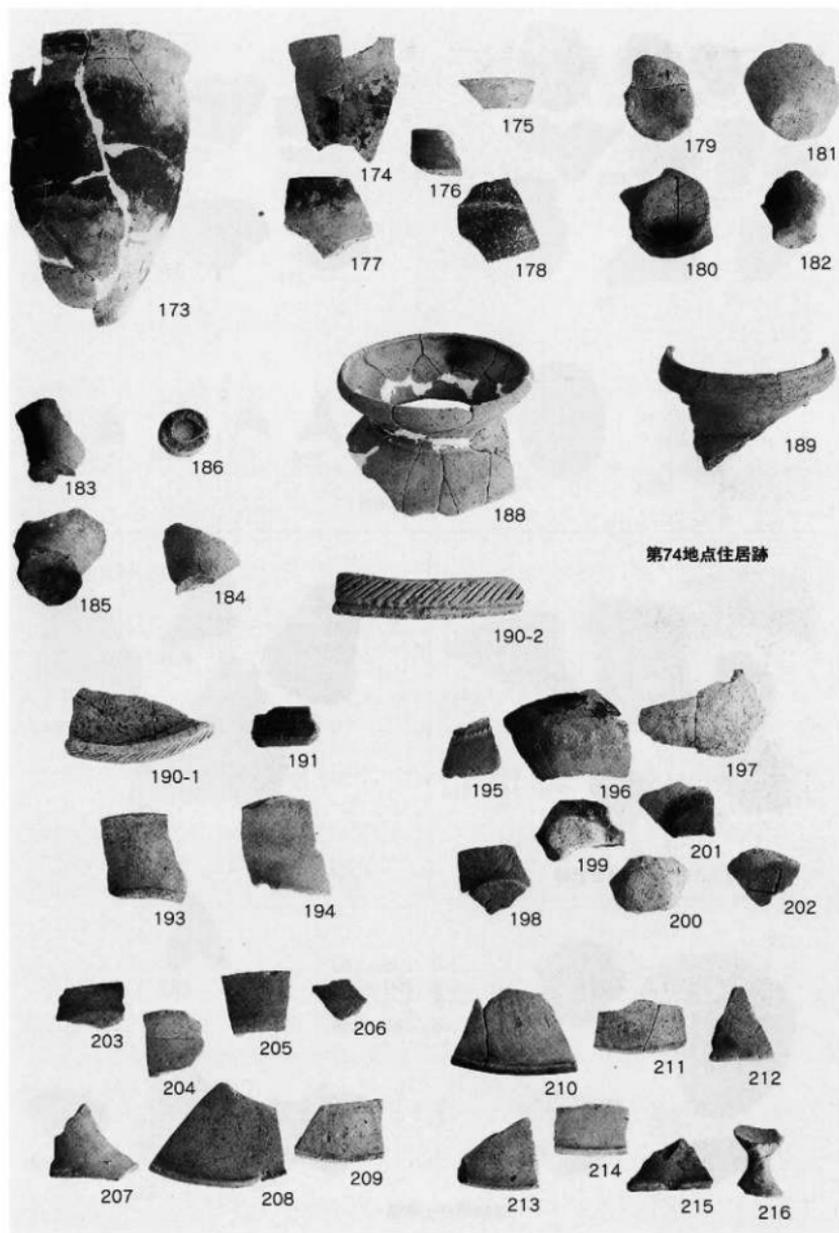


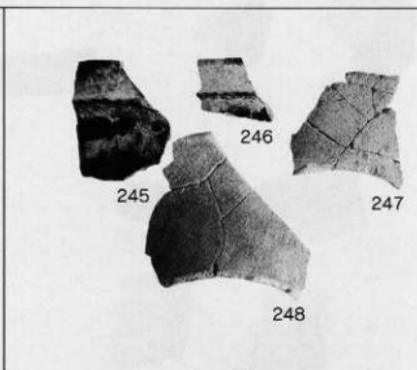
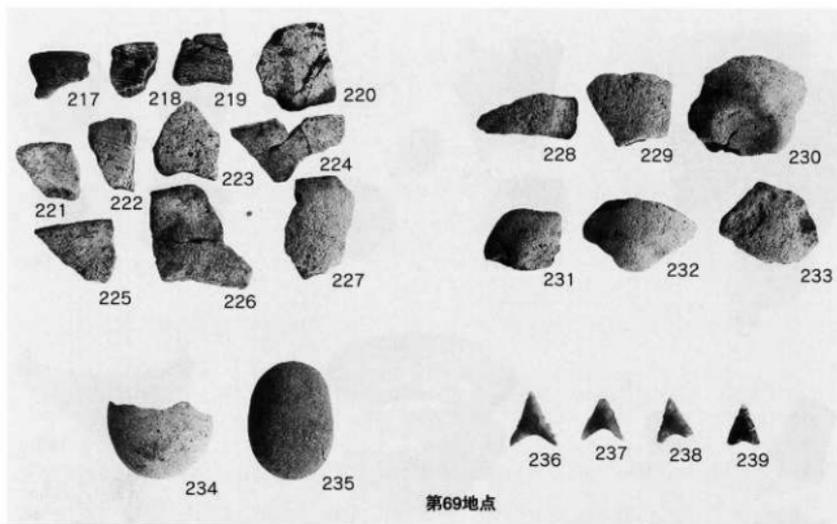


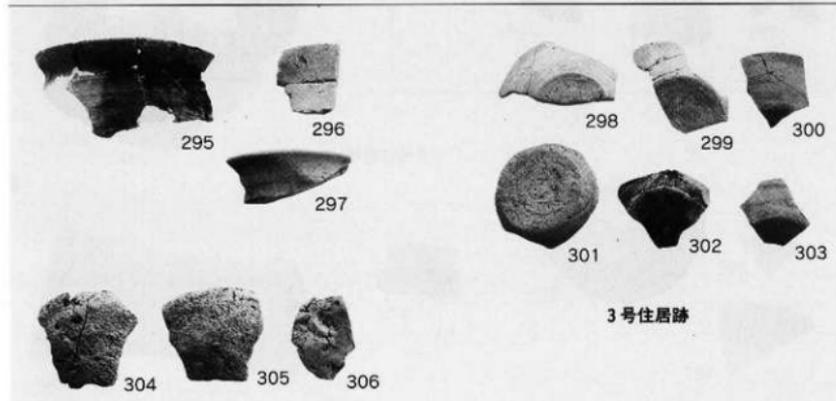
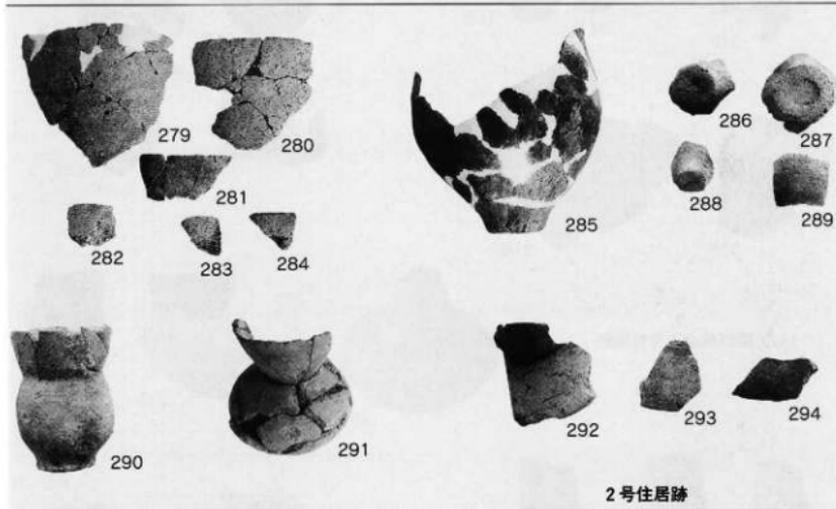


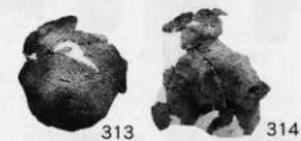
第62地点住居跡

第65地点住居跡





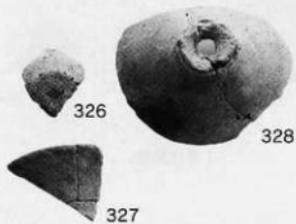




第81地点4号住居跡



5号住居跡









380-1



381-1

墨書土器

1号住居跡



380-2

第81地点



381-2

## 報告書抄録

ふりがな	さいとばるちくいせき						
書名	西都原地区遺跡Ⅱ						
副書名	農業基盤改良事業（たばこ耕作天地返し）に伴う埋蔵文化財発掘調査〔市内遺跡発掘調査事業〕						
巻次	第1集						
シリーズ名	西都市埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ番号	第44集						
編著者名	箕方政茂						
編集機関	西都市教育委員会						
所在地	〒881-8501 宮崎県西都市聖陵町2丁目1番地 TEL 0983-43-1111						
発行年月日	西暦 2006年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯	東 経	調査期間	調査面積 (㎡)
		市町村	遺跡番号				
さいとばるちくいせき 西都原地区遺跡	みやざきけんさいとし 宮崎県西都市 おおさきみやざきてらびらわき 大字三宅字寺原臨 他	45208	1026	32° 06' 35"	131° 22' 44"	19980804	70,600
			5	5	5	5	
			1029	32° 06' 35"	131° 23' 15"	20040117	
調査原因	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
たばこ耕作天地返しに伴う調査	集落古墳	縄文 と 中世	集石遺構・焼礫群 竪穴式住居跡・土壇墓 消失円墳周溝・土坑 掘立柱建物跡・柱穴群 溝状遺構	縄文土器・弥生土器 土師器・須恵器・陶磁器 輸入磁器（青磁・白磁） 石器（石鏃・礫石等）			

---

---

『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書』第44集

「西都原地区遺跡Ⅱ」

平成18年3月31日発行

編集発行 西都市教育委員会

印刷所 (株)河野印刷所

---

---

